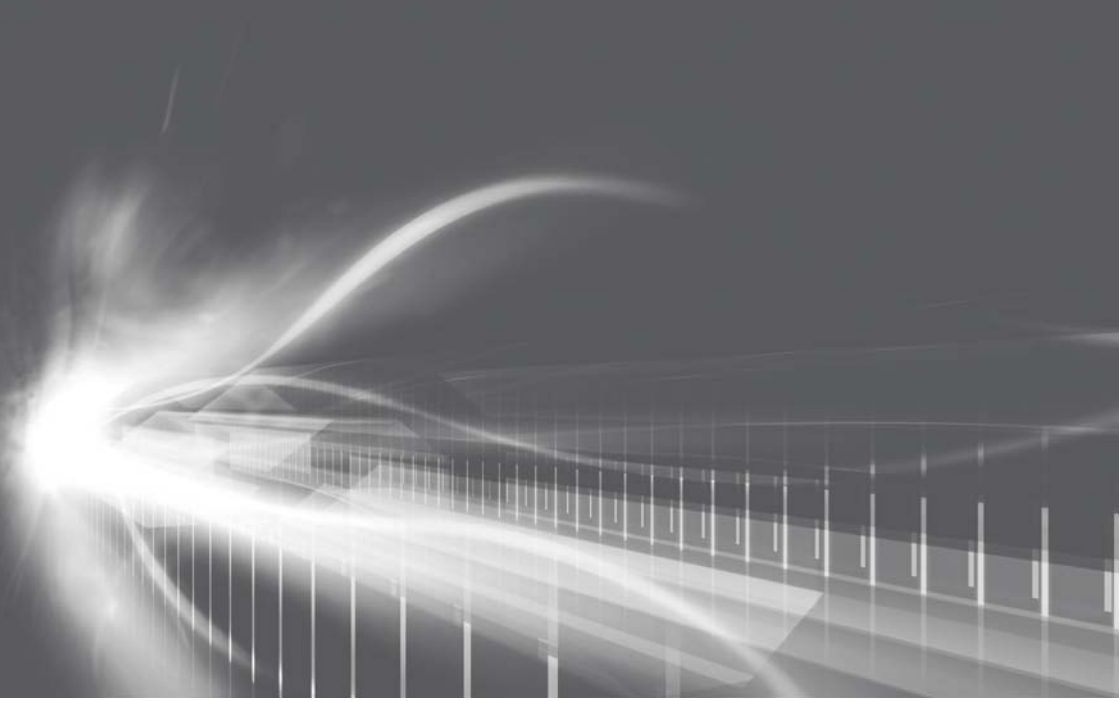


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SIENTA

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 33
排気ガスに対する注意 40

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 41
チャイルドシート 42

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 70
ハイブリッドシステムの注意 74

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 79

2 メーターの見方

2. メーターの見方
警告灯／表示灯 82
計器類 86
マルチインフォメーションディスプレイ 90

3 各部の操作

3-1. キー
キー 104

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 109
スライドドア 115
バックドア 131
スマートエントリー＆スタートシステム 137

3-3. シートの調整
フロントシート 143
セカンドシート 144
サードシート 150
ヘッドレスト 152
シートアレンジ 156

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 165
インナーミラー 167
ドアミラー 169

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 172

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって.....178
荷物を積むときの注意.....188

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）.....189
パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）.....193
EV ドライブモード.....199
トランスミッション.....201
方向指示レバー.....205
パーキングブレーキ.....206

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....207
フォグランプスイッチ.....211
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....212
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....214

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....216

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense.....219
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....225
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）.....237
オートマチックハイビーム.....243
先行車発進告知機能.....247

4-6. 運転支援装置について

クルーズコントロール.....249
運転を補助する装置.....253
クリアランスソナー.....259
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....268
パノラミックビューモニター.....280

4-7. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス.....310
寒冷時の運転.....312

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン.....316
ステアリングヒーター／シートヒーター.....324

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....327
・パーソナルランプ／フロントルームランプ.....328
・リヤルームランプ.....328

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....330
・グローブボックス.....331
・助手席アッパーボックス.....331
・カップホルダー／ボトルホルダー.....332
・ドアポケット.....334
ラゲージルーム内装備.....335

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 339
・サンバイザー.....339
・バニティミラー.....339
・アクセサリーソケット 340
・充電用 USB 端子 341
・アクセサリーコンセント 343
・買い物フック.....350
・アシストグリップ.....351
・時計 352
・アームレスト.....353
・ステアリングスイッチ 354

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....356
内装の手入れ.....360

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....363
ガレージジャッキ.....366
ウォッシャー液の補充 367
タイヤについて.....368
タイヤの交換.....372
タイヤ空気圧について 382
エアコンフィルターの交換....384
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃 387
ワイパーゴムの交換 390
キーの電池交換.....395
ヒューズの点検・交換 398
電球（バルブ）の交換 401

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 418
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 419
発炎筒 420
車両を緊急停止するには..... 422
水没したときは 424

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 425
警告灯がついたときは 432
警告メッセージが表示されたときは..... 437
パンクしたときは 443
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 460
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）..... 462
補機バッテリーがあがったときは 464
オーバーヒートしたときは ... 472
スタックしたときは 477

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....480

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.....484

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 491

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....494

車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....498

アルファベット順さくいん.....500

五十音順さくいん 502

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

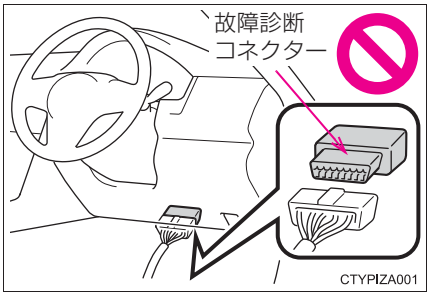
不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

・エンジン回転数 / 電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システム（ABS、プリクラッシュセーフティ★など）の作動状況
・前方カメラの画像情報★

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- クルーズコントロール★
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense★

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

本書の見方

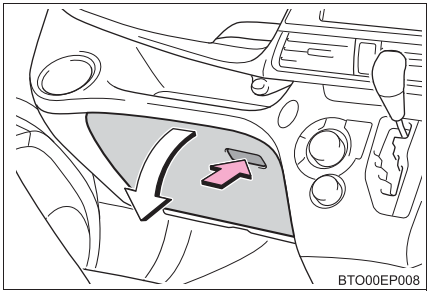
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

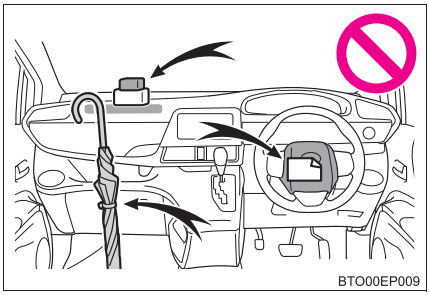
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

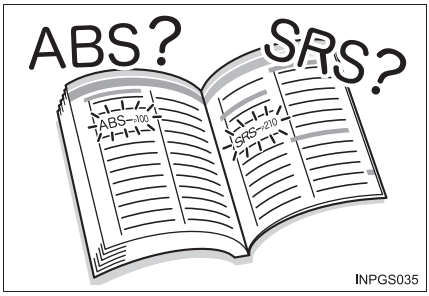


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

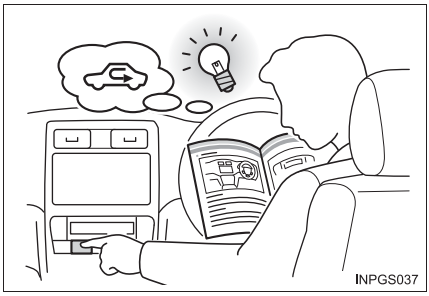
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....502
・アルファベット順
さくいん.....500



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

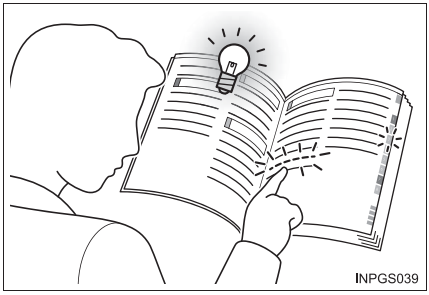


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....494
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....498

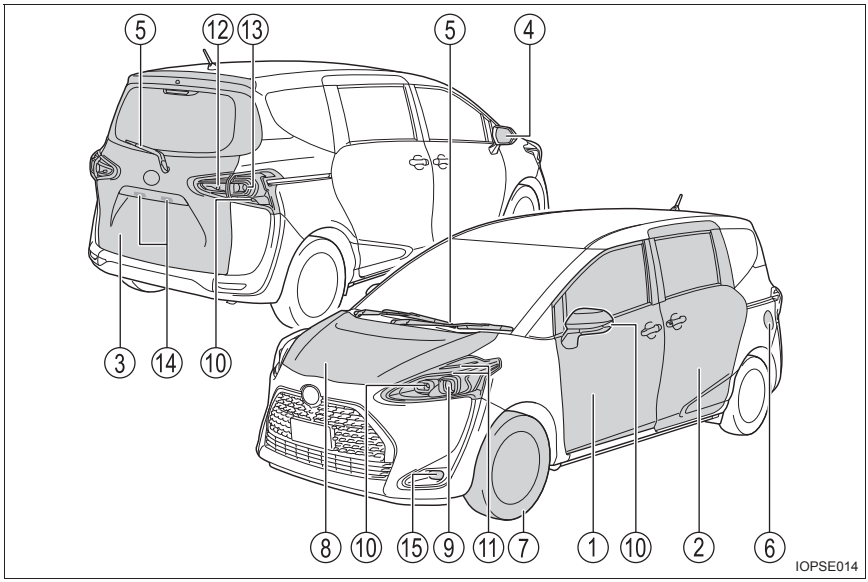
■ タイトルから探す

・目次.....2



イラスト目次

■ 外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。（→ P. 401）

① **フロントドア . . . . . P. 109**

施錠／解錠 . . . . . P. 109, 111

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 172

キーでの施錠／解錠★ . . . . . P. 110, 462

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 434

② **スライドドア . . . . . P. 115**

施錠／解錠 . . . . . P. 115

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 172

スライドドアの開閉 . . . . . P. 118

パワースライドドア . . . . . P. 116

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 434

③ **バックドア . . . . . P. 131**

施錠／解錠 . . . . . P. 131

開け方／閉め方 . . . . . P. 132

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 434

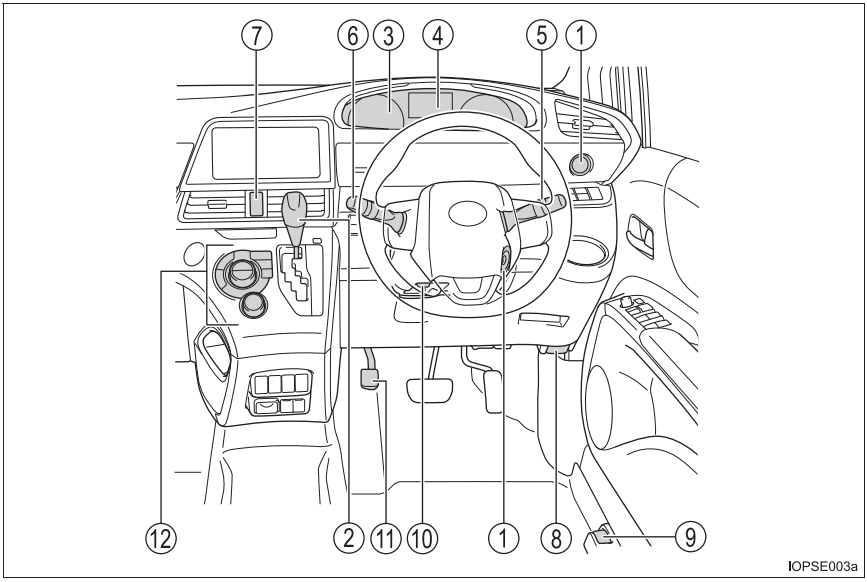
④ **ドアミラー** . . . . . **P. 169**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 169
ミラーの格納 . . . . . P. 170
⑤ **ワイパー** . . . . . **P. 212, 214**
冬季の注意 . . . . . P. 313
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 318
⑥ **給油口** . . . . . **P. 216**
給油方法 . . . . . P. 216
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 216, 480
⑦ **タイヤ** . . . . . **P. 368**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 483
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 313
点検・ローテーション . . . . . P. 368
パンク時の対処 . . . . . P. 443
⑧ **ボンネット** . . . . . **P. 363**
開け方 . . . . . P. 363
エンジンオイル . . . . . P. 480
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 472

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 401, ワット数：P. 483）

⑨ **ヘッドランプ** . . . . . **P. 207**
⑩ **方向指示灯** . . . . . **P. 205**
⑪ **車幅灯** . . . . . **P. 207**
⑫ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 201
⑬ **尾灯** . . . . . **P. 207**
⑭ **番号灯** . . . . . **P. 207**
⑮ **フォグランプ★** . . . . . **P. 211**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



① **パワースイッチ . . . . . P. 189, 193**

ハイブリッドシステムの始動・
位置またはスイッチの切りかえ . . . . . P. 189, 193

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 422

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 460

警告メッセージ . . . . . P. 107

② **シフトレバー . . . . . P. 201**

シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 201

けん引時の注意 . . . . . P. 425

シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 203

③ **メーター . . . . . P. 86**

見方・明るさの調整 . . . . . P. 86, 87

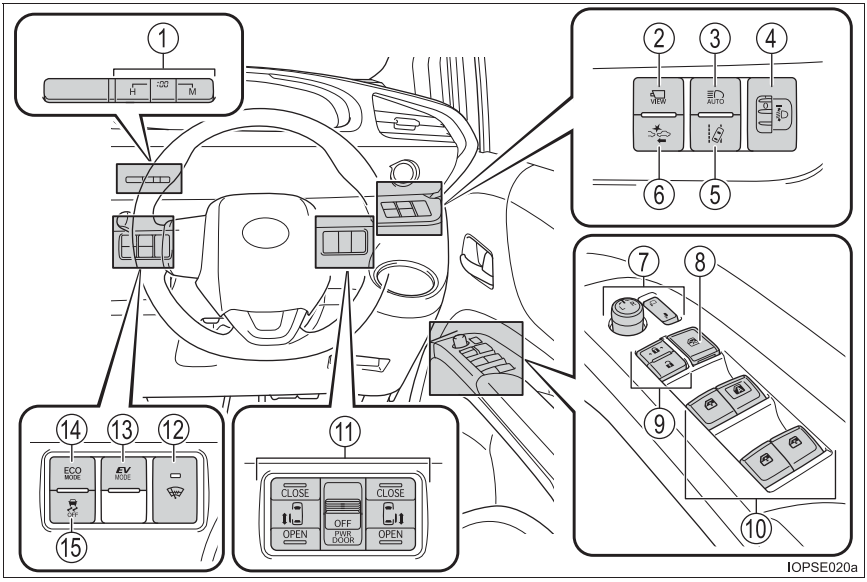
警告灯／表示灯 . . . . . P. 82

警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 432

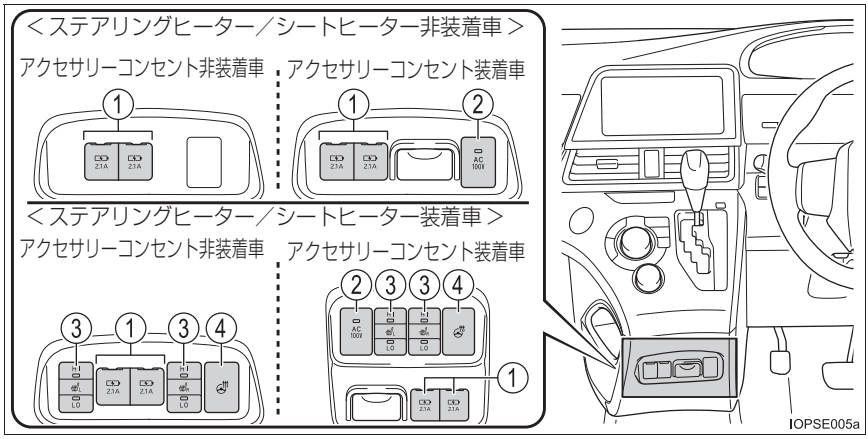
④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 90**
表示内容 . . . . . P. 90
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 437
⑤ **方向指示レバー . . . . . P. 205**
ランプスイッチ . . . . . P. 207
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯 . . . . . P. 207
フォグランプ★ . . . . . P. 211
⑥ **ワイパー&ウォッシャースイッチ（フロント） . . . . . P. 212**
ワイパー&ウォッシャースイッチ（リヤ） . . . . . P. 214
使い方 . . . . . P. 212, 214
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 367
⑦ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 419**
⑧ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 363**
⑨ **給油口オープナー . . . . . P. 218**
⑩ **ハンドル位置調整レバー . . . . . P. 165**
⑪ **パーキングブレーキ . . . . . P. 206**
かける・解除する . . . . . P. 206
冬季の注意 . . . . . P. 313
警告ブザー . . . . . P. 434
⑫ **オートエアコン . . . . . P. 316**
操作方法 . . . . . P. 316
リヤウインドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー） . . . . . P. 318

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類

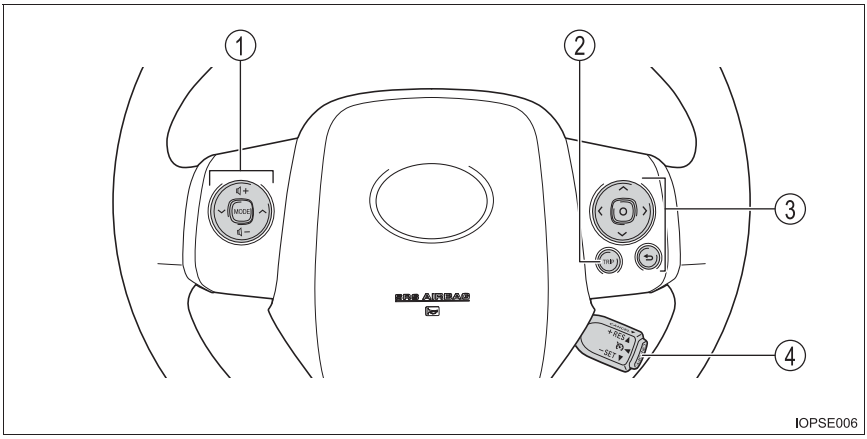


① 時刻調整スイッチ . . . . . P. 352
② パノラミックビューモニターメインスイッチ★ . . . . . P. 281
③ オートマチックハイビームスイッチ★ . . . . . P. 243
④ 手動光軸調整ダイヤル★ . . . . . P. 208
⑤ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ★. . . . . P. 238
⑥ PCS（プリクラッシュセーフティ）スイッチ★ . . . . . P. 229
⑦ ドアミラースイッチ . . . . . P. 169
⑧ ウインドウロックスイッチ . . . . . P. 172
⑨ ドアロックスイッチ . . . . . P. 111
⑩ パワーウインドウスイッチ . . . . . P. 172
⑪ パワースライドドアスイッチ. . . . . P. 118, 119
⑫ ウインドシールドデアイサースイッチ★ . . . . . P. 318
⑬ EV ドライブモードスイッチ . . . . . P. 199
⑭ エコドライブモードスイッチ. . . . . P. 202
⑮ VSC OFF スイッチ . . . . . P. 254



① 充電用 USB 端子 . . . . . .P. 341
② アクセサリーコンセントメインスイッチ★. . . . . .P. 343
③ シートヒータースイッチ★. . . . . .P. 326
④ ステアリングヒータースイッチ★. . . . . .P. 325

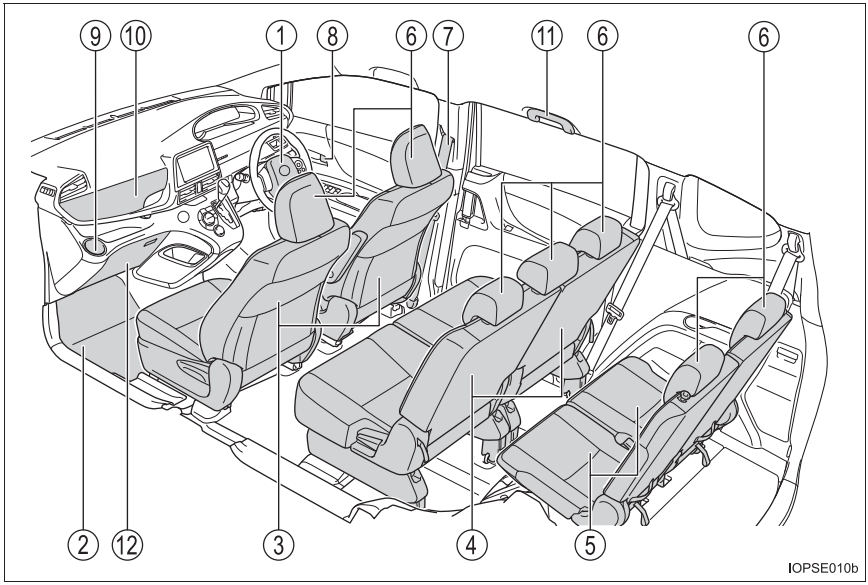
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



IOPSE006

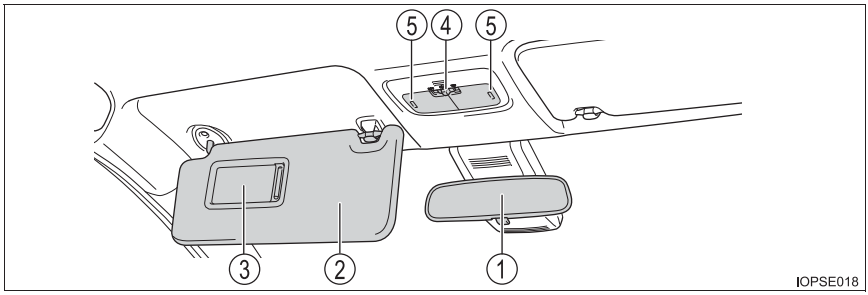
① オーディオ操作スイッチ★.....P. 354
② TRIP スイッチ .....P. 87
③ メーター操作スイッチ.....P. 91
④ クルーズコントロールスイッチ★.....P. 249

■ 室内



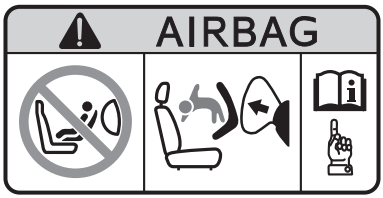
① SRS エアバッグ . . . . . P. 33
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 143
④ セカンドシート . . . . . P. 144
⑤ サードシート★ . . . . . P. 150
⑥ ヘッドレスト . . . . . P. 152
⑦ シートベルト . . . . . P. 26
⑧ ロックレバー . . . . . P. 112
⑨ カップホルダー . . . . . P. 332
⑩ 助手席アッパーボックス . . . . . P. 331
⑪ アシストグリップ . . . . . P. 351
⑫ グローブボックス . . . . . P. 331

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① インナーミラー . . . . . P. 167
② サンバイザー ※1 . . . . . P. 339
③ バニティミラー . . . . . P. 339
④ フロントルームランプスイッチ . . . . . P. 328
⑤ パーソナルランプ／フロントルームランプ ※2 . . . . . P. 328

※1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 45）



※2 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために 24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....33
排気ガスに対する注意.....40
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 41
チャイルドシート.....42
1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 70
ハイブリッドシステムの注意 74
1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 79

運転する前に

点検整備

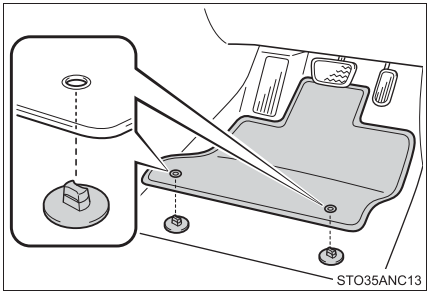
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

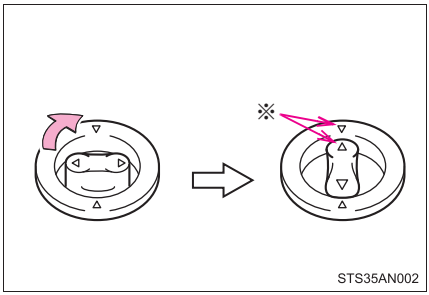
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

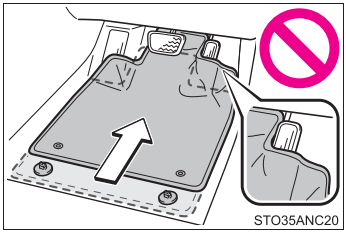
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

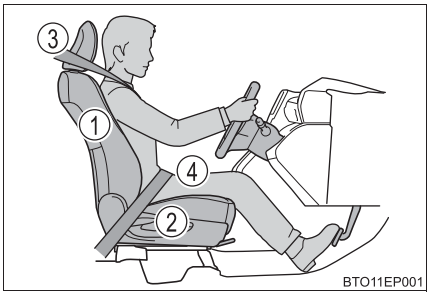
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する


STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 143）

② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 143）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 152）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 167, 169）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

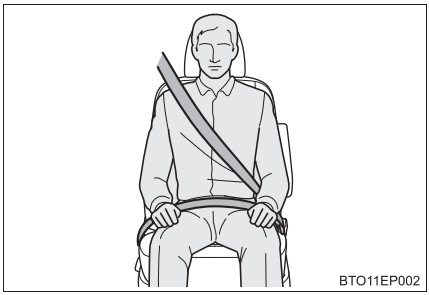
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

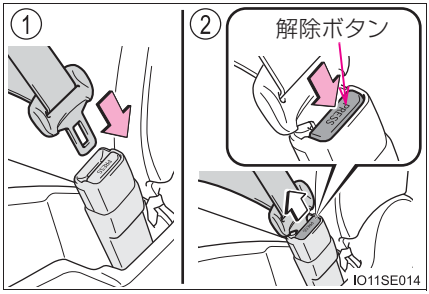
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（セカンドシート中央席を除く）

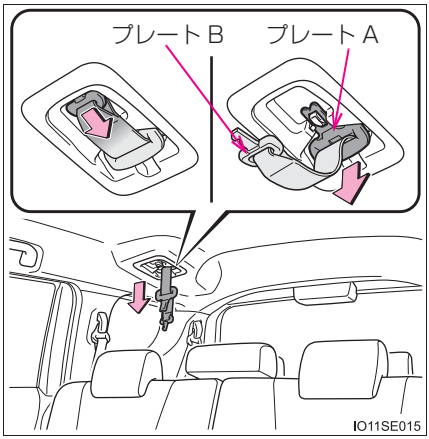
① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



着け方（セカンドシート中央席）

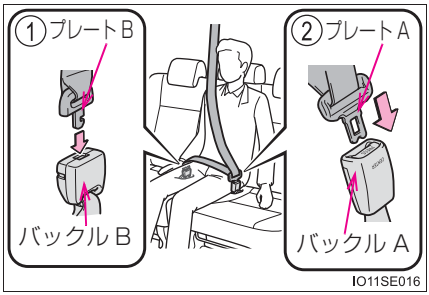
1 プレートを取り出す



2 ベルトを固定するには、プレート B、プレート A の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

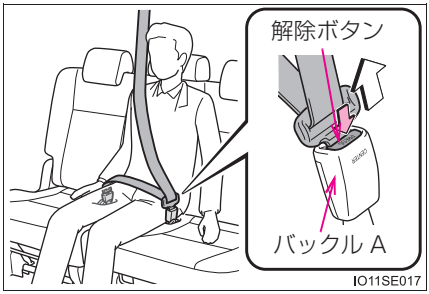
① プレート B、バックル B

② プレート A、バックル A



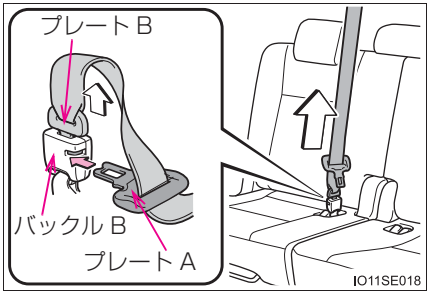
はずし方・格納の仕方（セカンドシート中央席）

1 バックル A の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



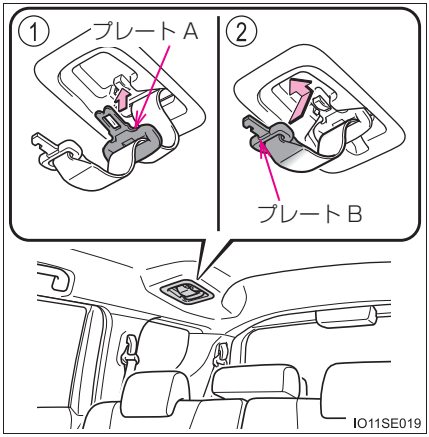
2 プレート A をバックル B に挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



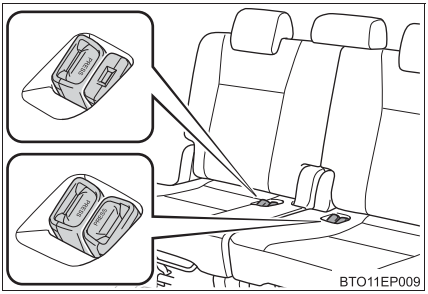
3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

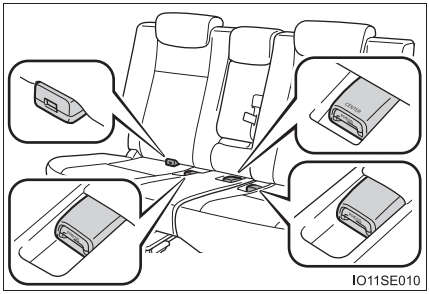


4 バックルを格納する

▶ 7 人乗り車



▶ 5 人乗り車

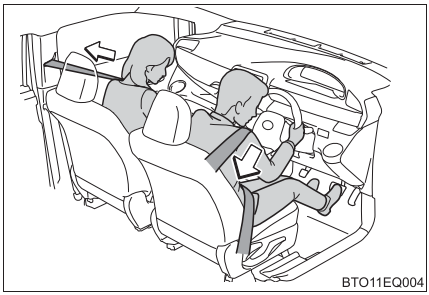


シートベルトプリテンショナー（フロントシート・セカンドシート左右席★）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ非装着車

前方から強い衝撃を受けたときや、横転したときにシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

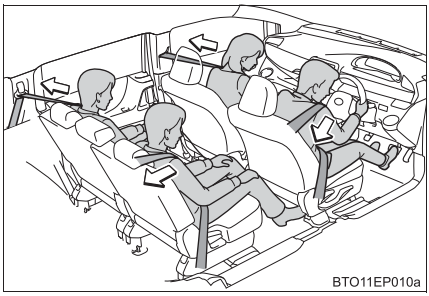
前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは通常は作動しません。


BTO11EQ004

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車

前方・側方から強い衝撃を受けたときや、横転したときにシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃のときは通常は作動しません。


BTO11EP010a

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

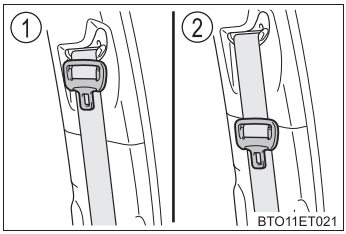
■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

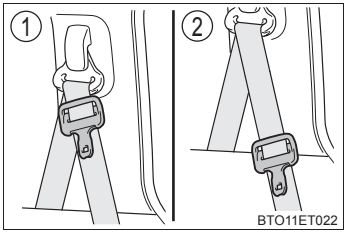
■シートベルトを使用したあとは（助手席／セカンドシート外側席）

シートベルトをはずしたときはプレートが自動的に①の位置に戻りますが、②の位置にあるときは、手動で①の位置にもどしてください。走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

▶助手席



▶セカンドシート外側席

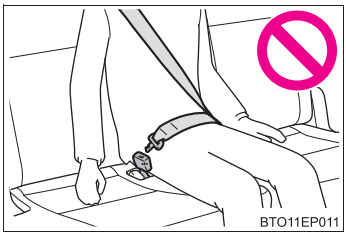


警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

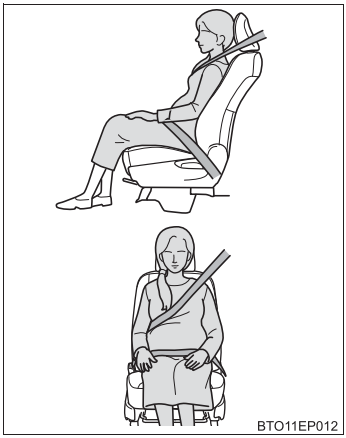
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシート★に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- セカンドシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する



■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）

■**お子さまを乗せるとき**

→ P. 43

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

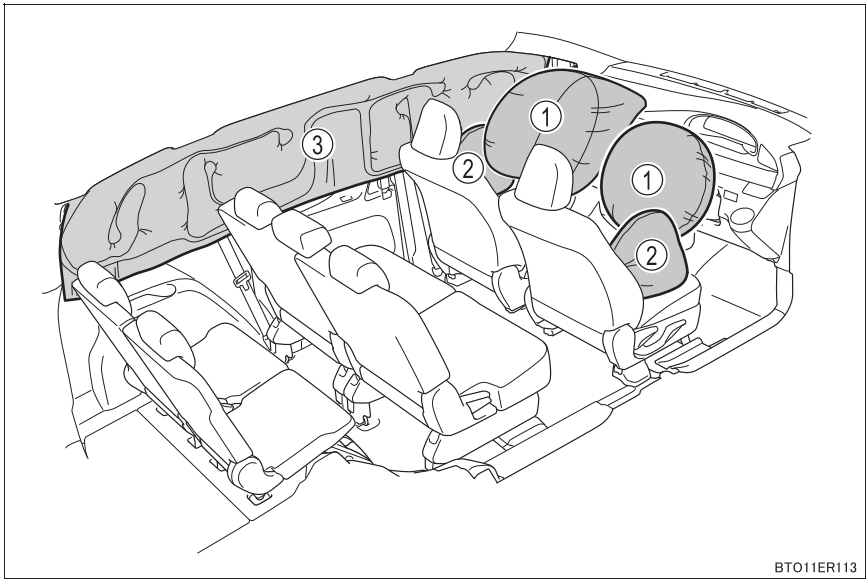
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

② SRS サイドエアバッグ★
（フロントシート乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ★
（フロントシートとセカンドシート･サードシート外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■SRS エアバッグについて

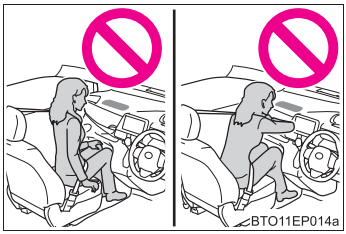
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

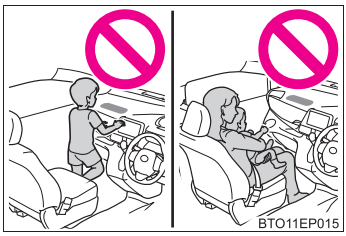
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシート★に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 42）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

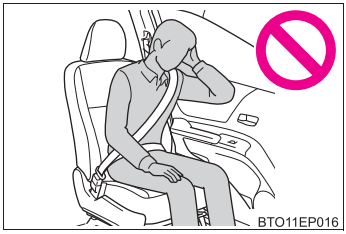


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

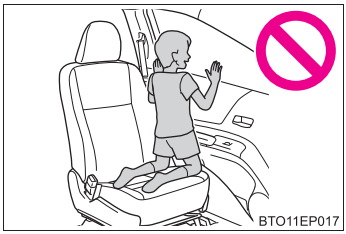
警告

■SRS エアバッグについて

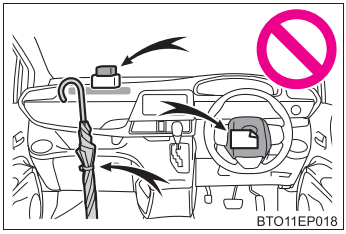
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



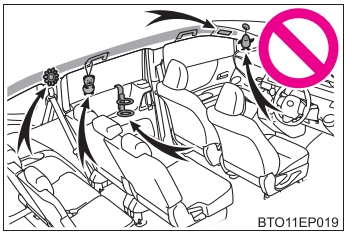
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード･ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P. 451）



警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロントシートなどだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロントシート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動します。

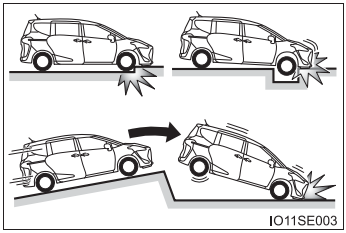
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロントSRSエアバッグ・SRSサイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



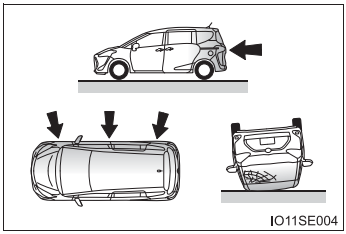
■SRSエアバッグが作動しないとき（フロントSRSエアバッグ）

フロントSRSエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロントSRSエアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

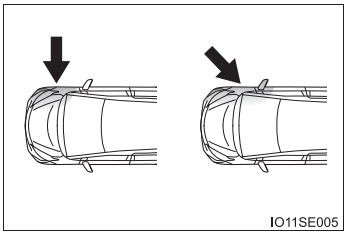


■SRSエアバッグが作動しないとき（SRSサイド&カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRSサイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

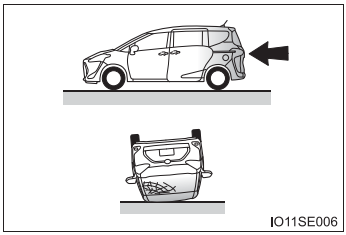
●斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

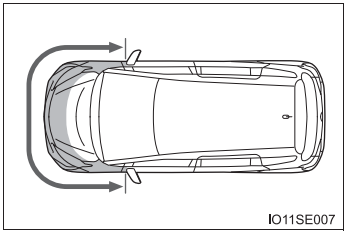


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

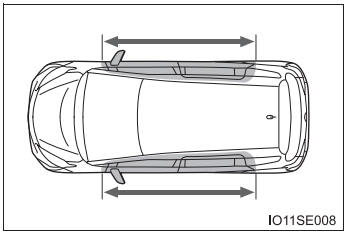
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

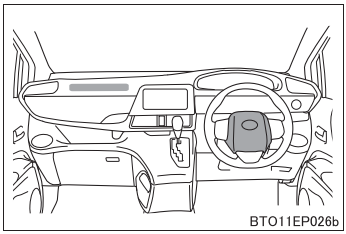
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


IO11SE007

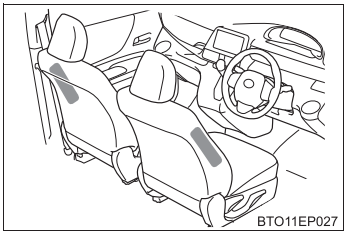
●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


IO11SE008

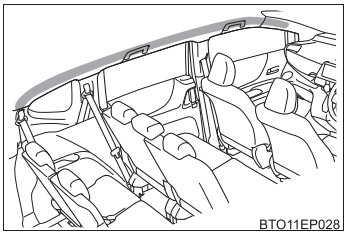
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11EP026b

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11EP027

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11EP028

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

- バックドアを閉じてください。
- バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはセカンドシートまたはサードシート★に乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 119）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 172）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 42 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシート★に取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと 42
チャイルドシートを使用するときは 44
シート位置別チャイルドシートの適合性について 47
チャイルドシートの取り付け方法 61
・シートベルトで固定する 62
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する 65
・トップテザーアンカレッジを使用する 68

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 47）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートまたはサードシート★に取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりセカンドシートまたはサードシート★に適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認ください。（→ P. 47）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

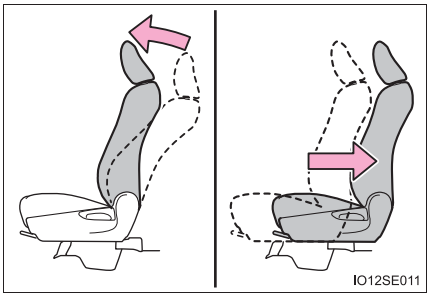
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシート★に取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。



- 背もたれを可能な限り起こす

  背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろにさげる
- シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整する
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす

  取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

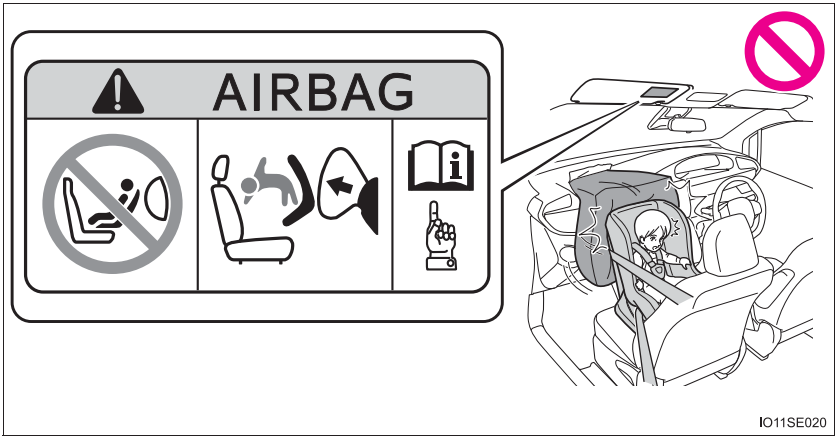
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

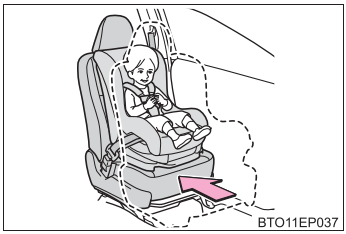
■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

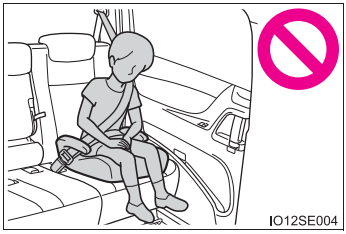


- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
  助手席SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

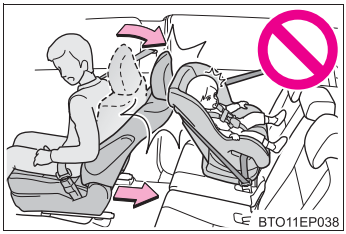
■チャイルドシートを使用するとき



●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシート★に取り付けてください。



●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 49）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 57）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

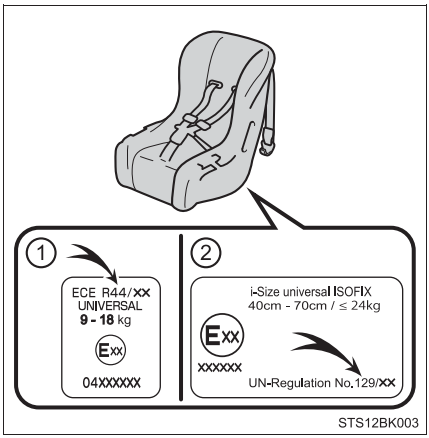
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN（ECE）R129 認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

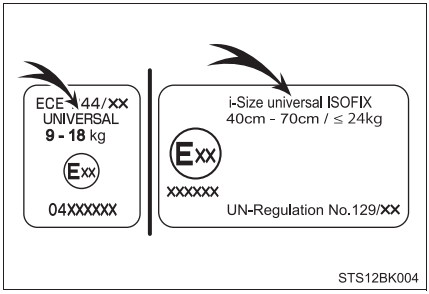
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

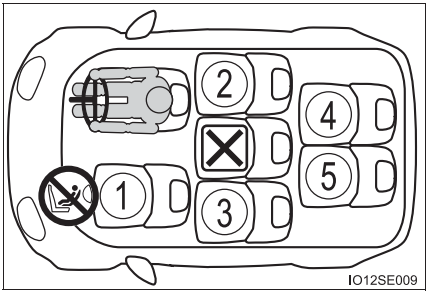
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universa（I 準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ 7 人乗り車



1 ※1, 2, 3	※4 U L
2 ※1, 2, 3	U L
3 ※1, 2, 3	U L
4 ※2, 3	L
5 ※2, 3	L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 57）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

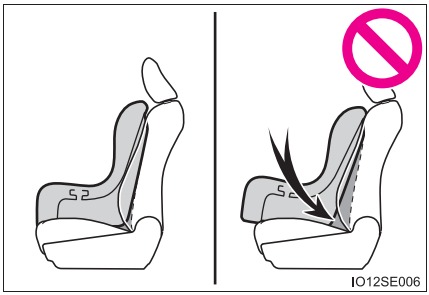
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 助手席：背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



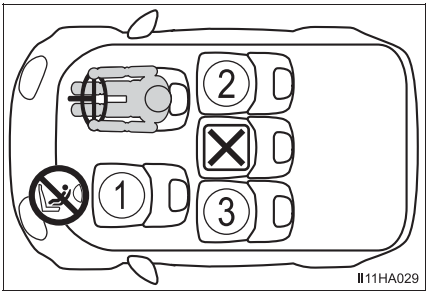
セカンドシート：背もたれを直立状態から 5 段目の位置に調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

サードシート：背もたれを直立状態から 2 段目の位置に調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

▶ 5 人乗り車



	※4
1 ※1, 2, 3	U L
2 ※1, 2, 3	U L
3 ※1, 2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 57）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

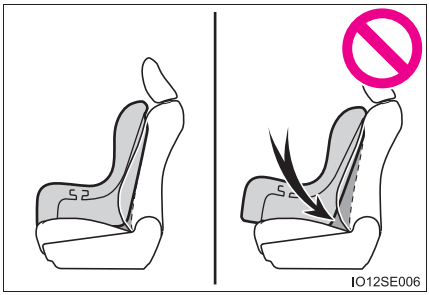
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 助手席：背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



セカンドシート：背もたれを直立状態から 8 段目の位置に調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

▶ 7 人乗り車

着座位置					
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有	無	無
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	有	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2, R2X, R3	R1, R2, R2X, R3	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	B2, B3	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

▶ 5 人乗り車

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2, R2X, R3	R1, R2, R2X, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

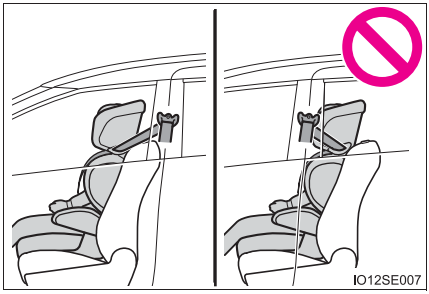
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

▶ 7 人乗り車

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置				
		①	②	③	④	⑤
0、0+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	×	×
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○	×	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○	○ 前向きのみ	○ 前向きのみ
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○	×	×
Ⅱ、Ⅲ（15 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- セカンドシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サードシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがセカンドシートと干渉しないようにセカンドシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



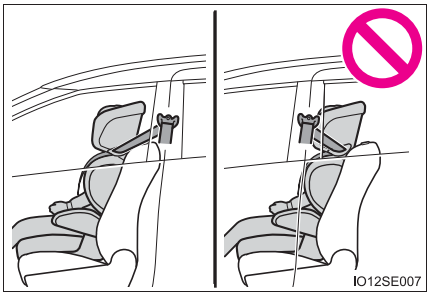
- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

▶ 5 人乗り車

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅱ、Ⅲ（15 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

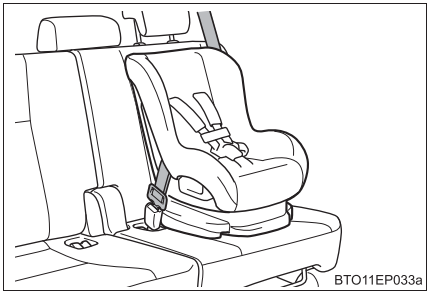
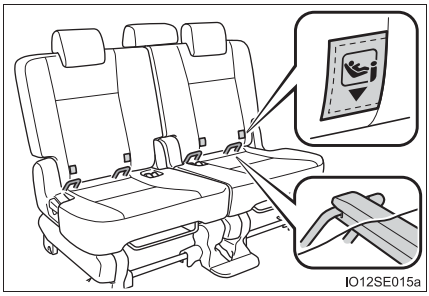
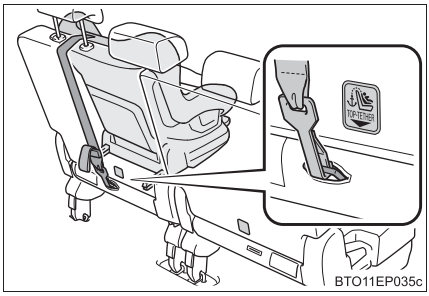
- セカンドシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	 BTO11EP033a	P. 62
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	 IO12SE015a	P. 65
テザーベルトを固定する	 BTO11EP035c	P. 68

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 48、49）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 44）

2 背もたれを調整する

▶ セカンドシート（7 人乗り車）

背もたれを直立状態から 5 段目の位置に調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

▶ セカンドシート（5 人乗り車）

背もたれを直立状態から 8 段目の位置に調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

▶ サードシート★

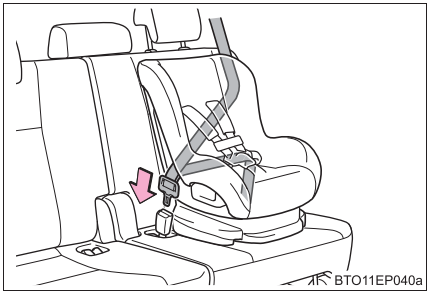
背もたれを直立状態から 2 段目の位置に調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。
（→ P. 153）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

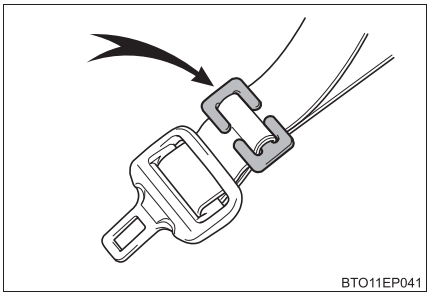
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 64）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

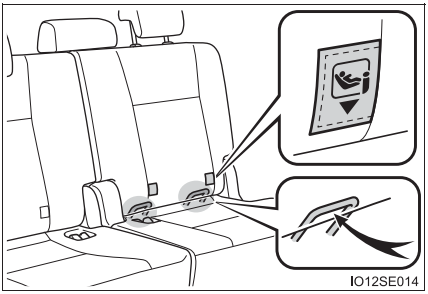
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

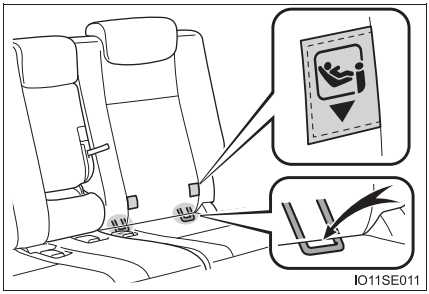
■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）

▶ 7 人乗り車



▶ 5 人乗り車



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 48、49）

1 背もたれを調整する

▶ 7 人乗り車

背もたれを直立状態から 5 段目の位置に調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

▶ 5 人乗り車

背もたれを直立状態から 8 段目の位置に調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。
（→ P. 153）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

▶ 7 人乗り車

▶ 5 人乗り車

4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 64）

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

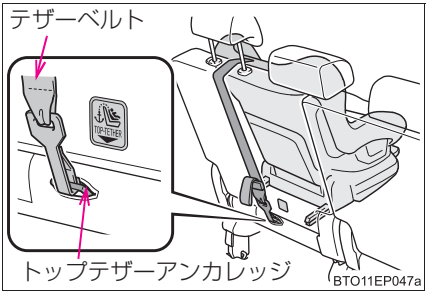
トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

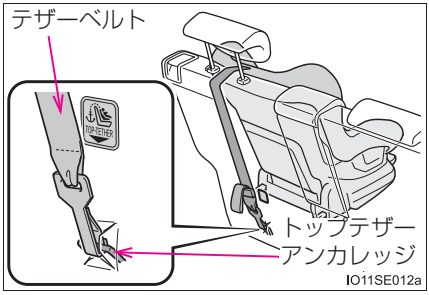
この車はセカンドシート外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

▶ 7人乗り車



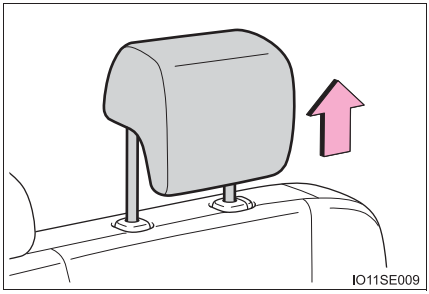
▶ 5人乗り車



■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください
(→P. 153)

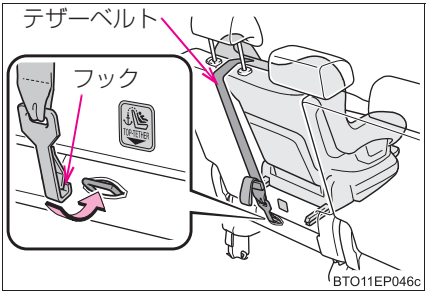


2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

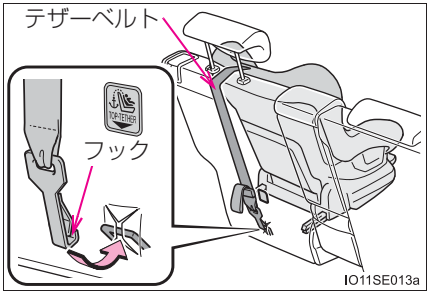
テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 64）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

▶ 7 人乗り車



▶ 5 人乗り車



⚠ 警告

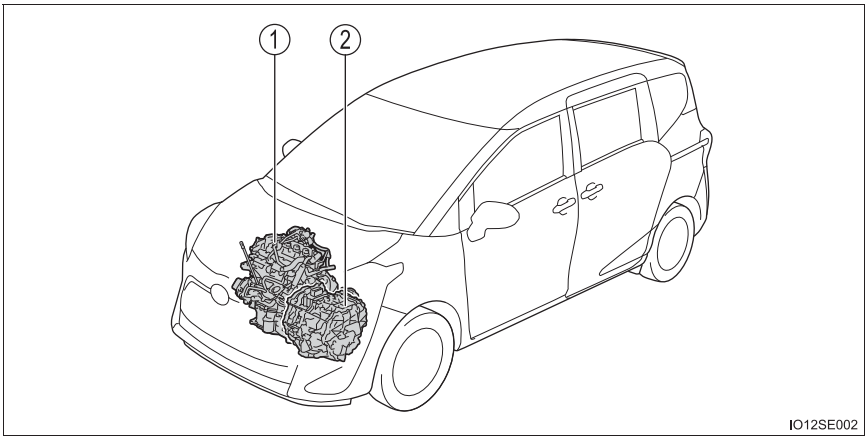
■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。
シフトレバーがＮにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 72）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

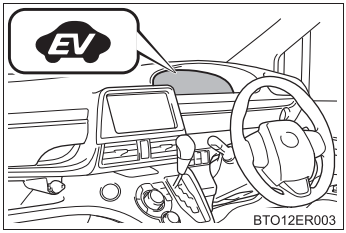
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているとき、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

●駆動用電池冷却用吸入口のフィルターにほこりがつまっているとき

・マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要取扱書を確認」が表示されているとき：→ P. 441

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 466

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるフロントシート下部および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時にフロントシート下部から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●助手席下部にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

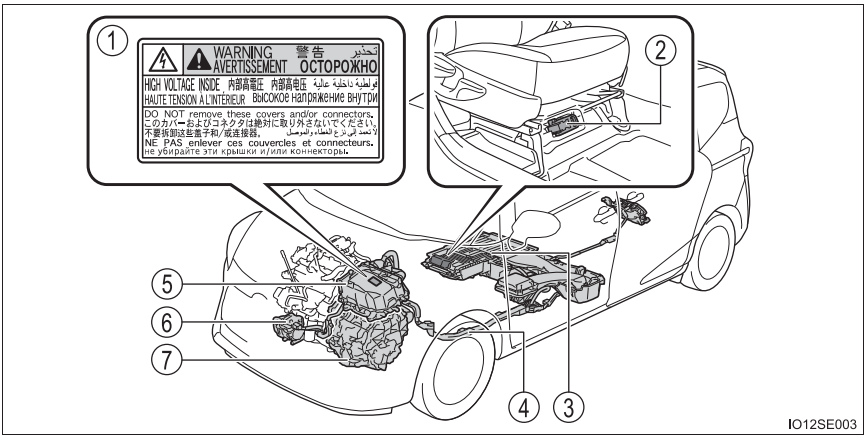
また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約520V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

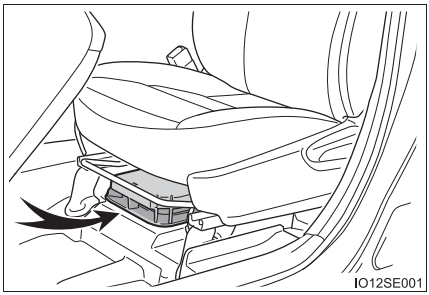


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② サービスプラグ
③ 駆動用電池
④ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑤ パワーコントロールユニット
⑥ エアコンコンプレッサー
⑦ 電気モーター

駆動用電池冷却用吸入口

助手席下部には駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因となります。



緊急停止システム

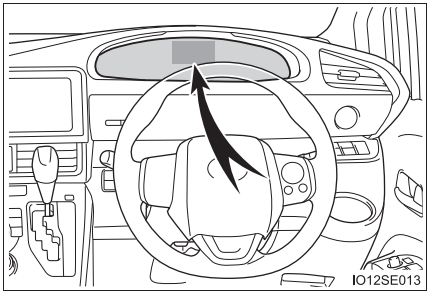
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 437）



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 433）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 6.3L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

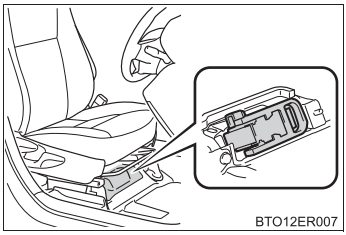
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
  駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 425）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
  この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に掃除機などで清掃してください。
（→ P. 387）

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要取扱書を確認」が表示されたときは、フィルターの目づまりが考えられます。フィルターの清掃をしてください。（→ P. 387）フィルターを清掃しても表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

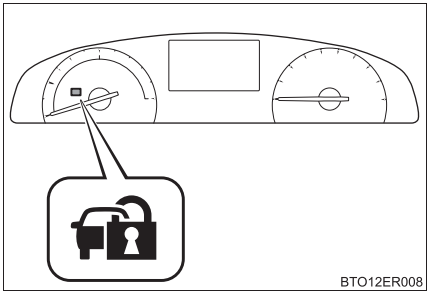
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチからキーを抜くと、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーをパワースイッチに挿し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■**イモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

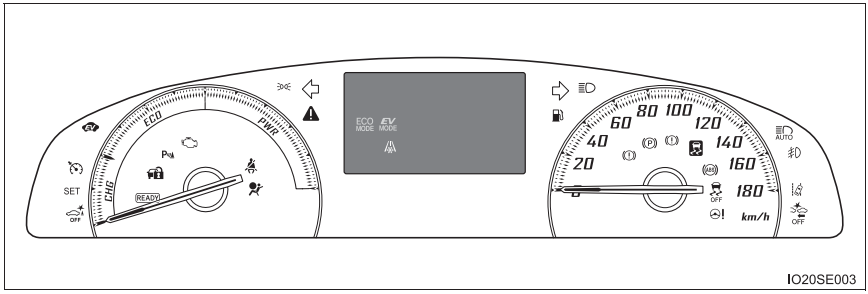
メーターの見方

2

2. メーターの見方
警告灯／表示灯.....82
計器類.....86
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....90

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯

システム異常などを警告します。

※1

ブレーキ警告灯
（→ P. 432）
（赤色）

※2

充電警告灯（→ P. 432）

※2

油圧警告灯
（→ P. 432）

※2

高水温警告灯
（→ P. 432）

※1

電子制御ブレーキ警告灯
（→ P. 432）
（黄色）

※1

エンジン警告灯
（→ P. 432）

※1

SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 432）

※1

ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯（→ P. 433）

※1

パワーステアリング警告灯
（→ P. 433）
（赤色／
黄色）

※2

ブレーキオーバーライドシ
ステム／ドライブスタート
コントロール警告灯
（→ P. 433）

※1

スリップ表示灯
（→ P. 433）

シートベルト非着用警告灯
（→ P. 433）

燃料残量警告灯
（→ P. 433）

※1

（点滅または点灯）

PCS 警告灯★ （→ P. 434）

パーキングブレーキ未解除警告灯 （→ P. 434）

※1

（点滅）

PKSB OFF 表示灯★
（→ P. 434）

※2

半ドア警告灯
（→ P. 434）

※1

マスターウォーニング
（→ P. 434）

※1 作動確認のためにパワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 205）

ハイビーム表示灯
（→ P. 207）

尾灯表示灯
（→ P. 207）

フォグランプ表示灯★
（→ P. 211）

LDA 表示灯★
（→ P. 237）

※1
VSC OFF 表示灯
（→ P. 255）

クルーズコントロール
表示灯★（→ P. 249）

SET
クルーズコントロール
セット表示灯★（→P. 249）

※2
EV ドライブモード表示灯
（→ P. 199）

※1、3
PCS 警告灯★（→ P. 225）

※1
PKSB OFF 表示灯★
（→ P. 269）

EV インジケーター
（→ P. 71）

※1
オートマチックハイビーム
表示灯★（→ P. 243）

READY インジケーター
（→ P. 189, 193）

※2
ECO MODE 表示灯
（→ P. 202）

セキュリティ表示灯
（→ P. 79）

※1
スリップ表示灯
（→ P. 254）
（点滅）

※2、4
低温表示灯（→ P. 86）

クリアランスソナー
表示灯★（→ P. 259）

※2
スマートエントリー &
スタートシステム表示灯
（→ P. 193）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを “ON” （スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

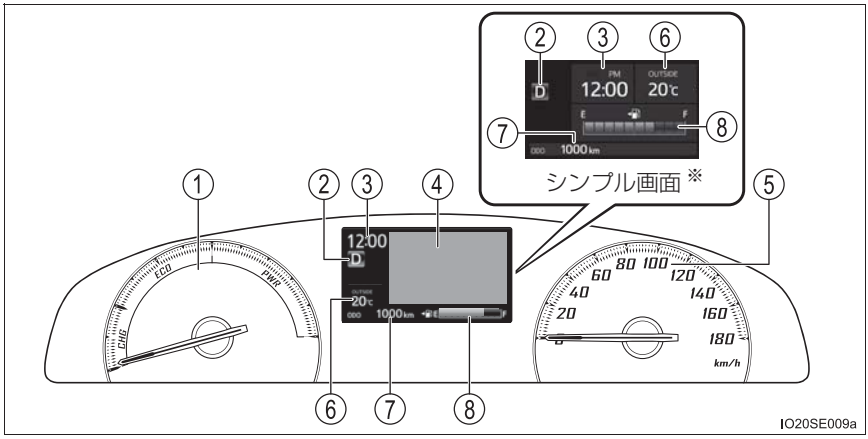
※4 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



① ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→ P. 89）

② シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 201）

③ 時計表示

時刻を表示します。（→ P. 352）

④ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 90）

システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。（→ P. 437）

⑤ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑥ 外気温表示

外気温度を -40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯（→ P. 84）が点灯します。

⑦ トリップインフォメーション

オドメーター：
走行した総距離を表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑧ 燃料計

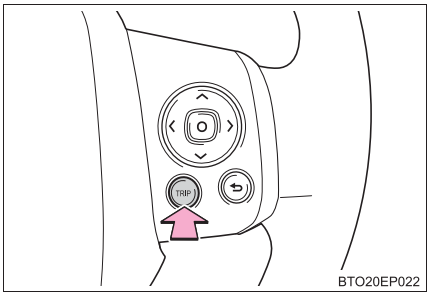
燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

※：シンプル画面への切りかえ（→ P. 93）

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。

車幅灯点灯時のメーターの明るさを調整できます。（→ P. 484）

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

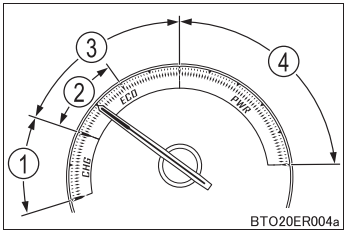
■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1. 車両を平坦な場所に停車させる
2. TRIP　スイッチを押して、オドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
3. パワースイッチを LOCK（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする
4. TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする
5. そのまま約 5 秒間 TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手を離す

   オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



① チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

●インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

⚠注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりにマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（→ P. 437）が表示されます。「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または、「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」と警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 472）

マルチインフォメーションディスプレイ

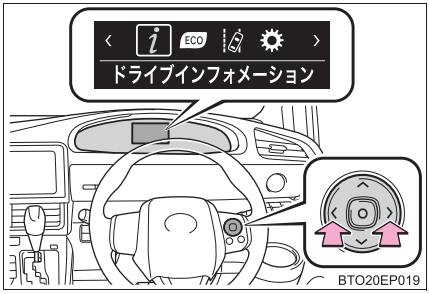
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。（→ P. 91）

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



メーター操作スイッチの ＜ または、＞ を押すごとにメニューアイコンが次のように選択できます。

ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 91）

ECO

燃費の情報などを表示します。（→ P. 94）

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）作動表示★

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）（→ P. 237）の作動状況を表示します。

設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。（→ P. 96）

● 警告メッセージ（→ P. 437）

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 操作方法

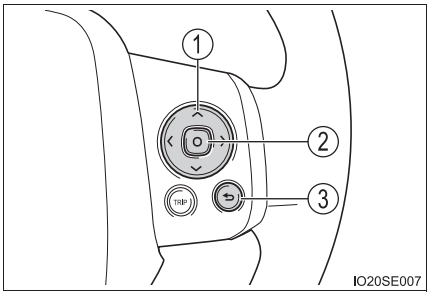
メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

ディスプレイに表示される項目を切りかえるには、ハンドルのメーター操作スイッチを操作します。

① メニューの切りかえ･ページの切りかえ・カーソル移動

② 決定／設定

③ ひとつ前の画面に戻る



ドライブインフォメーション

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの〈または〉を押して

を選択し、∧または∨を押します。

■ ドライブインフォメーション

平均燃費、平均車速、走行時間、EV 走行比率・EV 走行距離はオドメーターとトリップメーターのどちらかを表示しているかによって、表示内容が異なります。

オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。

トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーターA･Bそれぞれの記録を表示します。

トリップメーターをリセットすると、記録もリセットされます。（→ P. 87）

- AVG（平均燃費※）

  平均燃費を表示します。

  表示される平均燃費は参考として利用してください。を押し続けるとリセットされます。

- TOTAL（走行時間※）

  走行時間を表示します。

- AVG（平均車速）

  平均車速を表示します。

- （EV 走行比率・EV 走行距離）

  EV 走行比率と距離（電気モーターのみで走行している割合と距離）を表示します。

- （航続可能距離）

  現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

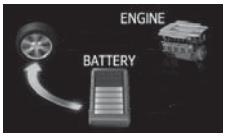
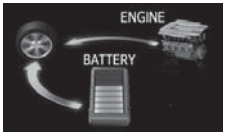
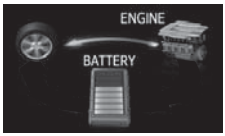
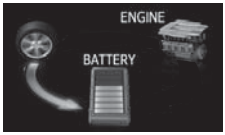
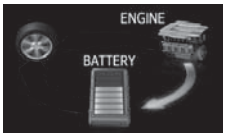
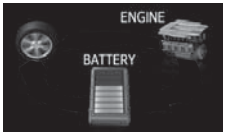
  ・運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

  ・燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
  この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。
  （→ P. 88）

※：設定により平均車速を表示することもできます。（→ P. 484）

■ **エネルギーモニター画面**

ハイブリッドシステムの作動状況を確認できます。

電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	
駆動用電池に充電しているとき	 
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない　多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ **デジタルスピードメーター画面**

デジタルスピードメーターを表示します。

■ **シンプル画面**

時計、外気温、燃料計を拡大した画面を表示します。

ECO

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの〈または〉を押して ECO を選択し、∧または∨を押します。

■ エコジャッジ

エコ運転の状況を判定し表示します。

運転の状況を、エコ発進・安定走行・エコ停止の３パターンに分け、５段階で表示します。また、車両が停止するたびに点数を表示します。（発進するごとにリセットされ、積算は行いません）

BTO20ER005

■ エコウォレット

ガソリン価格を入力すると、走行距離に応じて消費したガソリンの金額を表示します。また、任意の燃費を入力すると、実際に走行した燃費との差が、お得金額として表示されます。

消費したガソリン価格の表示や燃費の比較をすることができます。

BTO20ER006

①消費金額

消費金額を表示します。

オドメーターとトリップメーターのどちらかを表示しているかによって、表示が異なります。

- オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの金額を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの金額を表示します。トリップメーター A・B それぞれの金額を表示します。

トリップメーターをリセットすると、金額もリセットされます。（→ P. 87）

②比較燃費

画面で、比較したい任意の燃費数値を入力します。（→ P. 98）

■ エコウォレット履歴

エコウォレットの履歴を表示します。

・エコウォレットで比較燃費を入力するとお得金額の履歴を表示し、入力しなければ消費金額の履歴を表示します。
今月、過去 3ヶ月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。
・グラフに加え数字も表示します。

■ 燃費履歴

月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去 3ヶ月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。

■ 燃費ランキング

過去の燃費のベスト 3 と現在の順位を表示します。

● オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。

● トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。

・リセットを行うたびにランキングが追加されます。

順位は 100 位までを表示し、以降はランク外として表示されます。
ハイブリッドシステムを始動してからの走行距離が短い場合、燃費ランキングは更新されない場合があります。

■ 5 分毎燃費／瞬間燃費

ハイブリッドシステムを始動してからの燃費履歴を 5 分刻みで表示します。瞬間燃費を同時に表示し、30 分前までの燃費と比較することができます。

◆ 履歴の消去

エコウォレット履歴・燃費履歴・燃費ランキングを消去することができます。

1 消去したい履歴画面を表示しているときに◎を押し続けると、履歴リセット画面を表示します。

2 選択スイッチの ＜ または、＞ を押して「はい」を選択し、◎を押すと、履歴が消去されます。

◆ 燃費時間の切りかえ

燃費時間を 5 分刻み、または 1 分刻みで表示することができます。

1 5　分毎燃費／瞬間燃費画面を表示しているときに◎を押し続けると、燃費時間画面を表示します。

2 選択スイッチの ＜ または、＞ で項目を選択し、◎を押します。

設定

■ 設定を変更できる機能

マルチインフォメーションディスプレイで次の設定を変更することができます。（→ P. 484）

- LDA★（→ P. 237）
- PKSB★（→ P. 268）
- クリアランスソナー★（→ P. 259）
- 先行車発進★（→ P. 247）
- リヤシートリマインダー（→ P. 123）
- ドライブインフォメーション
  ドライブインフォ画面に表示させる項目を選択できます。
- エコウォレット
  ガソリン価格の設定・比較燃費の設定ができます。（→ P. 98）
- 夜間調光
  車幅灯点灯時のメーターの明るさを調整できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● EV インジケーター
EV インジケーター表示の ON ／ OFF 切りかえができます。

● 操作ガイド表示
メニューアイコン表示の ON ／ OFF 切りかえができます。

● 日付
日付、誕生日の設定ができます。（→ P. 98）

● 走行結果表示
走行結果表示（→ P. 100）の ON ／ OFF 切りかえができます。

● 初期化
次の表示設定を工場出荷時の状態にもどすことができます。
・EV インジケーター表示
・ドライブインフォメーション
・夜間調光
・エコウォレット
・操作ガイド表示
・誕生日
・走行結果表示

■ エコウォレットの設定のしかた

1 メーター操作スイッチの∧または∨で「エコウォレット」を選択し、◎を押す。

2 メーター操作スイッチの∧または∨で「ガソリン価格」または、「比較燃費」を選択し、◎を押す。

3 メーター操作スイッチの∧または∨で数値を設定し、◎を押す

■ 日付の設定のしかた

1 メーター操作スイッチの∧または∨で「本日」または「誕生日」※を選択し、◎を押す。

2 メーター操作スイッチの〈または〉で年／月／日を選択し、∧または∨で数値を設定し、◎を押す

※ 誕生日は最大 5 件設定できます。また、設定した日付になると数秒のあいだマルチインフォメーションディスプレイに「Happy Birthday」と表示されます。
ただし、警告メッセージが表示されたときは、「Happy Birthday」は表示されない場合があります。

知識

■オープニング画面の表示について

パワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると、マルチインフォメーションディスプレイにオープニング画面が表示されます。

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の充電量はハイブリッドシステムによって自動制御されています。
そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（レベル 8）まで到達しないことがありますが、異常ではありません。

■ **画面の操作について**

画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき（LDA 設定と夜間調光設定を除く）

■ **エコジャッジについて**

走行条件や環境によって評価点は変化します。そのため、燃費とリンクしない場合があります。

■ **エコウォレットについて**

- 消費金額・お得金額は目安として利用してください。
- 給油のしかた・走行条件・環境などによって、実際に給油したときの金額と画面に表示される金額に差が出る場合があります。
- 消費金額・お得金額は、エコジャッジの評価点とはリンクしない場合があります。

■ **補機バッテリー端子の脱着をしたとき**

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 時計
- 燃費ランキング（4 位以下）
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速
- EV 走行比率・EV 走行距離
- 走行時間

■液晶ディスプレイについて

→ P. 88

■燃費ランキングの割り込み表示について

トリップメーターをリセットするか、ハイブリッドシステムを停止したときに燃費がベスト 3 までに入っていた場合、燃費ランキング画面が割り込み表示し、ランクインした順位が 3 回点滅します。

■今回の走行結果表示について

ハイブリッドシステムを停止すると、ハイブリッドシステムを始動したときからの走行データを一覧で表示します。
ドアをロックすると画面は消えます。

走行結果が表示されているあいだに、いずれかのドアを開けても、開いているドアの表示は行われません。

BTO20EI011

■給油をしたときは

給油後にパワースイッチを “ON” （スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると、自動でガソリン価格入力画面（→ P. 98）が表示されます。

警告

■エコジャッジについて

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

- メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。
- ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

各部の操作 3

3-1. キー

キー 104

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア 109

スライドドア 115

バックドア 131

スマートエントリー&
スタートシステム 137

3-3. シートの調整

フロントシート 143

セカンドシート 144

サードシート 150

ヘッドレスト 152

シートアレンジ 156

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 165

インナーミラー 167

ドアミラー 169

3-5. ドアガラスの開閉

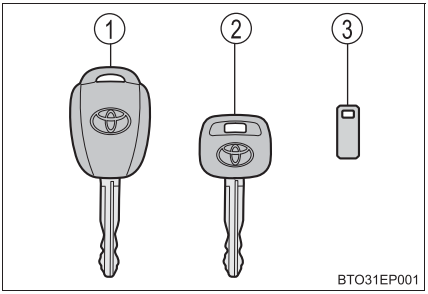
パワーウインドウ 172

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

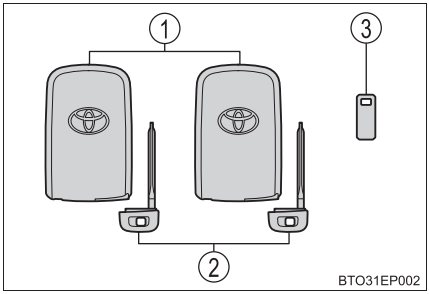


① キー（ワイヤレス機能装着）
・ワイヤレス機能の作動
（→ P. 105）

② キー（ワイヤレス機能非装着）

③ キーナンバープレート

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



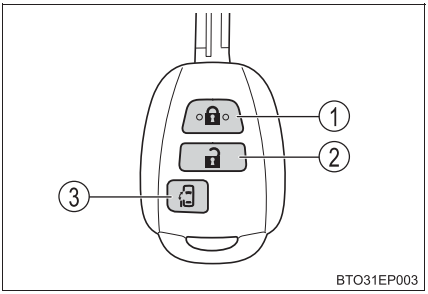
① 電子キー
・スマートエントリー＆スタートシステムの作動
（→ P. 137）
・ワイヤレス機能の作動
（→ P. 105）

② メカニカルキー

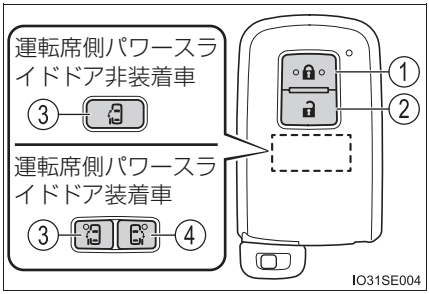
③ キーナンバープレート

ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



① ドアの施錠（→ P. 109）

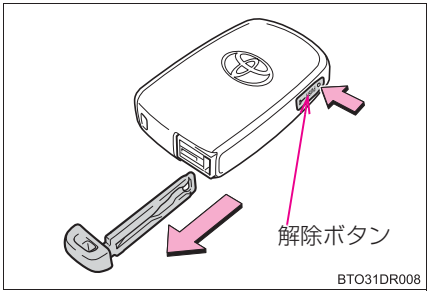
② ドアの解錠（→ P. 109）

③ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 115）

④ 運転席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 115）

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 462）

知識

■キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→ P. 395）

・ワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→ P. 139）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→ P. 395）

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・テレビ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認を促すメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたときは

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。（→ P. 395）

■電池の交換方法

→ P. 395

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

■キー取り扱いの注意

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ワイヤレスドアロックリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

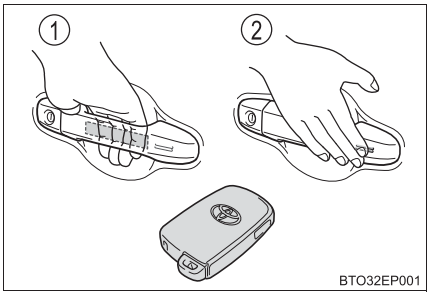
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

電子キーを携帯して操作します。



① ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

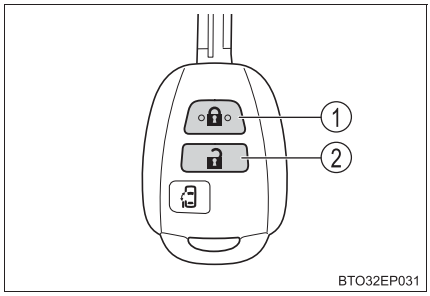
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

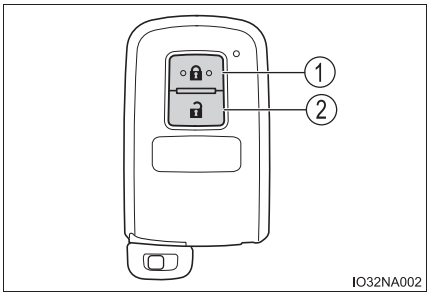
必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

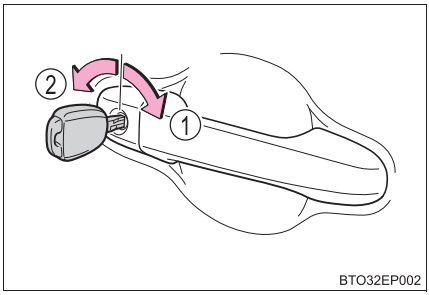
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ キー（運転席）

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。（→ P. 462）

知識

■作動の合図

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

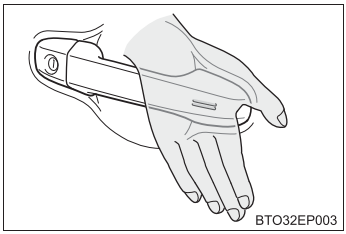
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■スマートエントリー＆スタートシステム★やワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：
キーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 110）

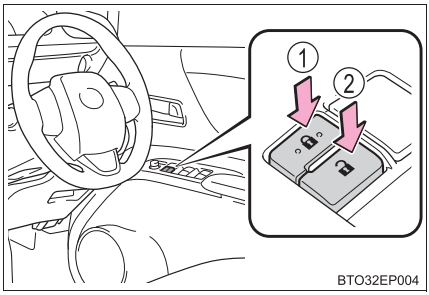
●スマートエントリー＆スタートシステム装着車：
メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 462）

●電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 395）

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



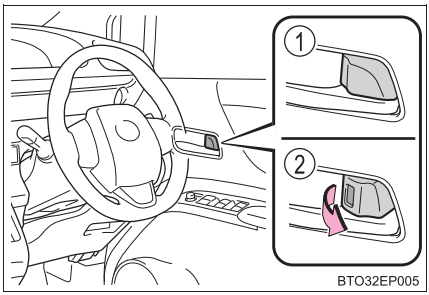
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロントドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

キーがパワースイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

知識

■半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー＆スタートシステム（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）やワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

●ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき

●ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くでワイヤレスリモコンを使用しているとき

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→ P. 139

■カスタマイズ機能

ワイヤレス機能を非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

警告

■**事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない
ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■**ドアを開閉するときの留意事項**

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

→P. 109

◆ ワイヤレスリモコン

→P. 109

◆ キー（運転席）

→P. 110

車内からの解錠・施錠

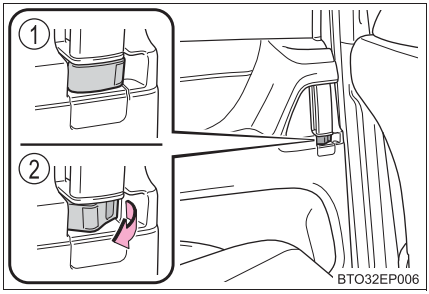
◆ ドアロックスイッチ

→P. 111

◆ ロックレバー

① 施錠

② 解錠



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

◆ ワイヤレスリモコン

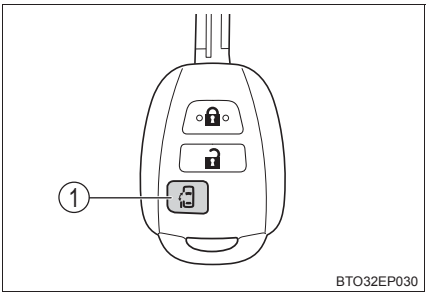
① 助手席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

② 運転席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

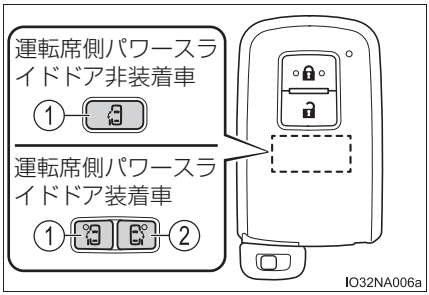
自動開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は、作動が停止しません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

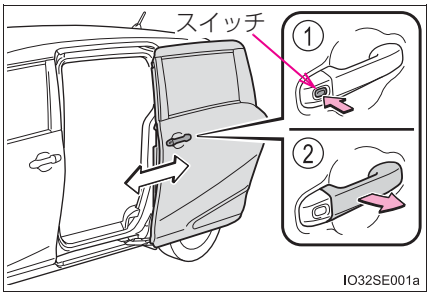


▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



◆ スライドドアハンドル

① スイッチを押して開閉する



ドアが施錠されているとき：
電子キーを携帯してスイッチを押すと、すべてのドアが解錠され、パワースライドドアが自動で開きます。（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）
電子キーの検知エリア内（→P. 137）にある状態で、スイッチを押してください。

ドアが解錠されているとき：
電子キーを携帯していなくても、スイッチを押し続けるとパワースライドドアが自動で開閉します。

② ドアハンドルを引いて開閉する

スライドドアを解錠してから操作してください。

自動開閉作動中に再度スイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、自動開閉作動が停止します。

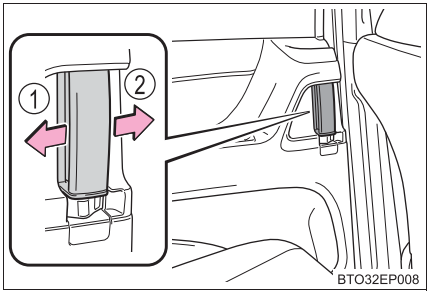
ただし、作動開始から約 1 秒間は、作動が停止しません。

◆ インサイドドアハンドル

① 開ける

スライドドアを解錠してから操作してください。

② 閉める



自動開閉作動中にハンドルを操作すると、作動が停止します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は、作動が停止しません。

◆ パワースライドドアスイッチ

スイッチを押し続ける

スライドドアを解錠してから操作してください。

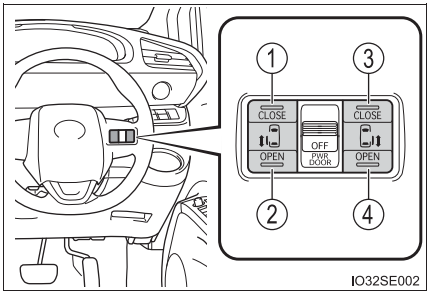
① 閉める（助手席側）

② 開ける（助手席側）

③ 閉める（運転席側）★

④ 開ける（運転席側）★

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は、作動が停止しません。

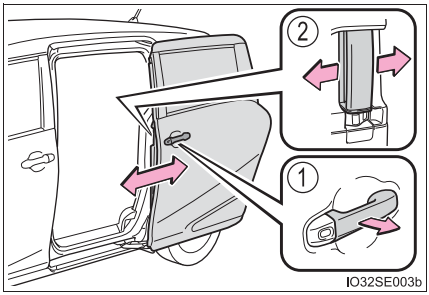


スライドドアの手動開閉

パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 119）が OFF のとき、車外のスライドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作します。

① スライドドアハンドル

② インサイドドアハンドル



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワースライドドアの機能を停止するには

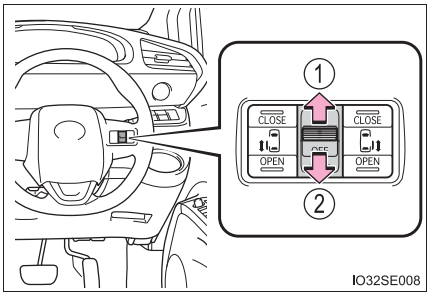
パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてパワースライドドアの機能を停止します。

①OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

②ON

パワースライドドアをワイヤレスリモコン／スライドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドアスイッチの操作により、自動で開閉できます。



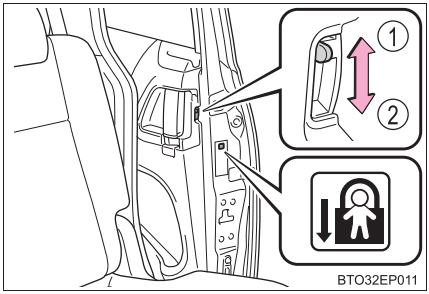
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。



知識

■作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■イージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

●パワースイッチが “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）になっていても、イージークローザーは作動します。

●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

●給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

●パワースイッチが “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。（閉作動を除く）ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

・シフトレバーが P のとき
・パーキングブレーキがかかっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

■スライドドアの手動作動可能条件

次の条件をすべて満たしているときに、手動で開閉できます。

●スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

●給油扉が閉じている（助手席側スライドドアのみ）

●パワースイッチが “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。（閉作動を除く）

・シフトレバーが P のとき
・パーキングブレーキがかかっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

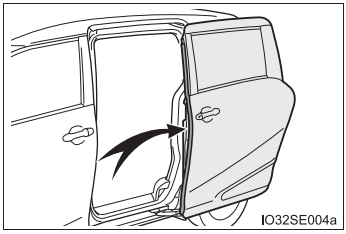
■パワースライドドアの作動について

●スライドドアハンドル・インサイドドアハンドルを操作してパワースライドドアを作動させるときは、ブザーが鳴る位置まで確実にドアハンドルを操作してください。

●パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、パワースライドドアは作動しませんが、スライドドアは手動で開閉できます。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア）

パワースライドドアの前端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは10cm 位反転作動したあとに停止します。



●挟み込み防止機構が作動してパワースライドドア停止したあと、パワースライドドアの作動を再開させるときは、作動させる方向によって次のように操作してください。

・逆方向に作動させる：
車外のスライドドアハンドルを引く、またはスライドドアハンドルのスイッチを押す
・開方向に作動させる：
車内のインサイドドアハンドルを開方向に操作する、またはパワースライドドアスイッチの OPEN 側を押す
・閉方向に作動させる：
車内のインサイドドアハンドルを閉方向に操作する、またはパワースライドドアスイッチの CLOSE 側を押す

挟み込み防止機構作動後、ワイヤレスリモコンまたは電子キー★のパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

■給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）

●給油扉が開いているときは、助手席側パワースライドドアは作動しません。助手席側スライドドアは手動で開閉できますが、途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）
中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、給油扉を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

●助手席側パワースライドドアの自動開閉中に給油扉を開けると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 9 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■補機バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

■予約ドアロック機能について（パワースライドドア）

パワースライドドアの自動閉作動中に、全ドアの施錠を予約する機能です。
次の操作をすると、パワースライドドア以外のすべてのドアが施錠され、パワースライドドアも閉まると同時に施錠されます。

1 パワースライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワースライドドアの自動閉作動中にフロントドアまたはバックドアでスマートエントリー＆スタートシステム★による施錠操作を行う（→P. 109，131）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P. 109）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車のみ）と非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機構が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■半ドア走行時警告ブザー

→P. 113

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■リヤシートリマインダー機能

セカンドシートまたはサードシート★への荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってから、パワースイッチを “LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすると、ブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●スライドドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した

●ハイブリッドシステムが作動している状態でスライドドアを開閉した

ただし、スライドドアを開けてから、約 2 秒以内にスライドドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、スライドドアの開閉によりセカンドシートまたはサードシート★に荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によっては、セカンドシートまたはサードシート★に荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。（→ P. 484）

■自動洗車機を使うとき

→ P. 357

■カスタマイズ機能

パワースライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
- お子さまをセカンドシートまたはサードシート★に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→P. 119）を使用して車内からドアが開かないようにする

■スライドドアの操作にあたって

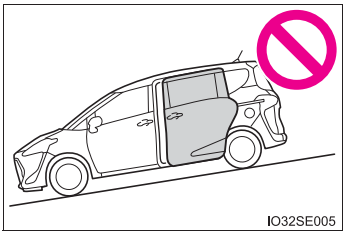
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・腕・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。

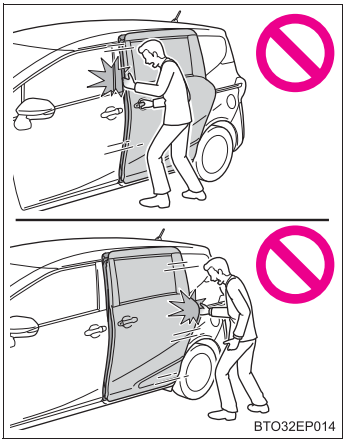
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

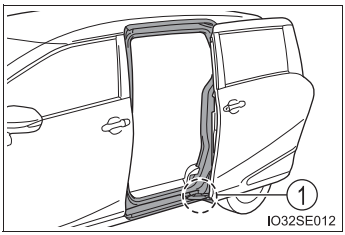
- スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。傾斜した場所などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。


IO32SE005

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。


BTO32EP014

- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に（①）の部分には十分注意してください。

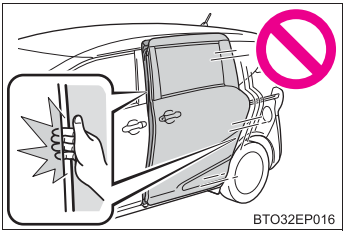


IO32SE012

警告

■イージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。（→ P. 120）



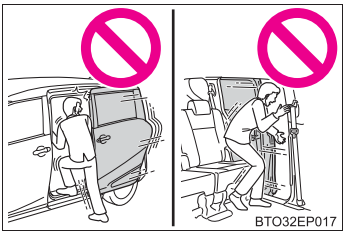
●イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

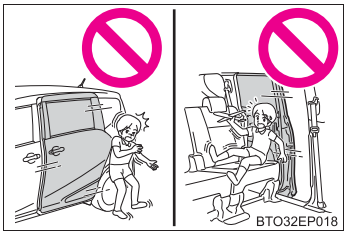


●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままパワースライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
  この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・ハイブリッドシステム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、パワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき
- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワードアメインスイッチを OFF にしてください。
- タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチに触れたときにパワースライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機構（パワースライドドア）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

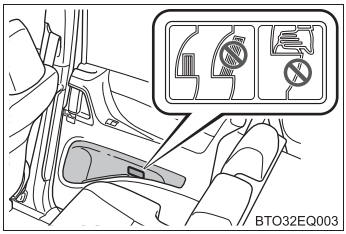
- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機構は、パワースライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機構は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠注意

■スライドドアについて

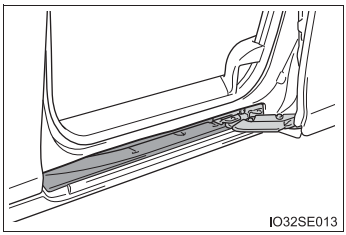
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●セカンドシートのドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりではなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷が付いたり、故障につながったりするおそれがあります。

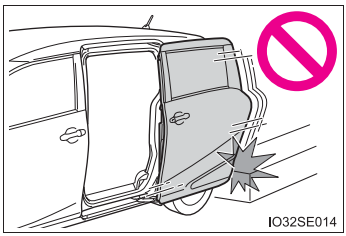

BTO32EQ003

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→ P. 332）に収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。


IO32SE013

●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。


IO32SE014

■イージークローザーについて

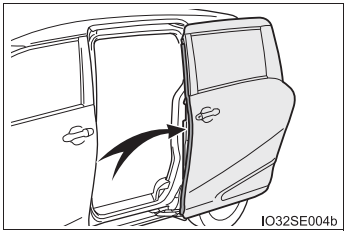
●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

注意

■パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、パワースライドドアはただちに停止します。



バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

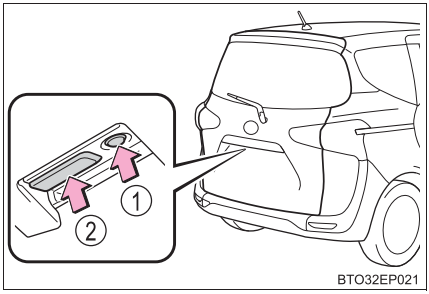
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 109

◆ キー

→ P. 110

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

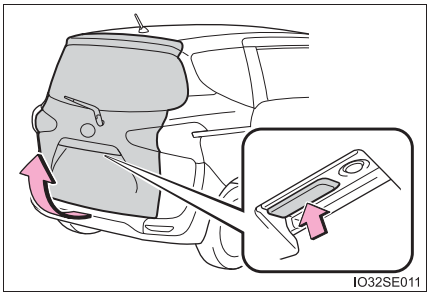
→ P. 111

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを開けるには

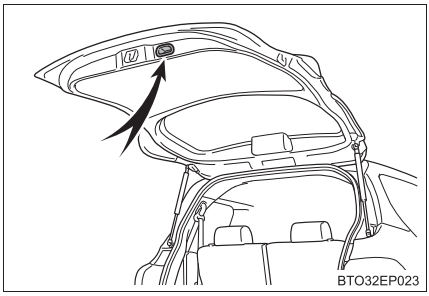
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押したあと、約 1 秒間はバックドアを閉めることができません。



バックドアを閉めるには

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



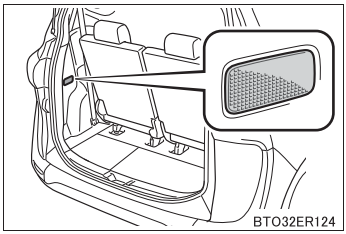
知識

■ラゲージルームランプ

▶7 人乗り車

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

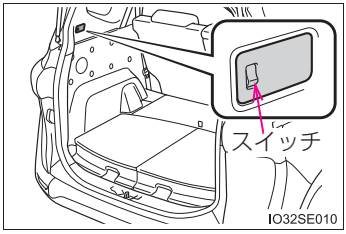
パワースイッチが “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはOFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の場合、約 20 分後に自動消灯します。



▶5 人乗り車

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

パワースイッチが “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはOFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の場合、約 20 分後に自動消灯します。



■半ドア走行時警告ブザー

→P. 113

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

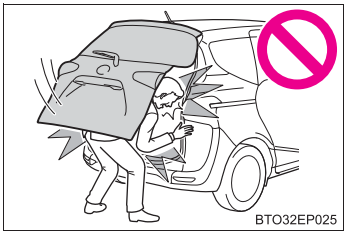
●バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

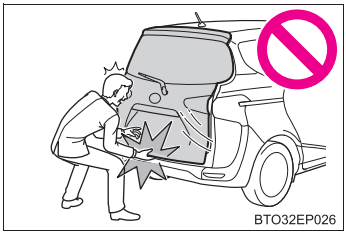
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


BTO32EP025

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


BTO32EP026

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

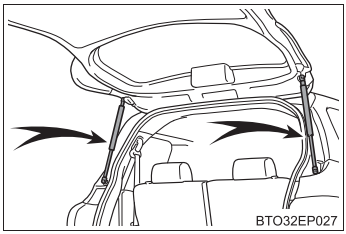
●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーをポケットなどに携帯していると次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

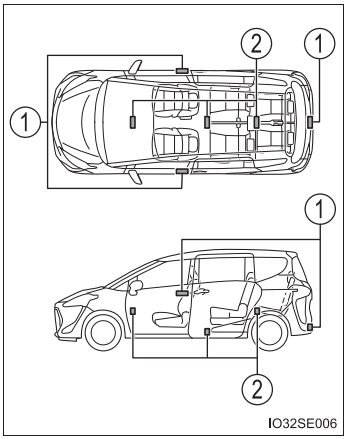
- ドアを解錠・施錠する（→ P. 109）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 131）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 193）

知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ

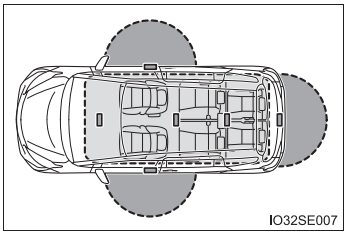
② 車室内アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）



●：ハイブリッドシステム始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況／対処方法
車外から “ピー” と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした **→ 全ドアを閉めたあと、再度施錠する**
車内から “ピー、ピー” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた） **→ パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める**

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

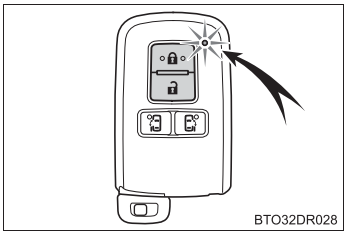
●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

●節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 462）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき（車両検出用の電波が影響をおよぼす可能性があるため）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック操作しません。※

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠･解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 139）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

※ トヨタ販売店での設定変更が可能です。（→ P. 484）

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

●電子キーの電池消耗を抑えることができます。（→ P. 139）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→ P. 138）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの解錠・施錠：→ P. 462

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 462

■マルチインフォメーションディスプレイに「車室内にキーがあります」が表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、次のいずれかの操作を行いました。

・スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした
・フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした

車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 462）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 462

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 194

警告

■電波がおよぼす影響について

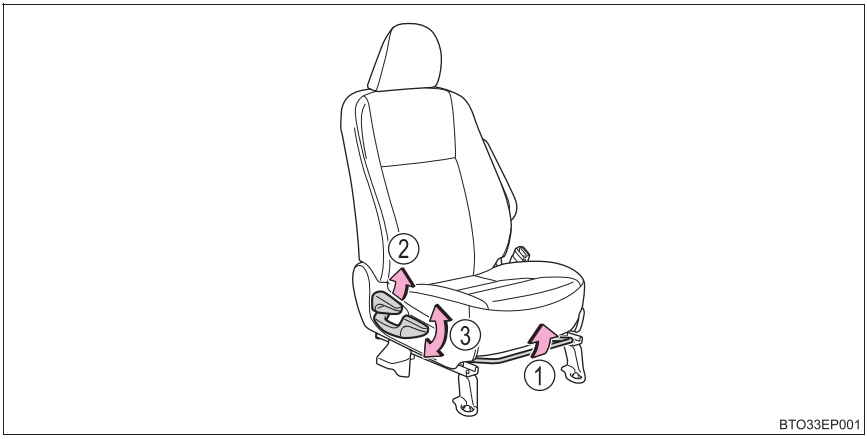
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 137）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた



① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はシート操作をしないでください。

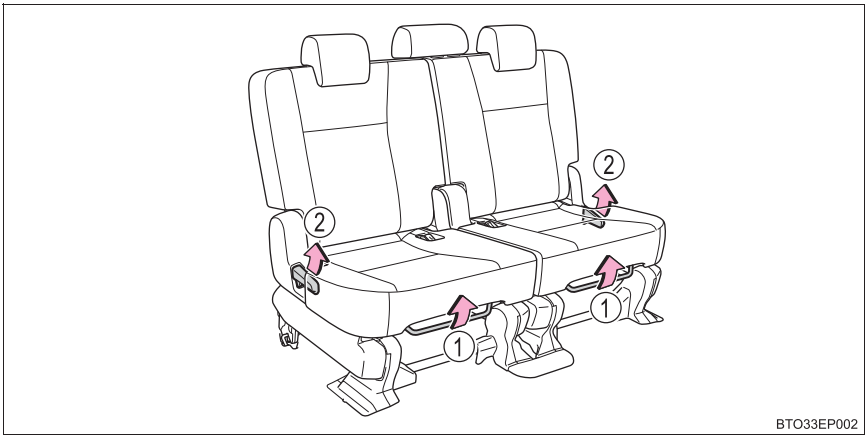
■リクライニング調整について

- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

セカンドシート

調整のしかた

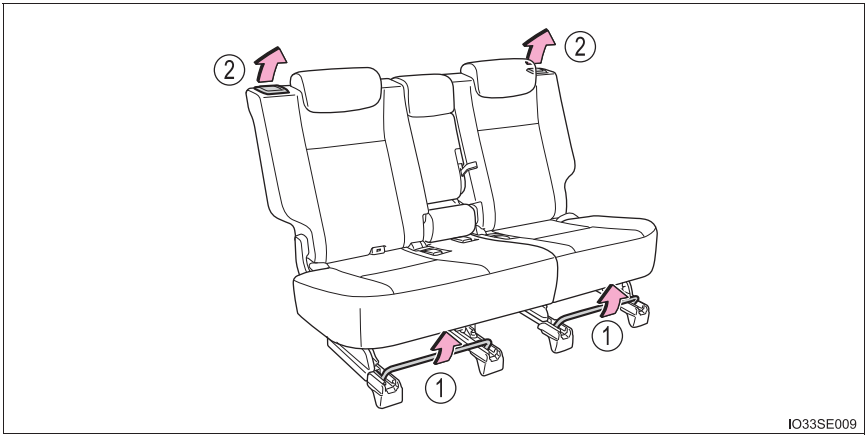
▶ 7人乗り車



① 前後位置調整

② リクライニング調整

▶ 5人乗り車



① 前後位置調整

② リクライニング調整

サードシートへの乗り降り（7 人乗り車）

■ セカンドシートをタンブルする

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシート中央席シートベルトを分離し、格納する（→ P. 27）

3 セカンドシートのシートベルトのバックルを格納する（→ P. 28）

4 セカンドシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 152）

5 セカンドシートを後方いっぱいまでスライドする（→ P. 144）

6 セカンドシートをタンブルする

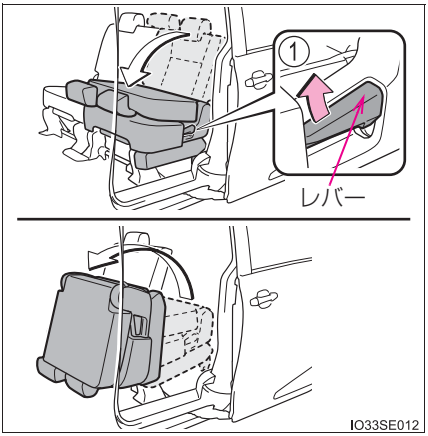
①のレバーを引く、または②のストラップを引く

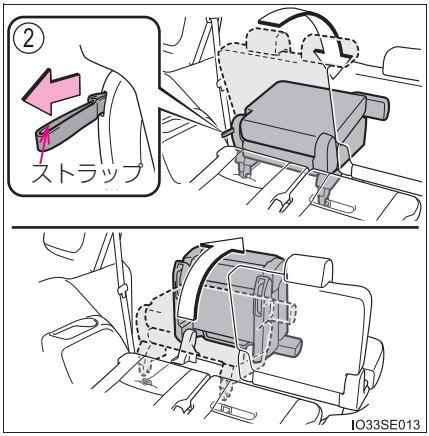
背もたれが前方に倒れ、シートが起きあがります。

7 人乗り車は、助手席側セカンドシートをタンブルしてから運転席側セカンドシートをタンブルしてください。

運転席側セカンドシートのみタンブルする場合は、セカンドシート中央席ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 153）

セカンドシートをタンブルしたときにフロントシートとあたる場合は、フロントシートを前方にスライドしてください。（→ P. 143）

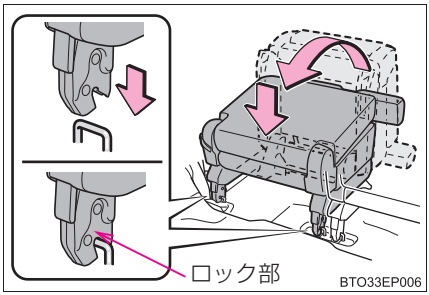




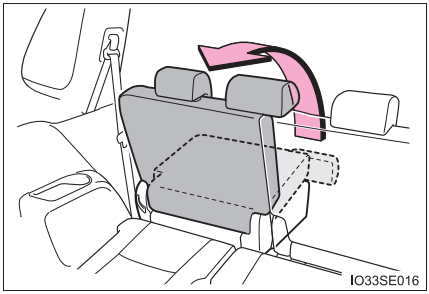
■ セカンドシートをもとにもどすときは

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートを固定する
シート脚部を床面ロック部にゆっくり降ろし、セカンドシートうしろ側を床に押しつけて確実にロック部を固定させます。



3 背もたれを起こし、固定する



4 ヘッドレストを取りはずした場合は、ヘッドレストを取り付ける
(→ P. 152)

セカンドシートを格納するには

→ P. 157

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●走行中はシート操作をしないでください。

■リクライニング調整について

●走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■セカンドシート中央席に座るときは

必ずセカンドシート左右席の位置をそろえて乗車してください。

■サードシートへの乗り降りについて（7 人乗り車）

●サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

警告

■**タンブルについて（7 人乗り車）**

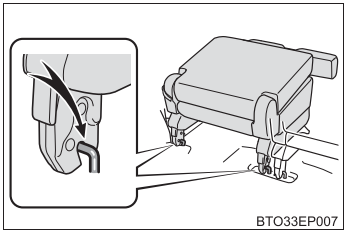
●シートベルトが、背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シート前方に物がないことを確認してください。

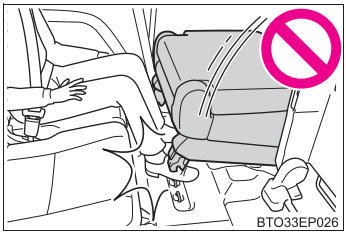
●シートクッションの上に荷物などをのせたままシートをタンブルしないでください。

●左右のシートを同時にタンブルしないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートをタンブルするときは、片側ずつ操作してください。

●シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。


BTO33EP007

●シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。


BTO33EP026

●セカンドシートをタンブルして走行するときは、必ずシート固定ベルトでセカンドシートを固定してください。（→ P. 157）

■**背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

●シートベルトを挟み込まないようにする

⚠ 注意

■タンブルについて（7 人乗り車）

●タンブルする前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。
（→ P. 27）

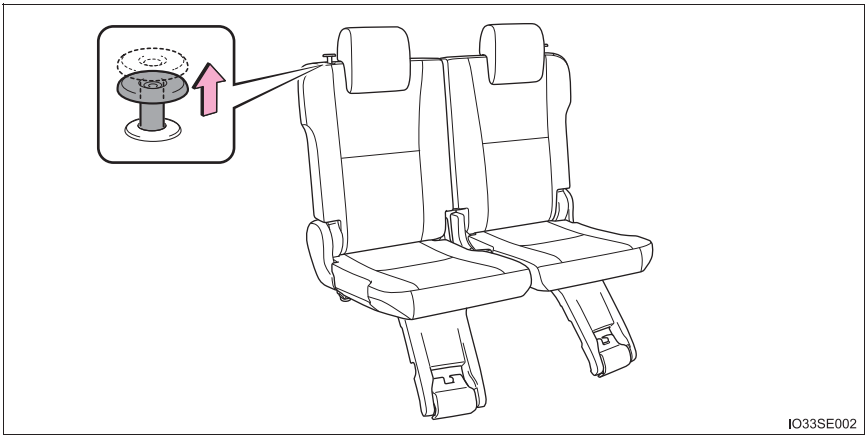
●セカンドシートをタンブルするときは、助手席側をタンブルしてから運転席側をタンブルしてください。
また、タンブルした状態からもとにもどすときは、運転席側をもとに戻してから、助手席側をもとに戻してください。
順番を間違えるとセカンドシート中央席ヘッドレストと運転席側セカンドシートが干渉し、シートが損傷するおそれがあります。

●シートをおろすときは、シート脚部および床面ロック部に物がないことを確認してから行ってください。

●リクライニングレバー･タンブルストラップを引くとシート全体が自動的にはねあがりますので注意してください。

サードシート★

調整のしかた



リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

→ P. 145

サードシートを格納するには

→ P. 160

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●走行中はシート操作をしないでください。

■リクライニング調整について

●走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

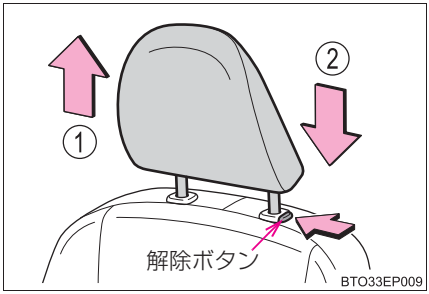
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

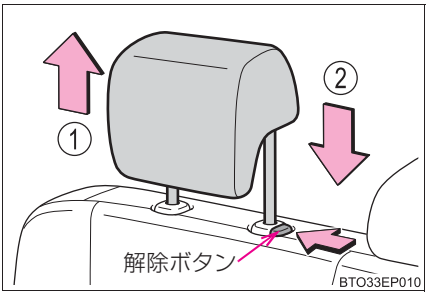
② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

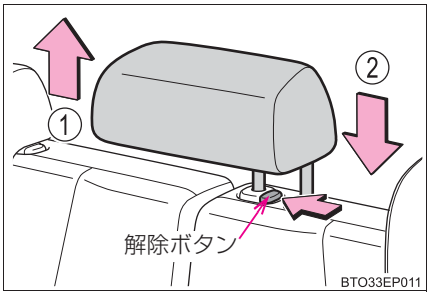


セカンドシート／サードシート★

▶ 7 人乗り車セカンドシート（中央席）を除く



▶ 7 人乗り車セカンドシート（中央席）



① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

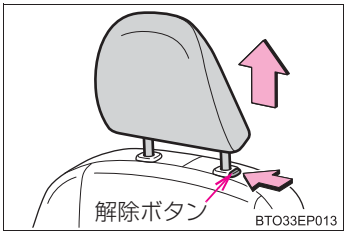
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

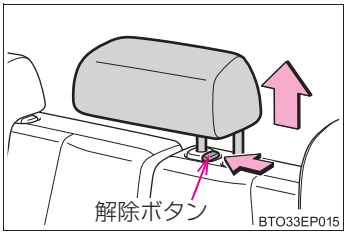
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます

▶7人乗り車セカンドシート（中央席）を除く



▶7人乗り車セカンドシート（中央席）

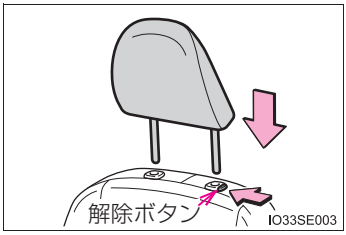


■ヘッドレストを取り付けるとき

▶7人乗り車セカンドシート（中央席）・5人乗り車セカンドシート（左右席）を除く

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

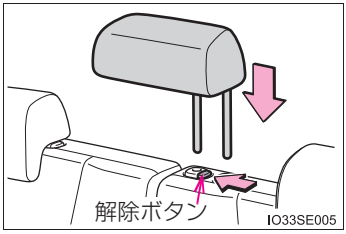
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



▶7 人乗り車セカンドシート（中央席）

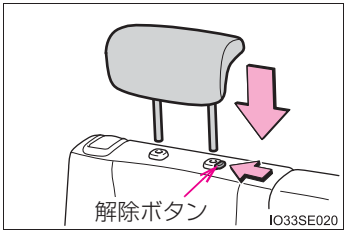
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



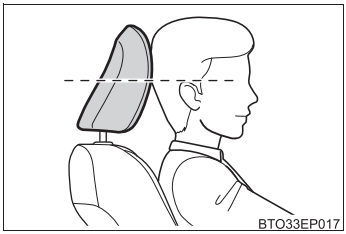
▶5 人乗り車セカンドシート（左右席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンを押しながら押し下げてください。



■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■セカンドシート・サードシート★のヘッドレストを使うときは

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

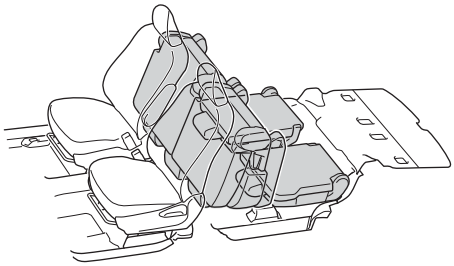
●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

◆ フラットラゲージモード

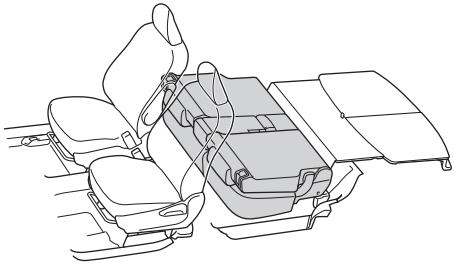
▶ 7 人乗り車

セカンドシート、サードシートを格納する（→ P. 157, 160）



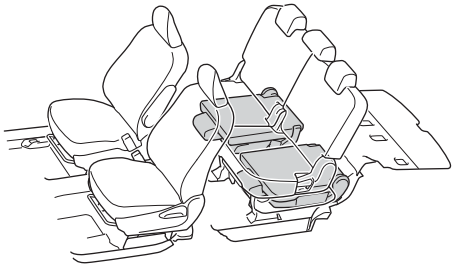
▶ 5 人乗り車

セカンドシートを格納する（→ P. 159）



◆ 荷室モード（7 人乗り車）

サードシートを格納する（→ P. 160）



セカンドシートを格納するには

▶ 7人乗り車

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートをタンブルする（→ P. 145）

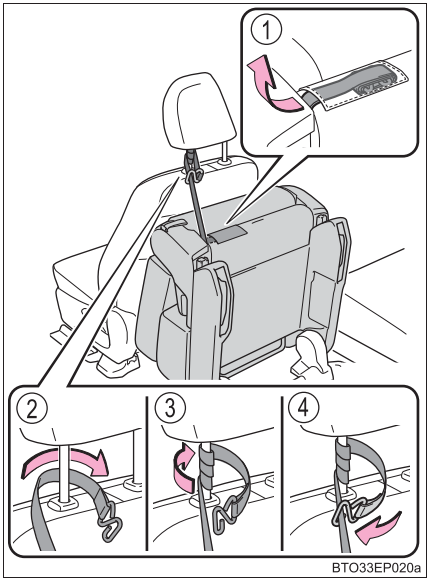
3 シートを固定する

① シートクッション後面にあるポケットからシート固定ベルトを取り出す

② ベルトをフロントシートのヘッドレストステーに通す

③ ベルトの長さがあまる場合は、ヘッドレストステーに複数回ベルトを巻き付け、長さを調整する

④ フックをベルトに引っかける



■ もとにもどすには

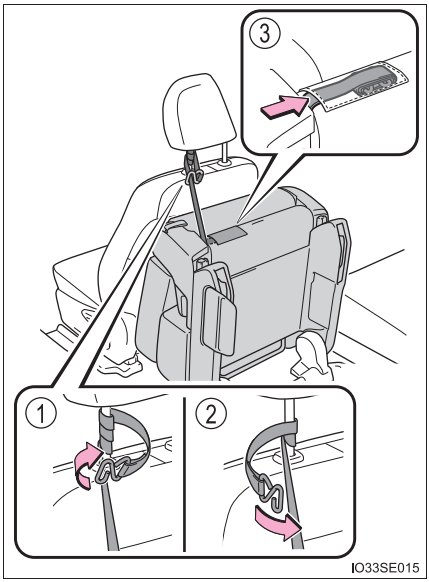
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 シート固定ベルトをはずす

① フックをはずす

② フロントシートのヘッドレストステーからシート固定ベルトをはずす

③ シートクッション後面にあるポケットにシート固定ベルトを収納する



3 セカンドシートをもとにもどす（→ P. 146）

▶ 5 人乗り車

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシート中央席シートベルトを分離し、格納する（→ P. 27）

助手席側のみを格納する場合は、セカンドシート中央席シートベルトを格納する必要はありません。

3 セカンドシートのシートベルトのバックルを格納する（→ P. 28）

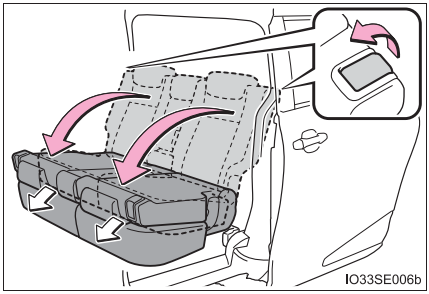
4 セカンドシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 152）

5 セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 353）

6 セカンドシートを後方いっぱいまでスライドする（→ P. 144）

7 背もたれを手で支えながらリクライニングレバーを引いてロックを解除し、背もたれを前方に倒す

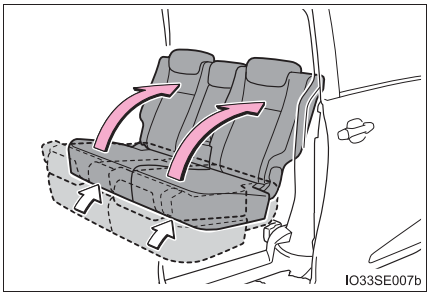
シートが格納されます。



■ もとにもどすには

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 背もたれを起こし、固定する

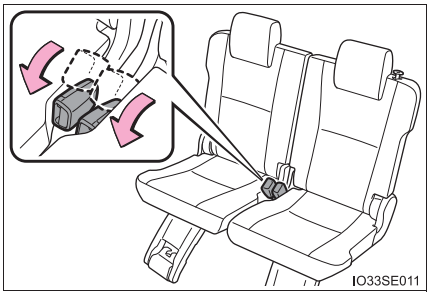


サードシートを格納するには（7 人乗り車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

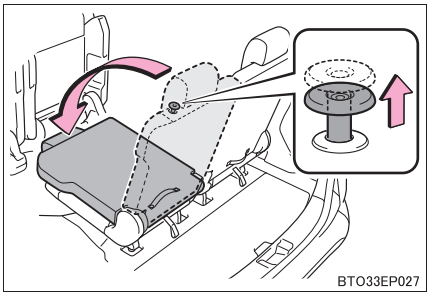
2 セカンドシートをタンブルする（→ P. 145）

3 サードシートのシートベルトのバックルを格納する

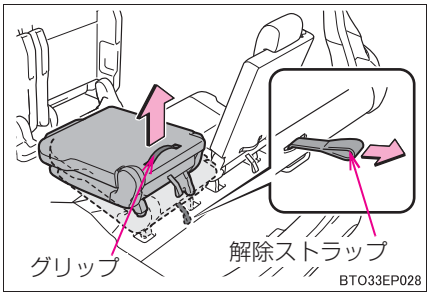


4 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 152）

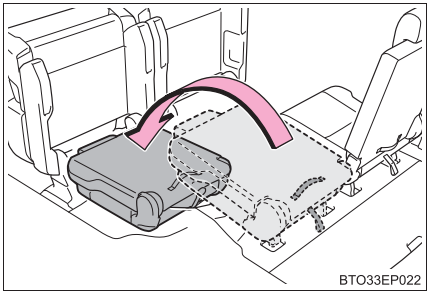
5 リクライニングノブを引いたまま、背もたれを前方に倒す



6 シートロック解除ストラップを引いてロックを解除し、グリップを握りサードシートを引きあげる



7 サードシートを押し下げるようにしながらサードシート足元へ格納する



8 セカンドシートをもとにもどす（→ P. 146）

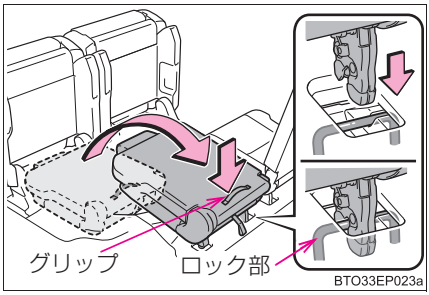
■ **サードシートをもとにもどすときは**

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

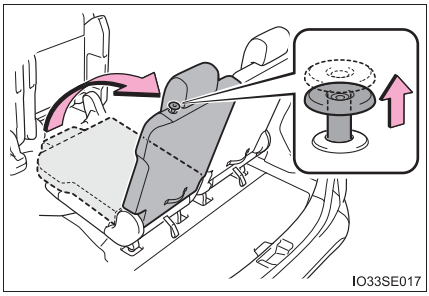
2 セカンドシートをタンブルする（→ P. 145）

3 グリップを握りサードシートを引きあげ、サードシートを押し下げるようにしながらシート固定位置までスライドする

シート脚部を床面ロック部にゆっくり降ろし、サードシートうしろ側を床に押しつけて確実にロック部を固定させます。



4 リクライニングノブを引いて、背もたれを起こす



5 セカンドシートをもとにもどす（→ P. 146）

警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートアレンジについて

- 必ず平坦な場所でシフトレバーをＰに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートのあいだにシートベルトやバックルが挟みこまれていないか確認してください。
- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

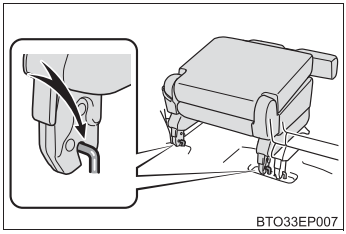
■シートの格納について

- セカンドシートを格納して走行するときは、必ずシート固定ベルトでセカンドシートを固定してください。（7 人乗り車）
- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。
- 格納操作時以外は、セカンドシートまたはサードシートのストラップを操作しないでください。（7 人乗り車）
- サードシートを格納するときは必ずグリップを持って操作してください。（7 人乗り車）
- シートベルトやバックルが、背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。
- シート前方に物がないことを確認してください。
- シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを格納しないでください。
- 左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。

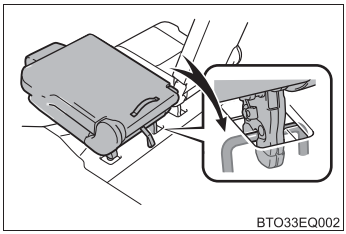
警告

●シートをもとにもどしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。（7 人乗り車）

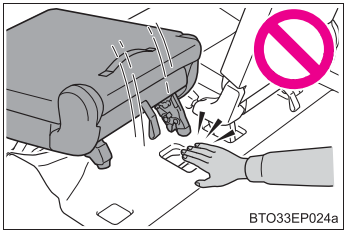
▶セカンドシート



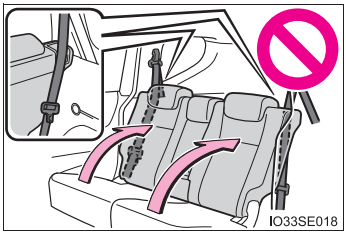
▶サードシート



●シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。（7 人乗り車）



●セカンドシート操作後は、シートベルトが、背もたれのうしろ側にないことを確認してください。（5 人乗り車）

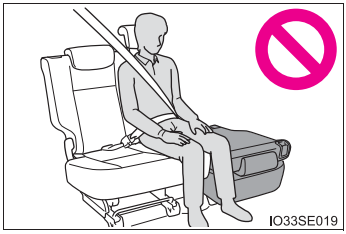


警告

■セカンドシートを格納したときは（5 人乗り車）

走行するときは、助手席側のセカンドシートを格納した状態で中央席に座らないでください。

事故のときにクッション部が体を十分に支えきれず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

→ P. 148

注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■シートの格納について

- シートを格納するときや、もとにもどすときは、床面やシートクッションの上に物がないことを確認してから行ってください。
- サードシート★を格納するときは、ヘッドレストを取りはずさずに格納してください。ヘッドレストを取りはずしてサードシート★を格納すると、サードシート★が損傷するおそれがあります。

■タンブルについて（7 人乗り車）

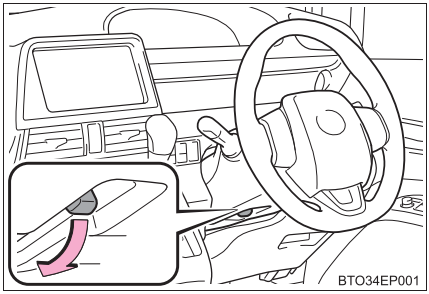
→ P. 149

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンドル

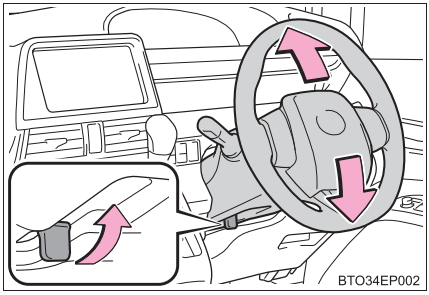
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



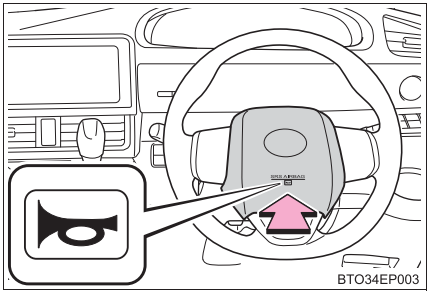
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 165）

警告

■**走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

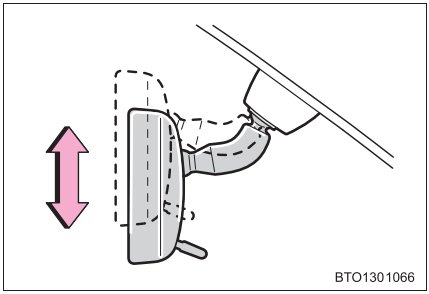
後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーを調整することができます。

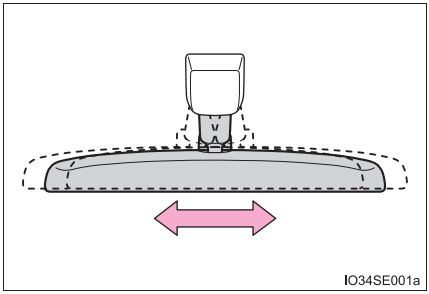
■ 上下調整

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



■ 左右調整

インナーミラー本体を持って、左右方向に調整する

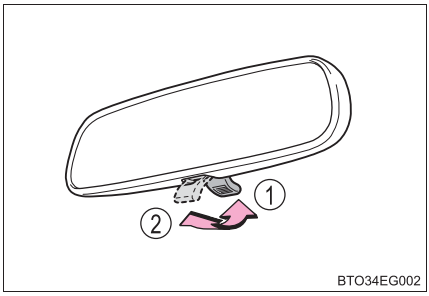


防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



知識

■サンバイザー（→ P. 339）を使用するとき

インナーミラーの調整位置によっては、サンバイザーを下した際にミラーと干渉することがあります。その場合は、ミラーを左右方向に調整して、サンバイザーと干渉せず後方を十分に確認できる位置にしてください。

警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

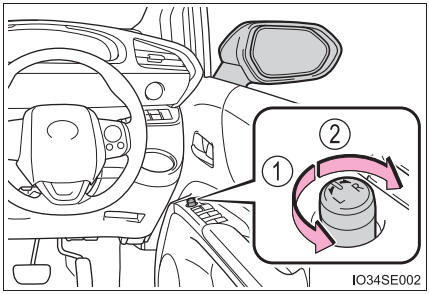
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右



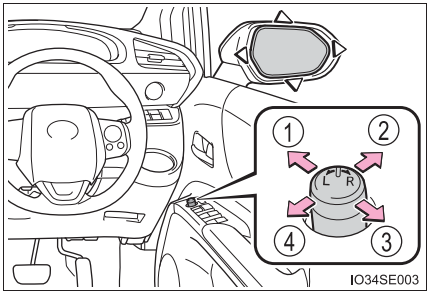
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

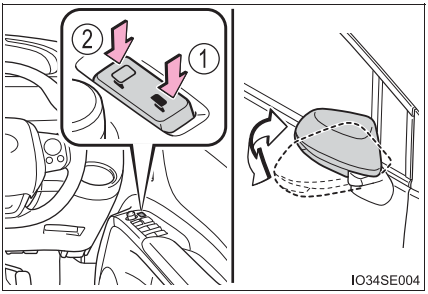
③ 下

④ 左



ドアミラーを格納・復帰する

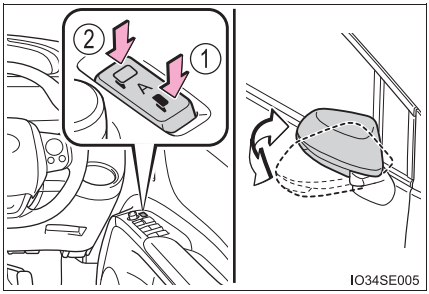
▶ オート電動格納式ドアミラー非装着車



① 格納する

② もとの位置にもどす

▶ オート電動格納式ドアミラー装着車



① 格納する

② もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステム★やワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 318）

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき（オート電動格納式ドアミラー装着車）

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能（オート電動格納式ドアミラー装着車）

オート電動格納作動の作動内容を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

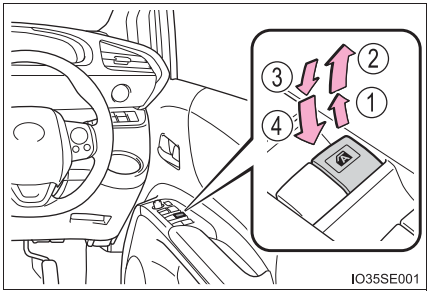
① 閉める

② 自動全閉 ※（運転席）

③ 開ける

④ 自動全開 ※（運転席）

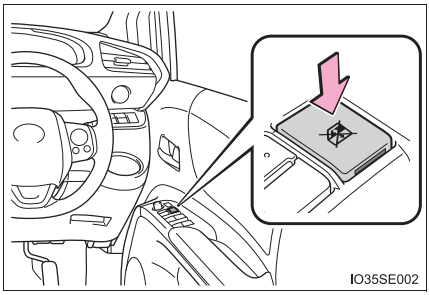
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動（運転席のみ）

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチを “ACC” または “LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機構（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機構（運転席のみ）

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■パワーウインドウを開閉することができないとき（運転席のみ）

挟み込み防止機構や巻き込み防止機構が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の状態で、挟み込み防止機構や、巻き込み防止機構が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

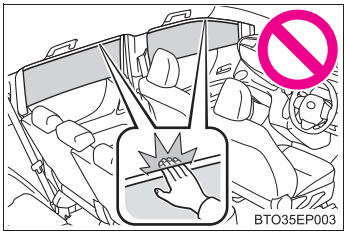
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 172）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●車から離れるときはパワースイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機構（運転席のみ）

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機構は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機構（運転席のみ）

●巻き込み防止機構を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機構は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 178
荷物を積むときの注意..... 188

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）..... 189
パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）..... 193
EV ドライブモード..... 199
トランスミッション..... 201
方向指示レバー 205
パーキングブレーキ..... 206

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....207
フォグランプスイッチ.....211
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....212
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....214

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....216

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense 219
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....225
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）.....237
オートマチックハイビーム.....243
先行車発進告知機能.....247

4-6. 運転支援装置について

クルーズコントロール.....249
運転を補助する装置.....253
クリアランスソナー.....259
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....268
パノラミックビューモニター.....280

4-7. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス.....310
寒冷時の運転.....312

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 189, 193

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 201）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 206）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 201）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 206）、シフトレバーを P にする（→ P. 201）

3 スマートエントリー & スタートシステム非装着車：

パワースイッチを “LOCK” にしてハイブリッドシステムを停止する

スマートエントリー & スタートシステム装着車：

パワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止する

4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 253）

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 310）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 440）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は B ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 254）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 422を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 201）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■床下に衝撃を受けたとき

走行中、車両床下に強い衝撃を受けたときは思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。ただちに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを停止して車両下部に損傷が無いか確認してください。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 443 を参照してください。

⚠注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン・トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
- ●ハイブリッドシステムの異常

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やセカンドシートまたはサードシート★（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

ハイブリッドシステムの始動のしかた

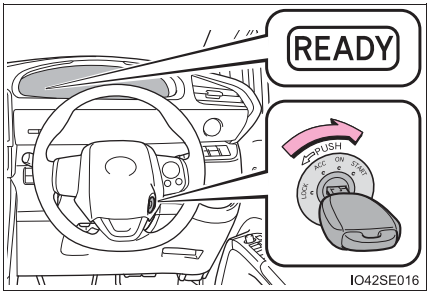
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

4 パワースイッチを“START”の位置にまわす

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。

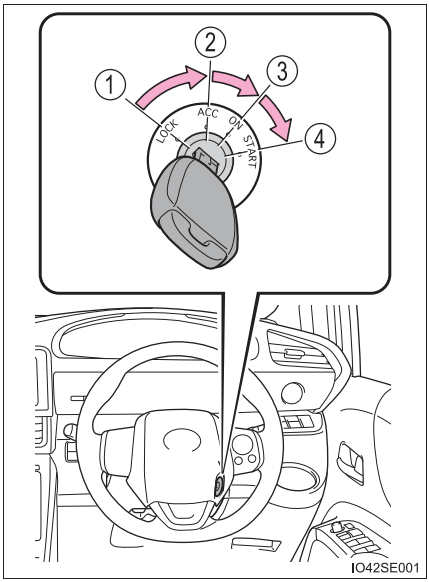
パワースイッチの位置の切りかえ

① “LOCK” （OFF）
・ステアリングロックがかかります。
・シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

② “ACC”
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ON”
すべての電装品が使用できます。

④ “START”
ハイブリッドシステムが始動できます。

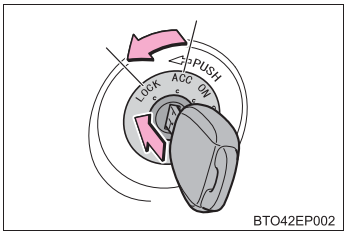


知識

■キーを “ACC” から “LOCK” にまわすには

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 キーを押し込みながら “LOCK” までまわす

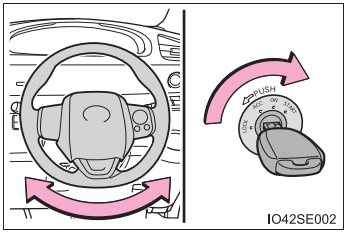


■ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 79）
トヨタ販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、パワー スイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、パワースイッチが “ACC” または “LOCK” のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 73

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 75

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はパワースイッチを “ LOCK ” にしないでください。
緊急時、走行中にハイブリッドシステムを停止したい場合には “ ACC ” にしてください。
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→ P. 422）

注意

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを “ACC” または “ON ” にしたまま長時間放置しないでください。

■**ハイブリッドシステムを始動するとき**

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

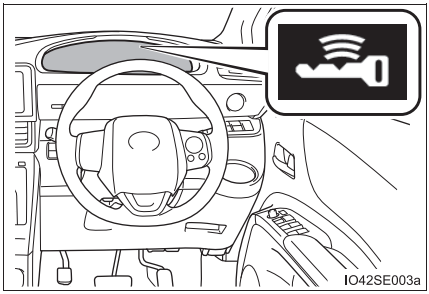
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

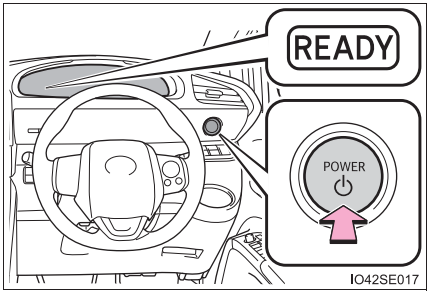


4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



パワースイッチのどのモード（→ P. 194）からでもハイブリッドシステムを始動できます。

5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステム停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

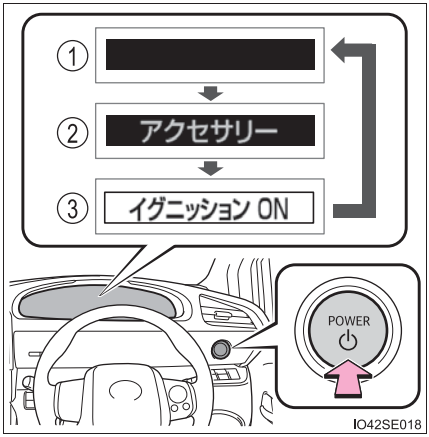
2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 206）、シフトレバーを P の位置にする（→ P. 201）

3 パワースイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離して、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. マルチインフォメーションディスプレイに「電源を OFF してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す
4. マルチインフォメーションディスプレイの「電源を OFF してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 73

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 106

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 139

■ご留意いただきたいこと

→ P. 140

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 79）
トヨタ販売店へご連絡ください。

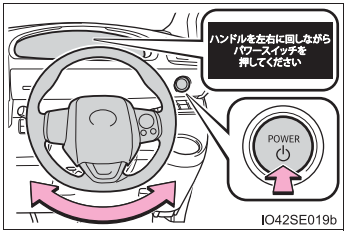
●シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動することができない場合があります。

■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。
2 秒～ 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 75

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 395

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 462

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 422)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、ハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、パワースイッチを押してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

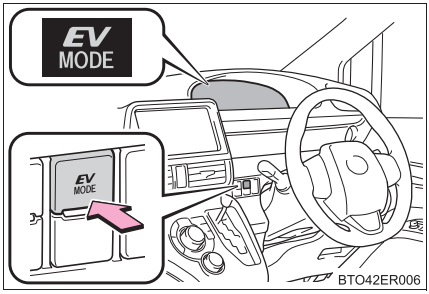
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、マルチインフォメーションディスプレイに EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 93）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 93）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EV モードに現在切替えできません」と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。
EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EV　モードが解除されました」と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。
EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

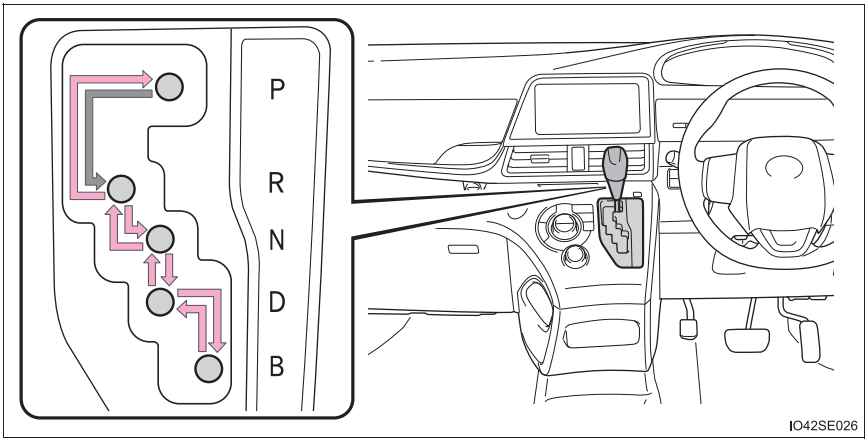
⚠警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

← パワースイッチが “ON” の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

← パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	坂道や急な下り坂など、 強いエンジンブレーキが必要なとき

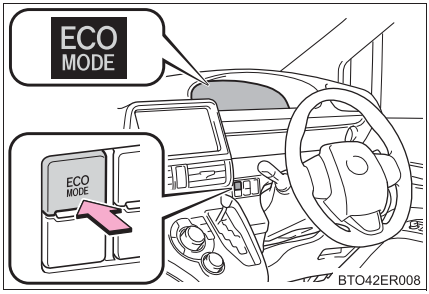
※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

エコドライブモードの選択

通常にくらべてアクセルペダルの踏みこみに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイ内の ECO MODE 表示灯が点灯します。
通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。



エコドライブモードが ON の状態は、パワースイッチを “LOCK” （スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF （スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしても記憶されています。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。

パワースイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または、ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし、一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロック解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける

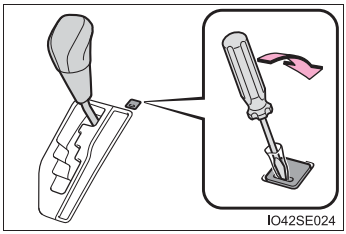
2 パワースイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

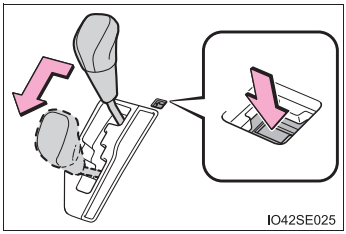
マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 180

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房・冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→ P. 321）空調の効きをより良くしたいときは、設定温度や風量を調整するか、またはエコドライブモードを解除してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

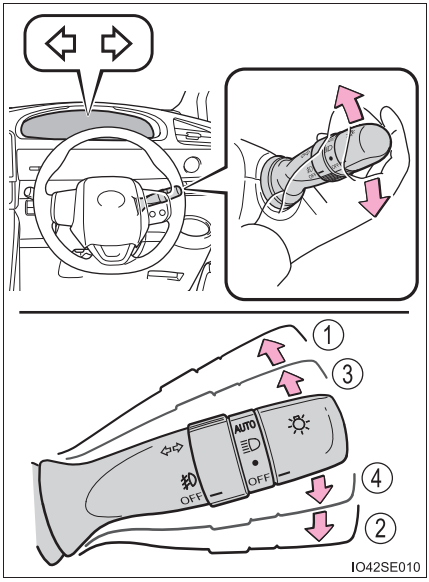
② 右折

③ 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

④ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。



知識

■ **作動条件**

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

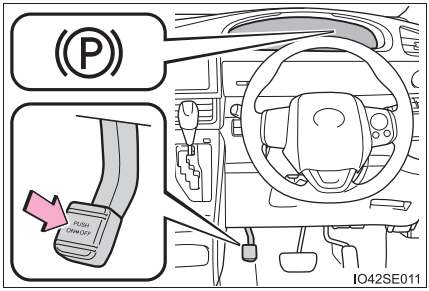
■ **表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■駐車するとき

→ P. 178

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 434

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 313

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動★または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。

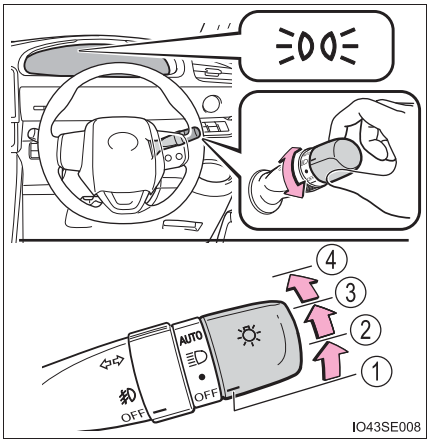
① OFF 消灯

② ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯★

（パワースイッチが “ON” ［スマートエントリー＆スタートシステム非装着車］または ON モード［スマートエントリー＆スタートシステム装着車］のとき）



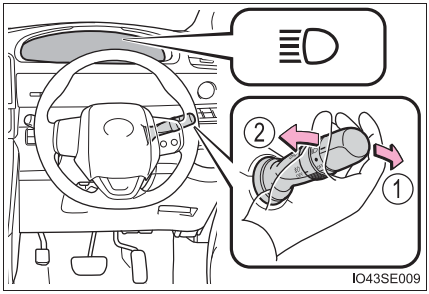
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



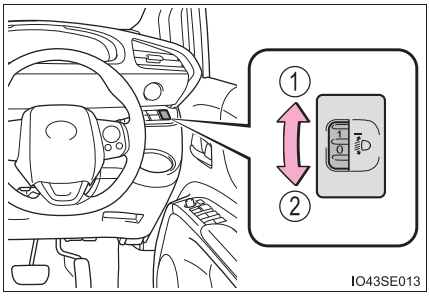
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



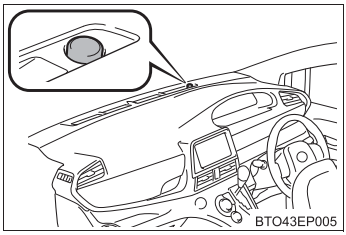
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	７人乗り車	５人乗り車
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
運転席と助手席、サードシート左右席乗員	なし	1.5	
全乗員	なし	2.5	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4	4

知識

■ライトセンサー★

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

パワースイッチを“ACC”または“LOCK”にしてフロントドアまたは、スライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または≣Dの位置にします。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてフロントドアまたは、スライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または≣Dの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム（LED ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが “ACC” または “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、またはアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。
次のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

- パワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

⚠注意

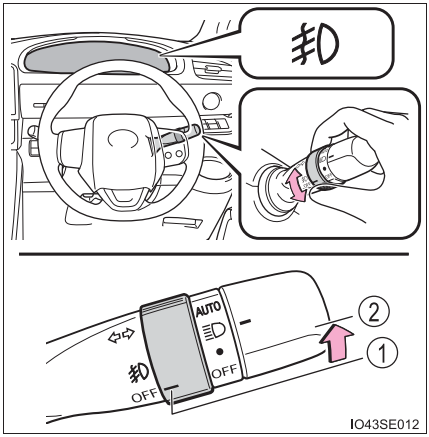
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

① OFF 消灯する
② 点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

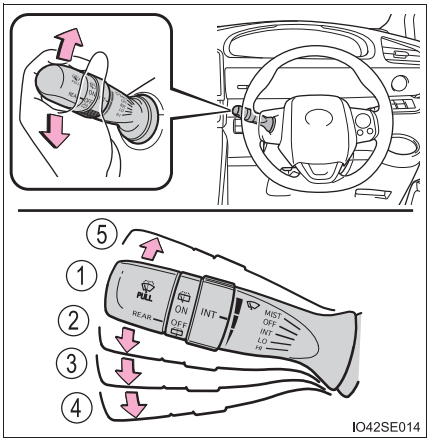
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

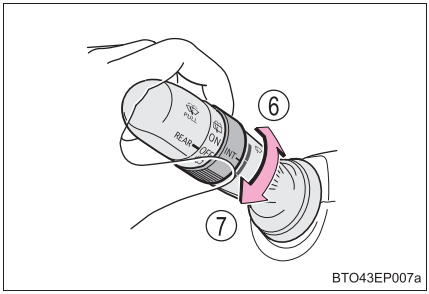
次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

① OFF 停止
② INT 間欠作動
③ LO 低速作動
④ HI 高速作動
⑤ MIST 一時作動



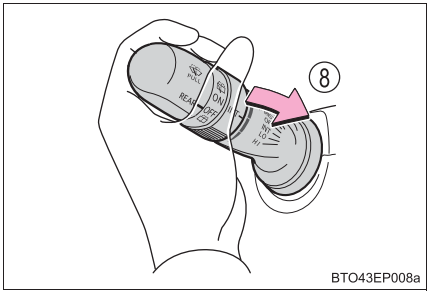
間欠作動を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のように REAR スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

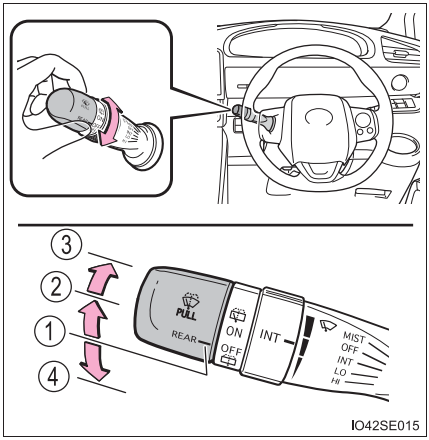
① OFF 停止

② ON 通常作動

③ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します

④ ウォッシャー液を出す



知識

■ **作動条件**

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ **ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■**リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
  ドアとドアガラスを閉めて、パワースイッチを “LOCK” にしてください。
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  ドアとドアガラスを閉めて、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

■給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）

→ P. 121

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

警告

■給油するときは

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●携帯電話などを使用しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●ガソリンエンジンの始動性が悪くなる

●ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●ガソリンエンジンの出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

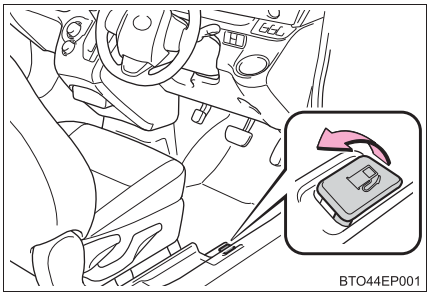
●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

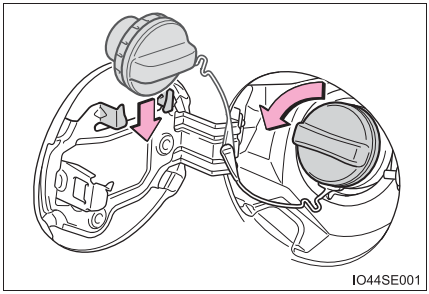
※ エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE混合率22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



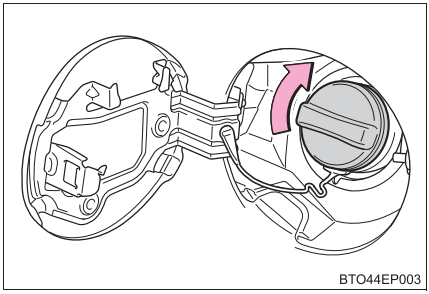
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



給油口を閉める

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense ★

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 225

■ LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）

→ P. 237

■ オートマチックハイビーム

→ P. 243

■ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 247

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムの認識性能・制御性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

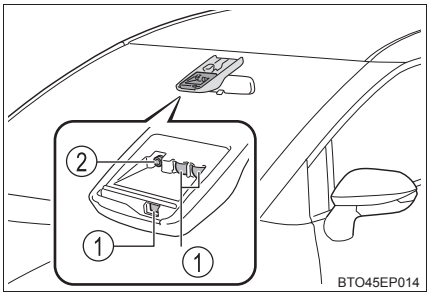
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

① レーザーレーダー

② 前方カメラ



警告

■**前方センサーについて**

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目に障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離から前方センサーをのぞき込まないでください。

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated **July 26th, 2001**

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW
パルス持続時間：33 ns
波長：905 nm
発散角（水平 × 垂直）：28° × 12°

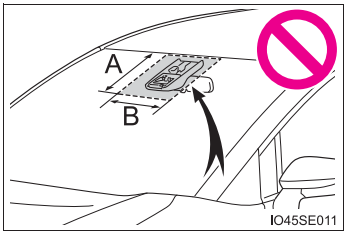
警告

■**前方センサーの故障や誤作動を防ぐために**

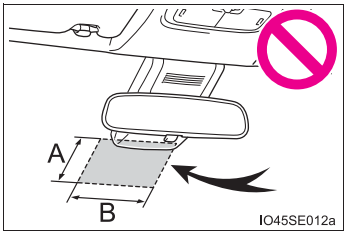
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない
A:前方センサー下端から下約 10cmまで
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点灯します。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 318）

警告

- 前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る
  水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。
- 前方センサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
  - ・ワイパーゴムの交換：→P. 390
  - ・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- インナーミラーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

知識

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・汚れや付着物を取り除く。 ・前方センサー周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P. 318）
炎天下や極寒の環境など、前方センサー周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方センサーが高温のときは、エアコンでセンサー周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方センサーが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方センサーが低温のときは、エアコンで前方センサー周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方センサーの視界がさえぎられないようにする

●周囲の環境（暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できない状況）が改善されたり、しばらく走行したりしても PCS 警告灯や警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）★

進路上の作動対象（→ P. 225）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 229）

システムの作動対象

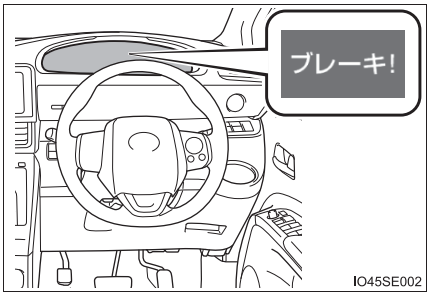
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴ってブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 231
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 234

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。

●走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保してください。

・車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
・減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 231）
・プリクラッシュセーフティを OFF にする（→ P. 229）

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

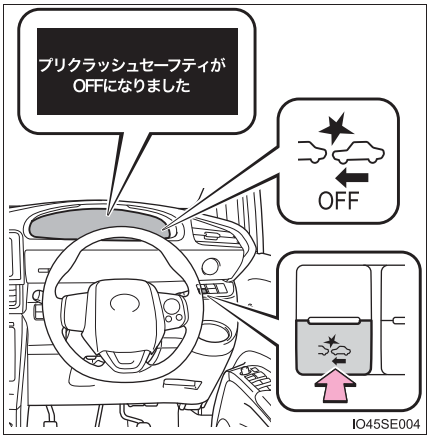
- けん引してもらうとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき（→ P. 383）
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティを OFF にする

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

パワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にするたび、プリクラッシュセーフティは ON になります。

■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

PCS スイッチを押すとマルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

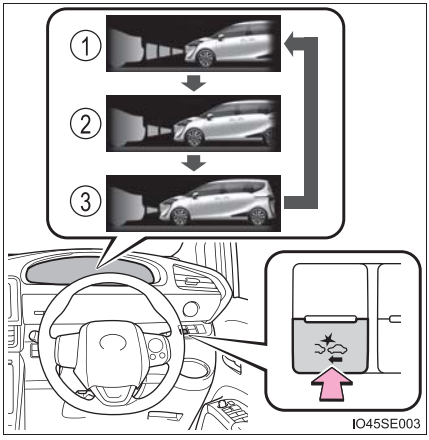
変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF の状態から ON にすると「中間」に戻ります。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 140km/h	約 15km/h 以上
歩行者	約 15 ～ 65km/h	約 15km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 80km/h	約 30km/h 以上
歩行者	約 30 ～ 65km/h	約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 80km/h	約 10km/h 以上
歩行者	約 10 ～ 65km/h	約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

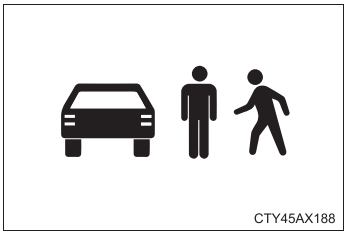
●シフトレバーが R のとき

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 234）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

●アクセルペダルを強く踏み込む ※

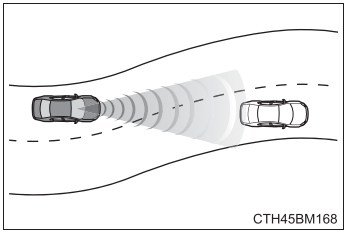
●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

※ 車速が約 15km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

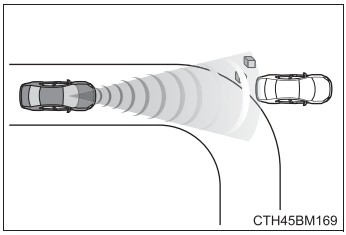
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

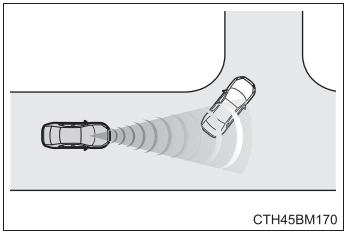

CTH45BM168

・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

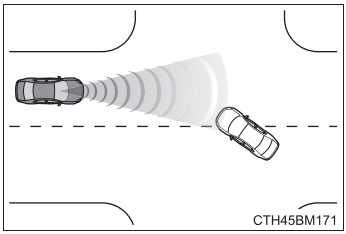

CTH45BM169

・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

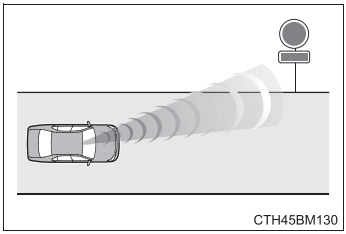
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき


CTH45BM170

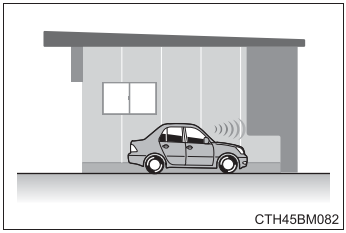
・右左折時に作動対象とすれ違ったとき
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき


CTH45BM171

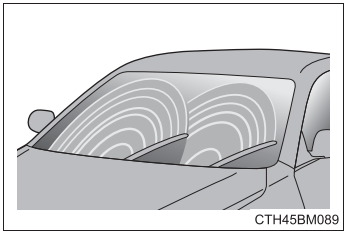
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に光を反射する物（マンホール・反射材など）・段差・突起物があるとき
・センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき


CTH45BM130

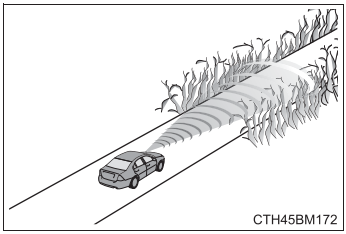
・前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき


CTH45BM082

・フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき


CTH45BM089

・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

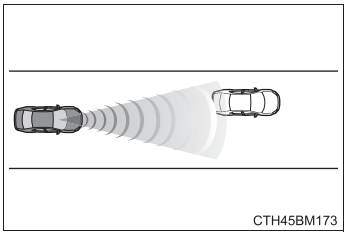

CTH45BM172

・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

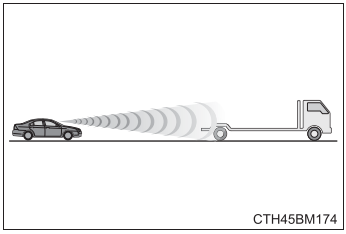
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

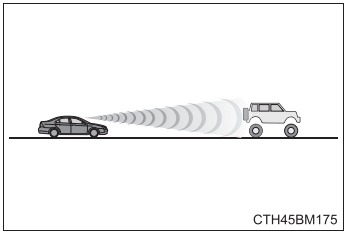
・自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（ 急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



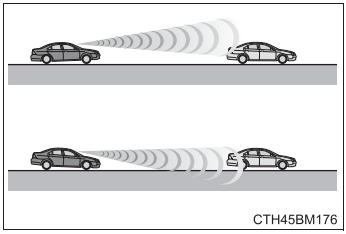
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両が自転車・オートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



・前方車両の最低地上高が極端に高いとき


CTH45BM175

・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・歩行者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき


CTH45BM176

・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
・作動対象がレーザー波を反射しにくい状態のとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの磨耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 255）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

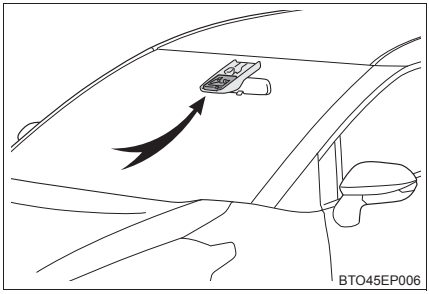
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

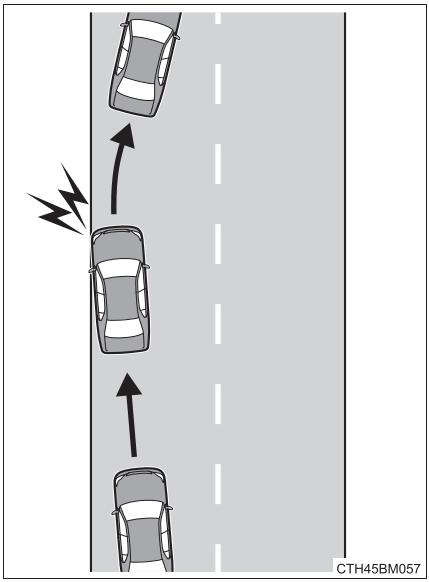
LDA は、フロントウィンドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。



車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

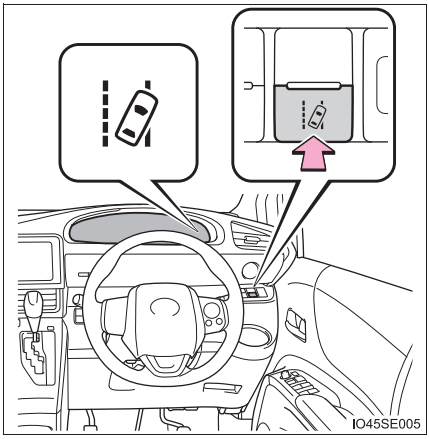
設定のしかた

LDA を使用するにはLDAスイッチを押す

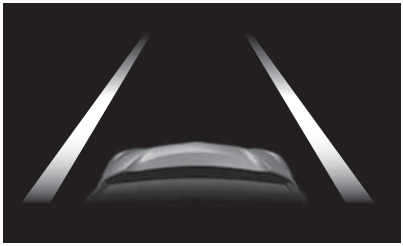
メーター内のLDA表示灯が緑色で点灯します。

OFF にするには再度 LDA スイッチを押します。

いったん LDA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



BTO45EP011

白線表示の内側が白いとき：

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

BTO45EP013

白線表示の内側が黒いとき：

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●LDA を ON にしているとき

●車速が約 50km/h 以上のとき

●システムが白（黄）線を認識しているとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき

●システムの異常が検知されていないとき（→ P. 242）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 240）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 220）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき

●分岐・合流路などを走行しているとき

●坂道を走行しているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

●急カーブを走行しているとき

●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき

●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示された場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDA 現在の車速では使用できません	車速が LDA（レーンディパーチャーアラート）の作動可能範囲を超えたため、使用できない **→ 車速を落として走行する**
LDA 約 50km/h 以下で使用できません	車速が約 50km/h 以下のため、LDA（レーンディパーチャーアラート）が使用できない **→ 50km/h 以上の車速で走行する**

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報	警報感度

設定変更のしかたは、P. 484 を参照してください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両や街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

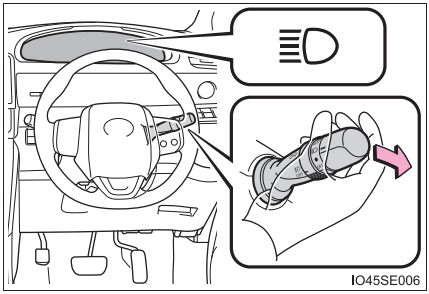
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

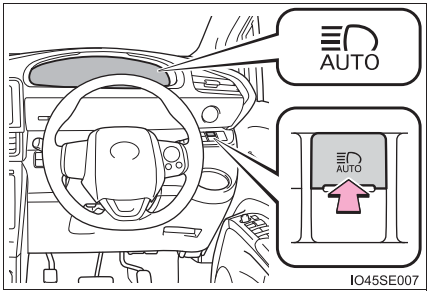
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチをAUTO★または にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

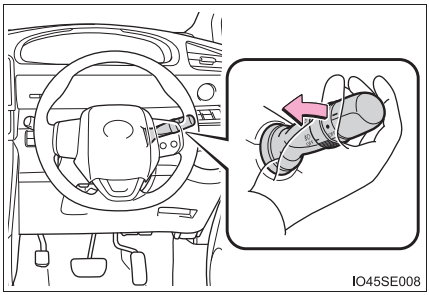
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

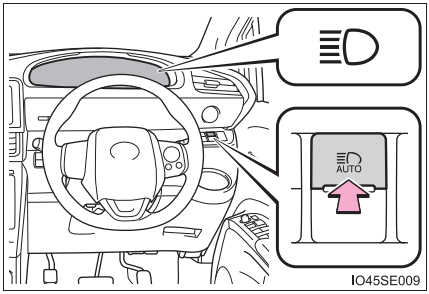


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすときは、再度スイッチを押します。



知識

■作動条件

パワースイッチが “ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または、ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のとき

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

●車速が約 30km/h 以上

●車両前方が暗い

●対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

●前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

●車速が約 25km/h 以下

●車両前方が明るい

●対向車または先行車がランプを点灯している

●前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方センサーについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

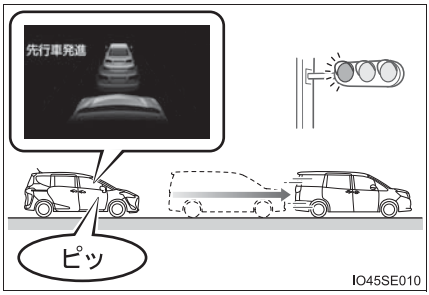
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
・前方センサーの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

先行車発進告知機能★

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にマルチインフォメーションディスプレイにお知らせします。



知識

■作動条件

シフトレバーがＰ・Ｒ以外でブレーキペダルを踏んで停止している、またはシフトレバーがＮで停止しているとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、システムは正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき。
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車と認識したとき
- 自車と先行車のあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面（→ P. 484）で、先行車発進告知機能に関する次の設定を変更することができます。

- 先行車発進告知機能の ON ／ OFF
- 先行車発進告知機能の告知タイミング

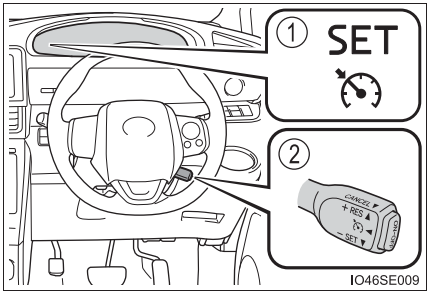
クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

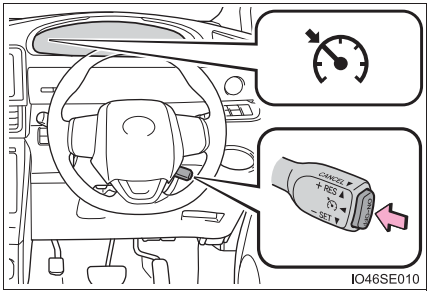


速度を設定する

1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

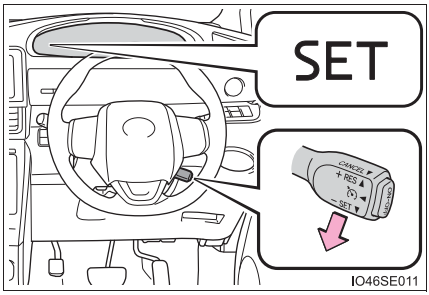
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

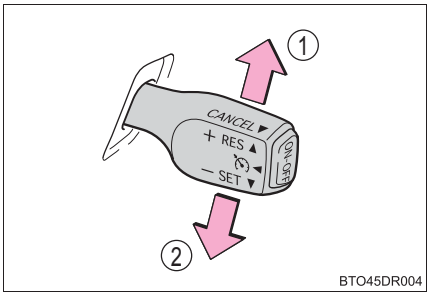
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する



設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

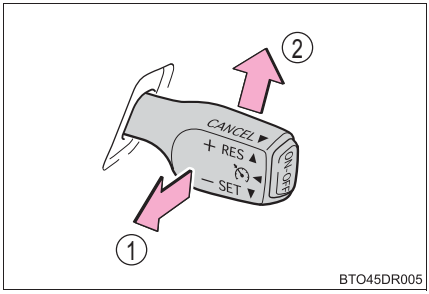
定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 40km/h 以上のとき設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズシステムチェック」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 一般道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

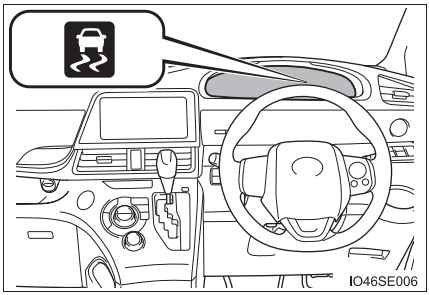
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



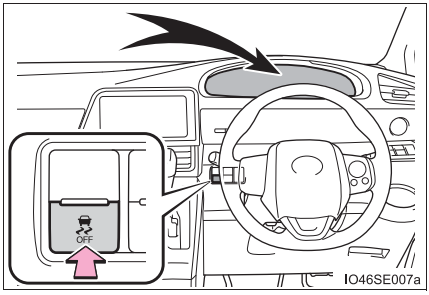
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に [OFF] を押し 3 秒以上保持する。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。※

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。（→ P. 230）

■ [OFF] を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC　OFF」が表示されたとき

TRCが一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 483）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

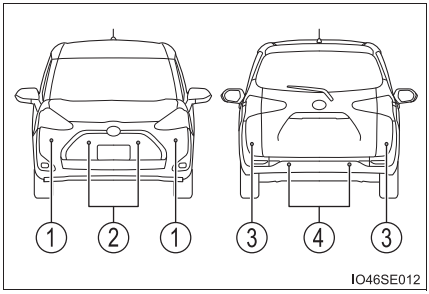
問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー



クリアランスソナーの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で ON（作動）・OFF（停止）を切りかえることができます。（→ P. 484）

ON を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF を選択して、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面から P を ON にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。
（パワースイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

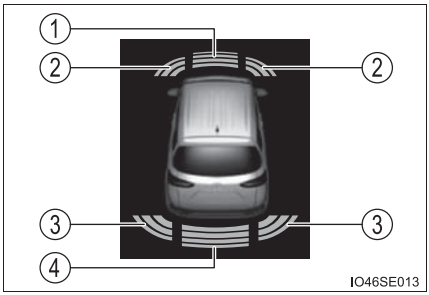
クリアランスソナーの表示のしかた

① フロントセンターセンサー作動表示

② フロントコーナーセンサー作動表示

③ リヤコーナーセンサー作動表示

④ バックセンサー作動表示



距離表示の見方

表示※	障害物までのおおよその距離		
	―	フロントコーナー& フロントセンターセンサー	リヤコーナー& バックセンサー
 （点灯）	遠い ↑	フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm	バックセンサー： 約 150cm ～ 60cm
 （点灯）		コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm フロントセンターセンサー： 約 60cm ～ 45cm	コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm バックセンサー： 約 60cm ～ 45cm
 （点灯）		コーナーセンサー： 約 45cm ～ 35cm フロントセンターセンサー： 約 45cm ～ 35cm	コーナーセンサー： 約 45cm ～ 35cm バックセンサー： 約 45cm ～ 35cm
 （点灯）	↓ 近い	コーナーセンサー： 約 35cm 以下 フロントセンターセンサー： 約 35cm 以下	コーナーセンサー： 約 35cm 以下 バックセンサー： 約 35cm 以下

※ イラストは説明のための例であり、センサーの検知状態により表示は異なります。（→ P. 260）

ブザーについて

障害物を検知すると、ブザーが鳴ります。

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
  ・フロントコーナーセンサーが検知した障害物との距離が約　35cm 以下
  ・フロントセンターセンサーが検知した障害物との距離が約　35cm 以下
  ・リヤコーナーセンサーが検知した障害物との距離が約 35cm 以下
  ・バックセンサーが検知した障害物との距離が約 35cm 以下

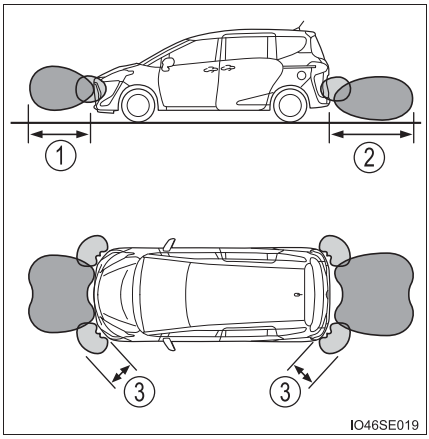
● 複数のセンサーが同時に障害物を検知しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

障害物を検知できる範囲

① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）
  ・検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると検知できません。
  ・障害物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



知識

■作動条件

パワースイッチが “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または、ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のとき

●フロントコーナーセンサー：

・シフトポジションが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●フロントセンターセンサー：

・シフトポジションが P・R 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー／バックセンサー：

・シフトポジションが R にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると検知できないことがあります。

●障害物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、表示やブザーが出る前に障害物まで、約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

●センサーより低い物体や細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

●オーディオ（装着車のみ）・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ブザーの一時消音について

●ミュート（消音）させるとき：

マルチインフォメーションディスプレイに検知した画面が表示されているときにメーター操作スイッチの◎を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

●ミュート（消音）が自動解除されるとき：

・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が約 10km/h をこえたとき
・クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
・パワースイッチを “LOCK” にし、再度 “ON” にしたとき（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または、OFF にし、再度 ON モード にしたとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ブザーの音量などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

警告

■**クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー検知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが検知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください

警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近にいたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水が被ったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- バンパー真下付近は検知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

上記に加えて障害物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

警告

■**正確に検知できないことがある障害物**

次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●障害物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■**洗車時の注意**

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

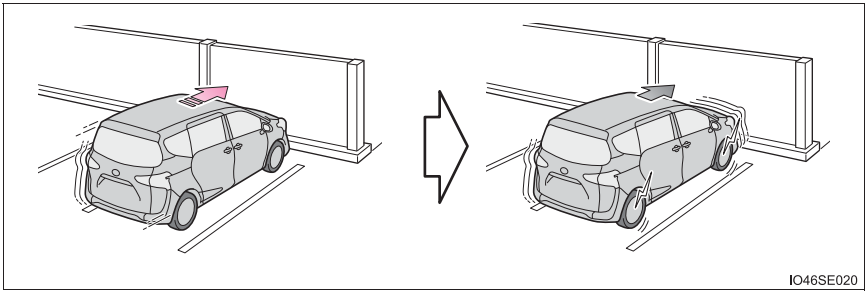
パーキングサポートブレーキ（静止物）★

駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止している障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

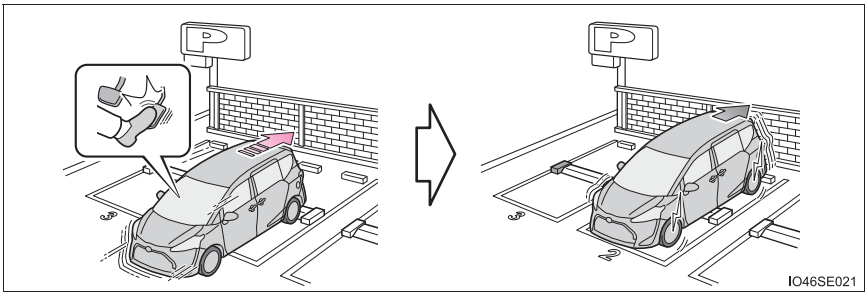
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止している障害物を検知してシステムが作動します。

◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

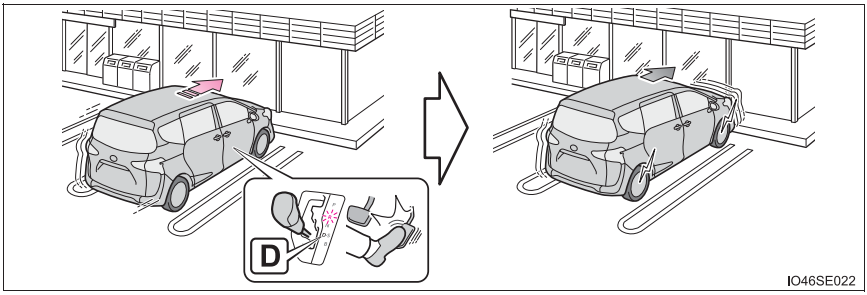


◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



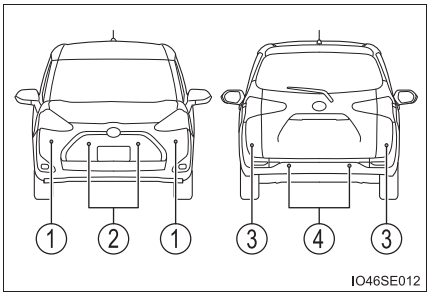
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



センサーの種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー



パーキングサポートブレーキ（静止物）の設定変更

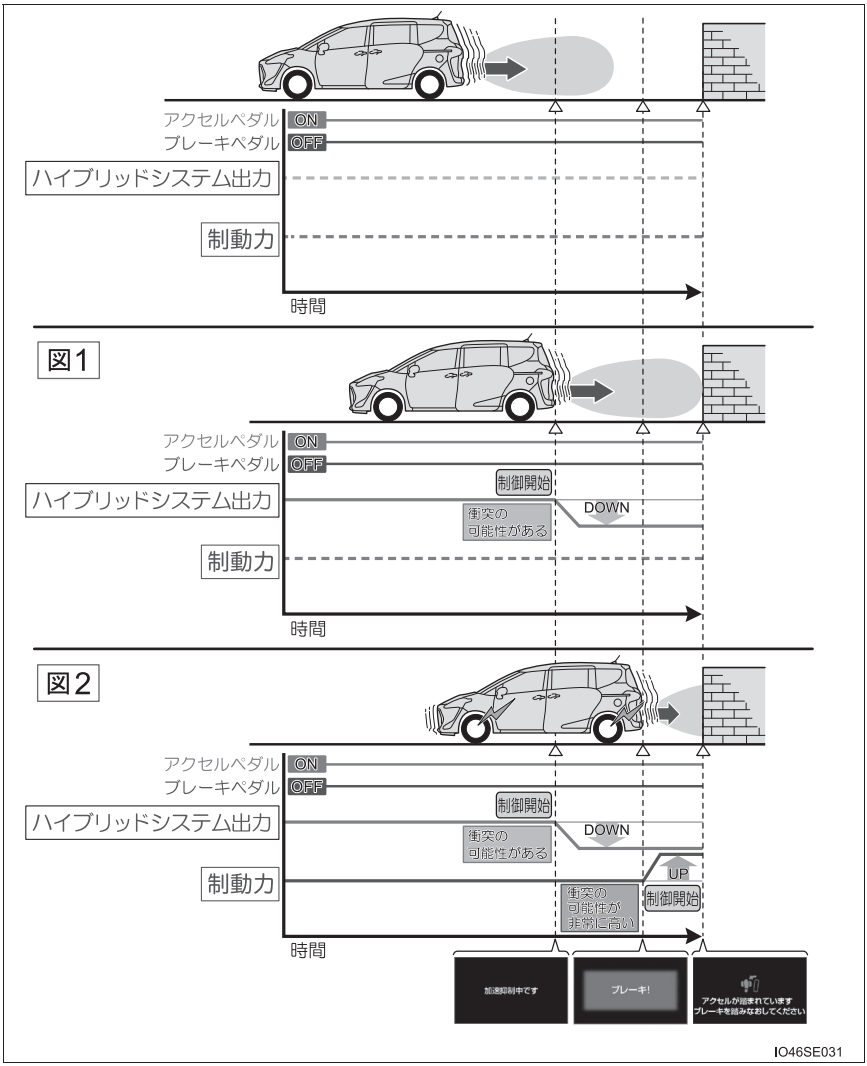
マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面でパーキングサポートブレーキの ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。

パーキングサポートブレーキ（静止物）が OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

OFF を選択して、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面から ON にし、システム作動状態にしないとパーキングサポートブレーキ（静止物）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキ（静止物）は、衝突の可能性がある静止している障害物を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：下記図 1）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 272, 277）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

▶ ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・車両進行方向に静止している障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

▶ ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

▶ ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
・車両進行方向の静止している障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

▶ ブレーキ制御
・パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
・車両進行方向の静止している障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	PKSB OFF表示灯	ブザー
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）	一定以上の加速ができない状況		消灯のまま	吹鳴なし
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況		消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況			
システム作動により車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況		点灯	

知識

■センサーの検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 262）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが作動したとき

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（静止物）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。
作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏めば発進できます。

■システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（静止物）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（静止物）を復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON にし停止を解除（→ P. 269）するか、パワースイッチをいったん “LOCK” にしてから再度、“ON” （スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または、いったん OFF にしてから再度、ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしてください。
また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■センサーが検知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが検知しない場合があります。

- クリアランスソナーの検知エリア外に障害物がある（約 4.0m）
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  （特に人は衣類の種類によっても検知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの
- 静止していない障害物

■クリアランスソナーのブザーについて

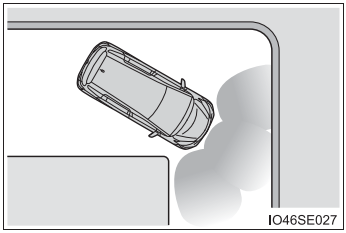
クリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく（→ P. 259）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→ P. 269）、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を検知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

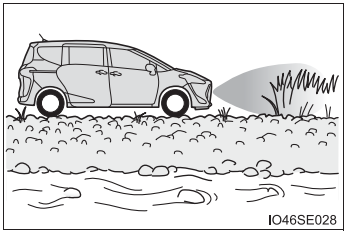
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

・狭い道路を走行するとき



・砂利道・草むらなどを走行するとき



・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・縦列駐車時
・地面にわだちや穴がある場合
・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・急な登坂路を走行するとき
・冠水している道路でセンサーに水が被ったとき

●天候の影響

・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞･フォグランプ･フェンダーポール･無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したとき

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため､そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

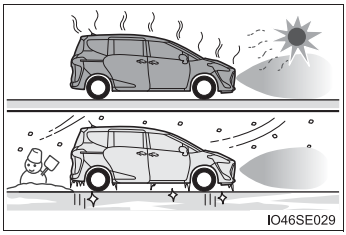
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響

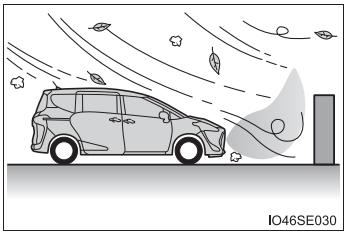
・検知できる障害物と車両のあいだに、検知できない障害物がある場合
・車・二輪車・自転車・歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

・炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合


IO46SE029

・風が強いとき


IO46SE030

・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞･フォグランプ･フェンダーポール･無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■補機バッテリーを脱着したとき

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅したとき

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

●センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったとき

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検してください。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（静止物）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●パーキングサポートブレーキ（静止物）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 269）について、次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

●改造・分解・塗装などをしない

●アクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●純正品以外に交換しない

●センサー周辺へ衝撃を与えない

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく検知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

⚠注意

■センサーの故障を防ぐために

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- けん引フック、バンパプロテクター、バンパトリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノープラウ）などを取り付けた場合

パノラミックビューモニター ※ ★

※ パノラミックビューモニターは、販売店オプションのパノラミックビューモニター対応のナビゲーションシステムを取り付けたときに使用することができます。

パノラミックビューモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成して画面上につなぎ目のない車両上方からの映像を表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

警告

- 安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。
- パノラミックビューモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

知識

- 本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

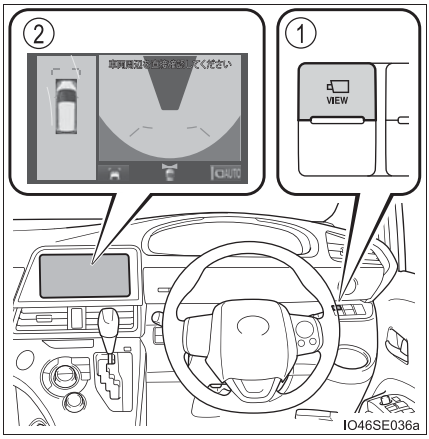
パノラミックビューモニター画面の表示

パワースイッチが “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のときにメインスイッチを押すと、パノラミックビューモニター画面がディスプレイに表示されます。

一定の車速を上まわっているときは、一定時間が経過すると、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報表示画面にもどります。
パノラミックビューモニター画面が表示される時間は、現在の車速等の条件によりかわります。（→ P. 282）

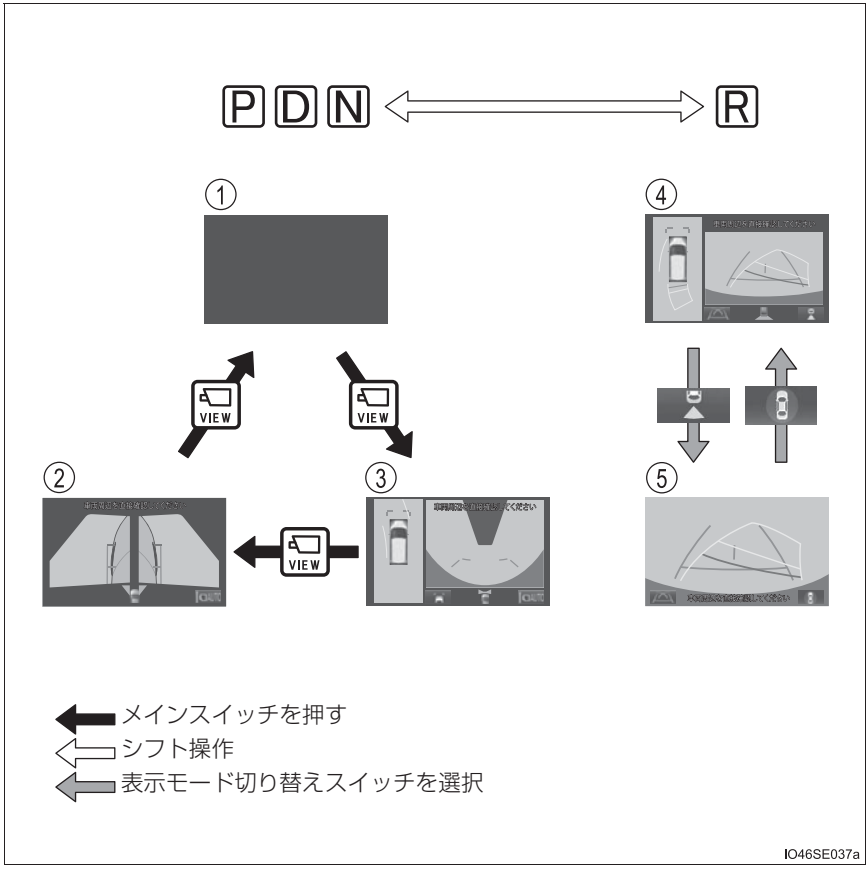
① メインスイッチ

② ディスプレイ



パノラミックビューモニターの画面遷移

パノラミックビューモニター画面の表示中にスイッチを操作することで、次のように画面表示を切りかえることができます。（以下は一例です。）



① ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面など ※

② 両サイドビュー：→ P. 286

③ パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー：→ P. 284

④ パノラミックビュー＆バックビュー：→ P. 288

⑤ バックビュー：→ P. 288

※ 詳しくは販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書を参照してください。

知識

- 車速が約 20km/h 以下でメインスイッチを押した場合、パノラミックビューモニター画面を表示します
- 車速が約 20km/h 以上になった場合、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面が表示されます。

パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー

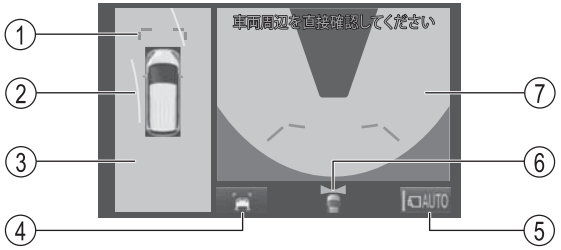
見通しの悪い交差点や T 字路などで、車両の前方と左右方向の状況確認をするために、車両上方からの映像と前方カメラからの映像を同時に表示するモードです。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトレバーを P、D、または N に入れる

2 メインスイッチを押す

パノラミックビュー＆ワイドフロントビューが表示されます。



IO46SE038a

① 前方距離目安線

フロントバンパー前端から約 1.0 m 先（青色）を示す。

② 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示す（黄色）。
（直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示）

③ パノラミックビュー

④ ガイド線表示モード切り替えスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードを切り替える。（→ P. 285）

⑤ 自動表示モード切り替えスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切り替える。（→ P. 285）
・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

⑥ 表示エリア

⑦ ワイドフロントビュー

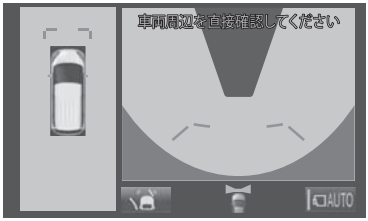
⚠ 警告

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ ガイド線表示モードについて

ガイド線表示モード切り替えスイッチを選択するごとに、表示モードが切り替わります。

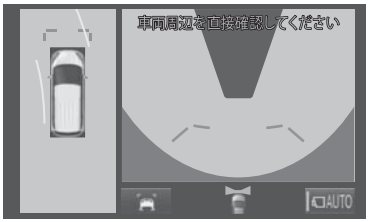
▶ 距離目安線表示モード



IO46SE039

● 車両前端から約 1.0 m 先を示します。（青色）

▶ 予想進路線表示モード



IO46SE040

● ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示されます。

■ 自動表示モードについて

メインスイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。
・シフトレバーを D または N にしたとき
・車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトレバーが R 以外）

● AUTO を選択するごとに、自動表示モードの ON と OFF が切り替わります。

両サイドビュー

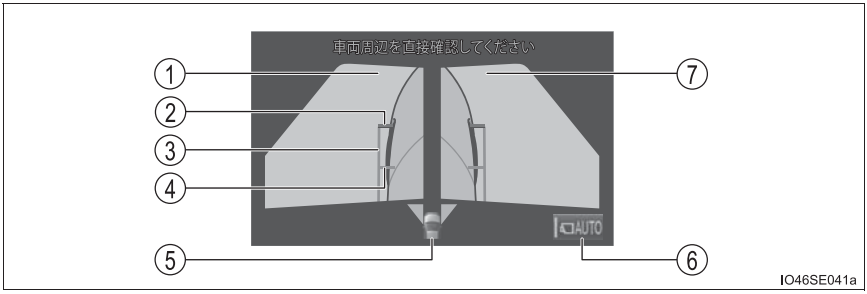
左右両サイドに設置されたカメラからの映像を表示し、車両側方の安全確認や狭小路での接触回避などの操作を補助するモードです。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトレバーを P、D、または N に入れる

2 メインスイッチを両サイドビューが表示されるまで押す

◆ 画面の見方について



① サイドビュー（左前側方）

② 前方距離目安線

車両前端から約 0.5m 先（赤色）を示す。

③ 車幅平行線

ドアミラー分を含んだ車幅の目安（青色）を示す。

④ 前輪接地線

前タイヤの位置（青色）を示す。

⑤ 表示エリア

⑥ 自動表示モード切り替えスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切り替える。（→ P. 285）

・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

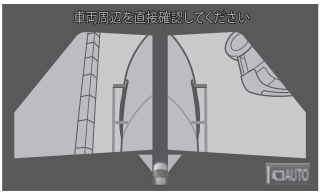
⑦ サイドビュー（右前側方）

⚠ 警告

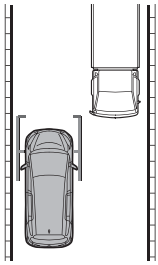
乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

◆ 車幅平行線の使い方

画面



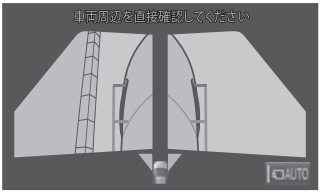
車の状況



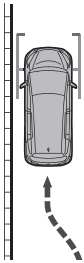
IO46SE042a

- 車幅平行線と障害物との位置関係を見ます。
- 車幅平行線が実際の障害物などに重ならないようにハンドルを操作して前進します。

画面



車の状況



IO46SE043a

- 車幅平行線と路肩の縁石などの目標物との位置関係を見ます。
- 上記のように車幅平行線が重ならないように車両を幅寄せします。
- 同時に車幅平行線と目標物が平行になるように運転操作することで、目標物に沿って駐車することができます。

パノラミックビュー&バックビュー

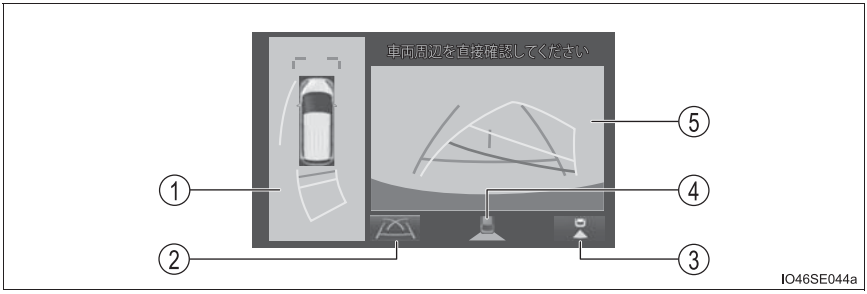
駐車時の安全確認を行うために、車両上方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。表示モード切り替えスイッチを選択するとバックビューのみを表示するモードに切り替えることができます。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

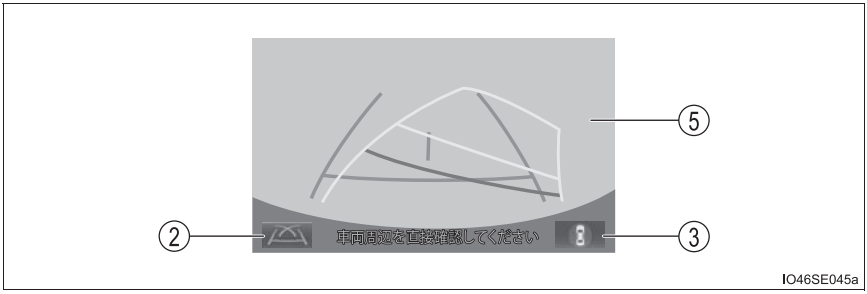
1 シフトレバーを R に入れる

パノラミックビュー&バックビューが表示されます。

▶ パノラミックビュー&バックビューモード



▶ バックビューモード



① パノラミックビュー

② ガイド線表示モード切り替えスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードを切り替える。（→ P. 285）

③ 表示モード切り替えスイッチ

パノラミックビュー&バックビューモードとバックビューモードの間で表示モードを切り替える。

④ 表示エリア

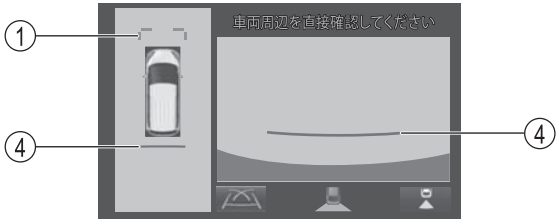
⑤ バックビュー

◆ 画面の見方について

■ 距離目安線表示モード

距離目安線のみ表示されるモードです。

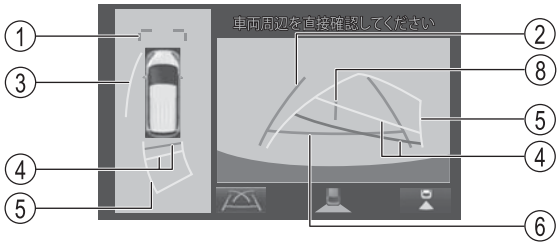
ガイドを必要としない方はご使用ください。



IO46SE046

■ 予想進路線表示モード

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。

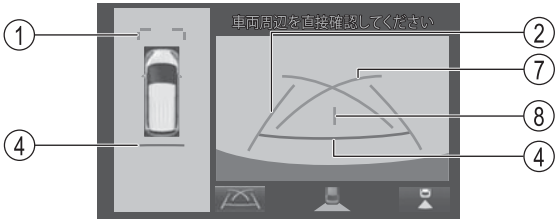


IO46SE047a

■ 駐車ガイド線表示モード

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（進路線表示を必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。



IO46SE048

① 前方距離目安線

フロントバンパー前端から約 1.0 m 先（青色）を示す。

② 後方車幅延長線

車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示す。

・ 実際の車幅より広く表示。
・ 直進状態になっているときは、予想進路線と重なる。（予想進路線表示モード）

③ 側方予想進路線

ハンドルの角度から算出した後退予想進路（黄色）を示す。

・ ハンドルの方向に応じて、フロントに旋回方向外側の後退予想進路を表示します。

④ 後方距離目安線

車の後方の距離を示す。予想進路線表示モードでは、ハンドル操作と連動する。

・ 予想進路線と連動する。（予想進路線表示モード）
・ バンパー後端の中心位置から約 0.5 m 先（赤色）・約 1 m 先（黄色）を示す。（予想進路線表示モード）
・ バンパー後端の中心位置から約 0.5 m 先（赤色）を示す。（距離目安線表示モード / 駐車ガイド線表示モード）

⑤ 後方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示す。

⑥ 後方距離目安線

車の後方の距離を示す。

・ バンパー後端から約 0.5 m 先（青色）を示す。

⑦ 駐車ガイド線

もっとも後方へ小まわりしたときの進路の目安を示す。
・駐車時にハンドルを操作する位置の目安。

⑧ 車両中央線

車幅延長線の中心位置を示す。

警告

- 乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- ハンドルがまっすぐ（直進状態）で車幅延長線と予想進路線がずれているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

- バックドアが閉じていないとガイド線は表示されません。バックドアを閉じてもガイド線が表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

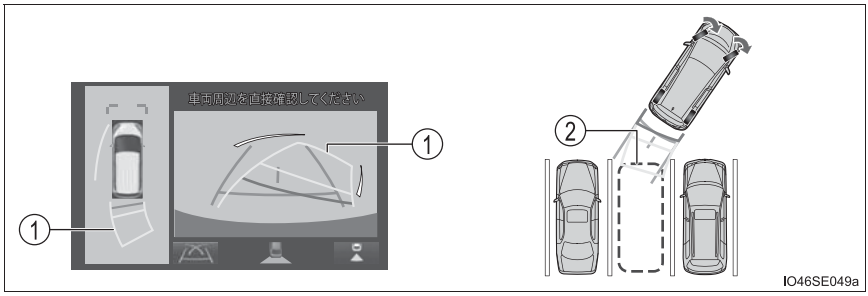
◆ 駐車する

■ 並列駐車をする（予想進路線表示モード）

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトレバーを R にする

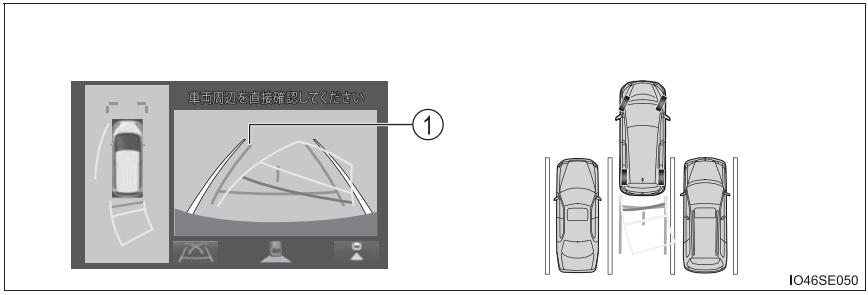
2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



① 予想進路線

② 駐車スペース

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線が駐車スペース左右の区画線の間に入るようにハンドルを操作する



① 車幅延長線

4 車幅延長線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

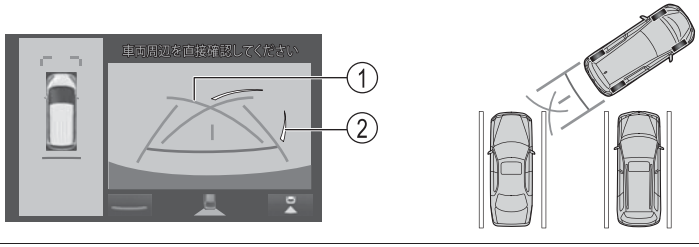
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

■ 並列駐車をする（駐車ガイド線表示モード）

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトレバーを R にする

2 駐車ガイド線が駐車スペースの左端の区画線に合うまで後退したら止まる



① 駐車ガイド線

② 駐車場の区画線

3 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

4 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

5 適切な位置で停車し、駐車を終える

パノラミックビューモニターの注意点

運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。お守りいただかないと、車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

パノラミックビューモニターを使用するときは以下のことをお守りください。

警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。
  一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
  画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。
- 乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 以下のような状況では、使用しないでください。
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・フロントドア・スライドドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
  - ・坂道など平坦でない道路
  - ・タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
  - ・サスペンションを改造しているとき
  - ・画面に映るエリアに社外品を装着しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

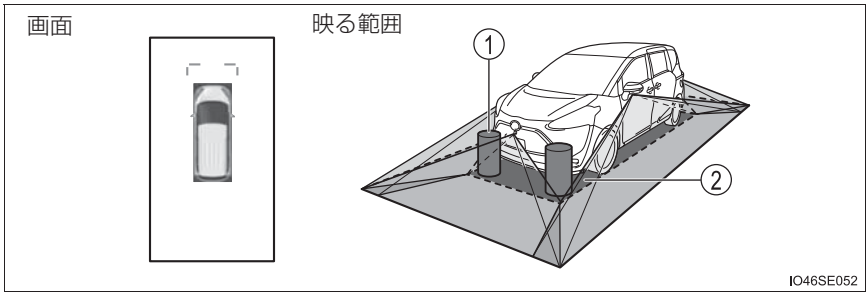
注意

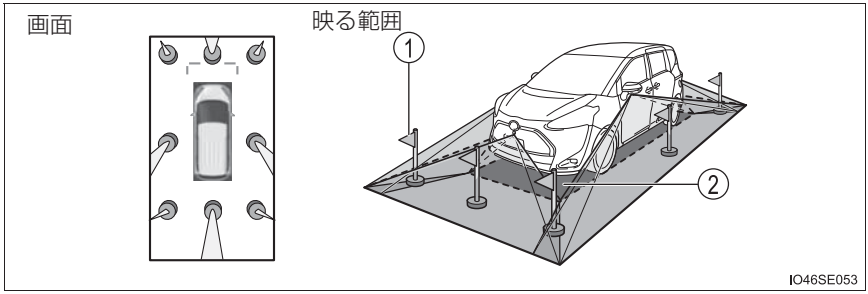
- パノラミックビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、パノラミックビューモニターの特性を十分理解したうえで使用してください。
- パノラミックビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、パノラミックビューに明暗ができる場合があります。
- パノラミックビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。
- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビューに表示されている立体物が、パノラミックビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- バックカメラが取り付けられたバックドア、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、パノラミックビューモニターは正しく表示されません。
- パノラミックビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置関係と異なる場合があります。

◆ 画面に映る範囲について

■ パノラミックビューの表示される領域について

車両付近には死角があり、表示されない領域があります。画面では車両の周辺に何も表示されていなくても、実際には障害物が進路上にあるため、接触することがあります。必ず周囲の安全を直接確認してください。



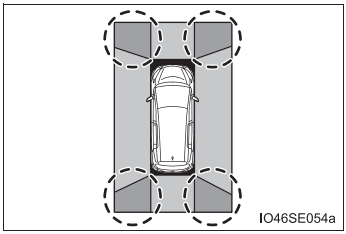


① 表示されません。

② 表示されません。（車両アイコンまわりに黒色で示されている部分）

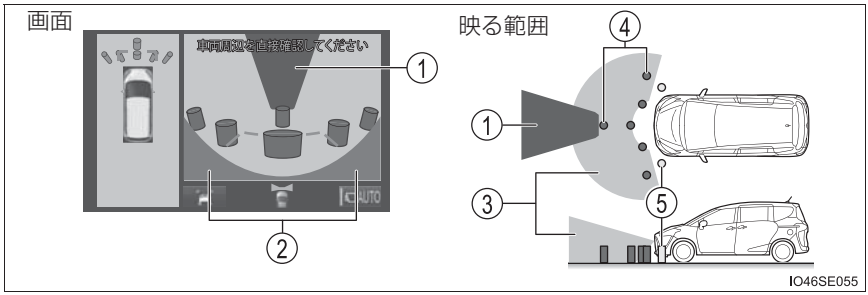
知識

- 車両アイコンまわりの黒色部分はカメラに映らない部分です。直接確認してください。
- パノラミックビューは、4 つのカメラから得られた画像を平な路面を基準に加工して表示しているため、以下のように表示されることがあります。
  - ・立体物が倒れて細長く、もしくは大きく見える。
  - ・路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、もしくは見えない。
  - ・高さのある物が合成のつぎ目から現れてくるように見える場合がある。
- 照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。
- 乗員人数、積載状況、ガソリン残量による車体の傾きや車高の変化などにより、表示映像がずれる場合があります。
- ドアが完全に閉まっていないと、表示映像・ガイド線が正しく表示されない場合があります。
- パノラミックビューに表示されている車両アイコンと、路面・障害物との位置関係は実際の位置とは異なる場合があります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。
- 図の○部分は画像を合成しているため、映像が見えにくい場合があります。



■ カメラに映る範囲について

▶ ワイドフロントビュー



① マスキング

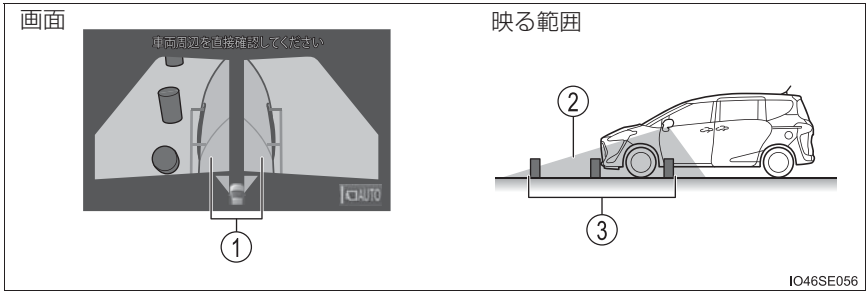
② 画面に車体の一部（バンパーやグリルなど）が映ります。

③ カメラの視野範囲

④ カメラで確認できる対象物

⑤ カメラで確認できない対象物

▶ 両サイドビュー

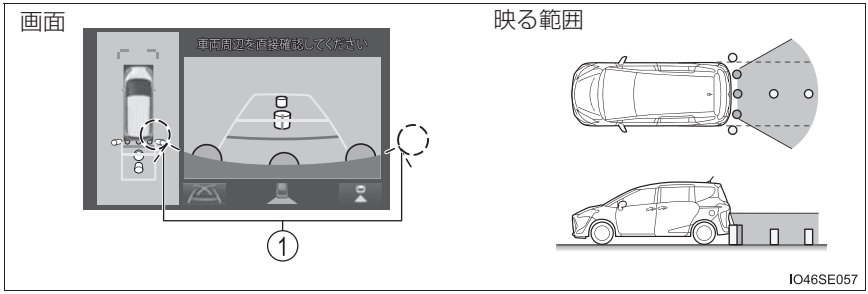


① 画面に車体の側方が映ります。

② カメラの視野範囲

③ カメラで確認できる対象物

▶ バックビュー



① バンパーの両端付近は映りません。

知識

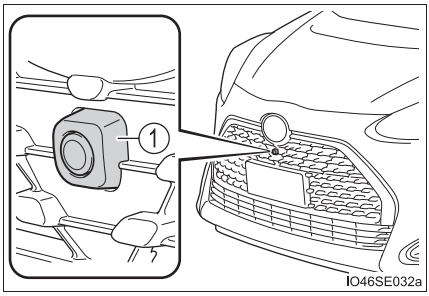
- 車両前方は距離感が異なるため、マスキングをしています。
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にある物は映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ワイドフロントビュー・両サイドビュー・バックビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

◆ カメラについて

パノラミックビューモニターの各カメラは以下の位置にあります。

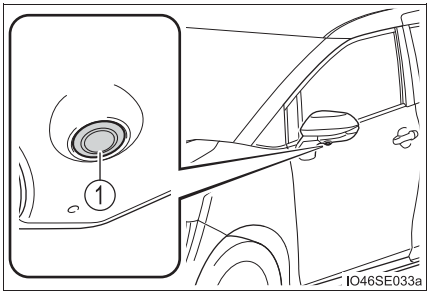
■ フロントカメラ

① フロントカメラ



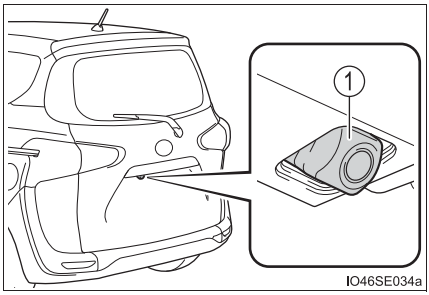
■ サイドカメラ

① サイドカメラ（左右両側）



■ バックカメラ

① バックカメラ



■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。

この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

注意

●パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

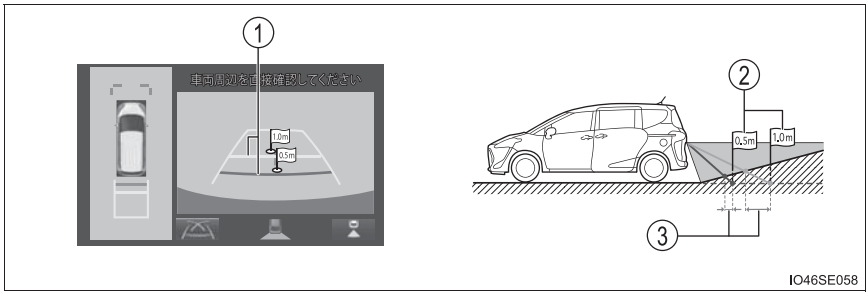
◆ 画面と実際の路面との誤差について

▶ パノラミックビュー／バックビュー

距離目安線や、パノラミックビューの合成映像・ガイド線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、以下の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

■ 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



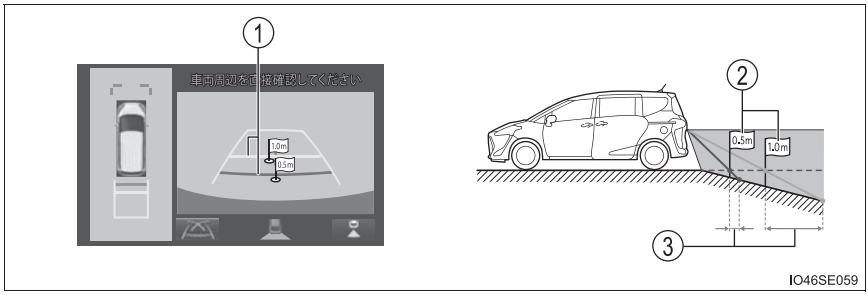
① 距離目安線

② 実際の距離

③ 誤差

■ **急な下り坂が後方にあるとき**

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



① 距離目安線

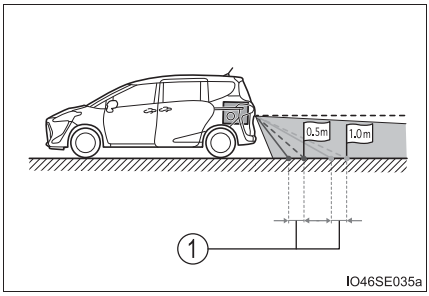
② 実際の距離

③ 誤差

■ **車が傾いているとき**

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

① 誤差

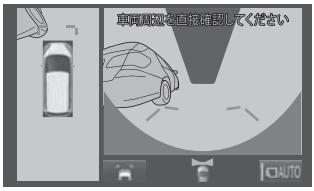


◆ 画面と実際の立体物との誤差について

路面より高い位置にある立体物（車両バンパーなど）が近くにあるときは、以下のことにご注意ください。

■ パノラミックビューの表示について

パノラミックビューは、平らな路面を基準に画像を加工して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーとの間に余裕があり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。
周囲の安全を直接確認してください。

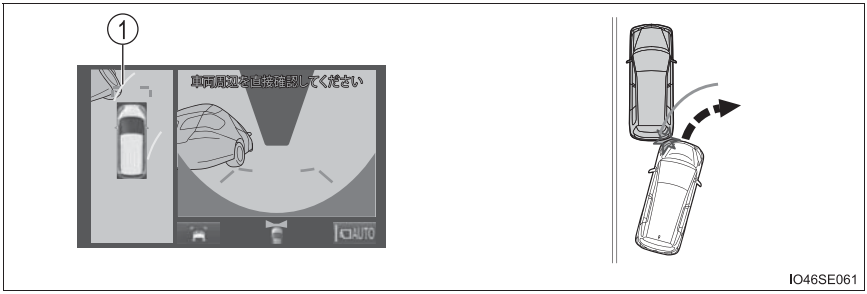


IO46SE060

■ 予想進路線について

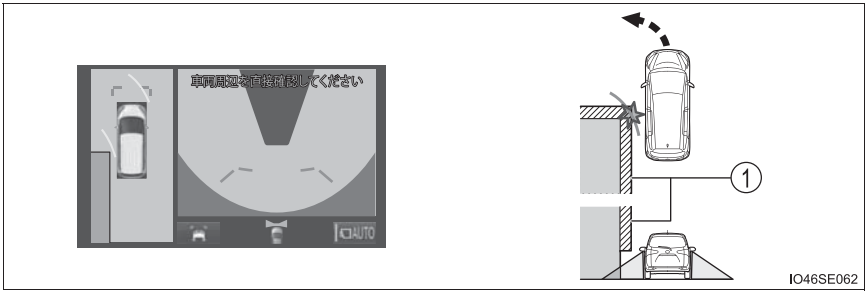
▶ パノラミックビュー

予想進路線は平らな路面に対して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーが予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。



① 予想進路線

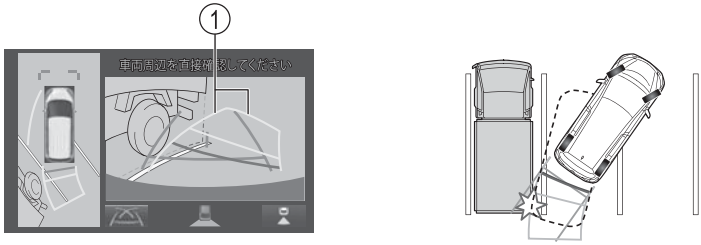
高い位置にある立体物（張り出しのある壁やトラックの荷台など）は、画面に映らない場合があります。
周囲の安全を直接確認してください。



① 壁の張り出し部分

▶ バックビュー

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

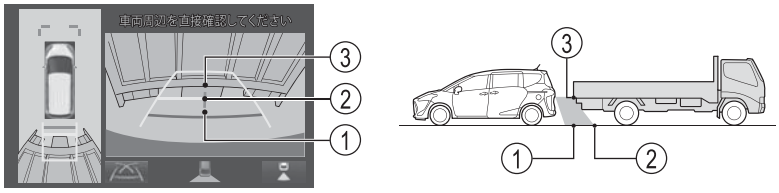


IO46SE063

① 予想進路線

■ 距離目安線について

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物との距離を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により②の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には①の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では①・②・③の順に近く見えますが、実際の距離は①と③は同じ距離で、②は①と③より遠い距離にあります。



IO46SE064

知っておいていただきたいこと

◆ 故障とお考えになる前に

下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	処置
❑ 画面が見にくい	
・夜間など暗いところで使用。 ・レンズ付近の温度が高い、または低い。 ・外気温が低いとき。 ・カメラに水滴がついた。 ・雨天時など湿度が高い。 ・カメラ付近に異物（泥など）がついた。 ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たった。 ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明下で使用した。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びパノラミックビューモニターをご使用ください。） パノラミックビューモニターの画質調整の方法は、ナビゲーション画面の調整と同じです。詳しくは販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書を参照してください。
❑ 画面が不鮮明	
カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している。	大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
❑ 画面がずれている	
カメラ部に強い衝撃が与えられた。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ガイド線が大きくずれる	
カメラの位置がずれている。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
・車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど）。 ・傾斜地で使用するとき。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

考えられる原因	処置
❑ ハンドルが直進状態であるにも関わらず予想進路線がまがっている（車幅延長線と予想進路線がずれる）	
ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ 車両後方のガイド線が表示されない	
バックドアが開いている。	バックドアを閉める。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ！マークが表示される	
・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行った。 ・補機バッテリー能力が低下した。 ・ステアリングセンサーを脱着した。 ・ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	車を止め、ハンドルを左右いっぱいにまわしてください。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 202）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 89）

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 368）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレード★について

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ドアやワイパーが凍結したとき

ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。
熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン.....316

ステアリングヒーター／
シートヒーター.....324

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....327

・パーソナルランプ／
フロントルームランプ.....328

・リヤルームランプ.....328

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....330

・グローブボックス.....331

・助手席
アッパーボックス.....331

・カップホルダー／
ボトルホルダー.....332

・ドアポケット.....334

ラゲージルーム内装備.....335

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....339

・サンバイザー.....339

・バニティミラー.....339

・アクセサリーソケット.....340

・充電用 USB 端子.....341

・アクセサリー
コンセント.....343

・買い物フック.....350

・アシストグリップ.....351

・時計.....352

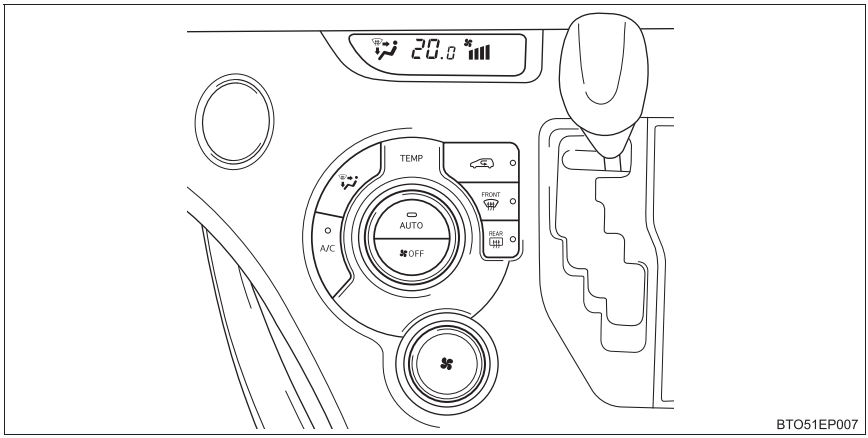
・アームレスト.....353

・ステアリングスイッチ.....354

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作について



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは を右に、下げるときは左にまわす

が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは を右に、減らすときは左にまわす

を押すと、送風が止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

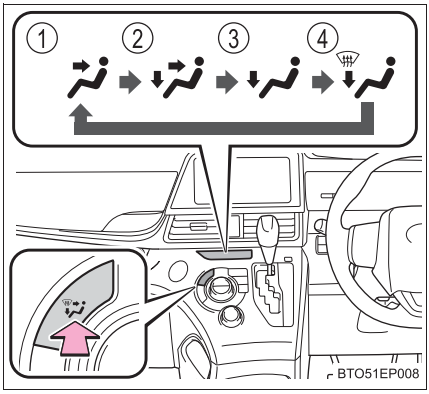
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

1

を押す

2 温度を設定する

3

を押す

押すたびにエアコンの ON ／ OFF が切りかわります。

4 送風を止めたいときは、

を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

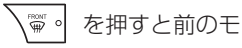
を押す

ボタンを押すたびに外気導入／内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

押すごとに作動が切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

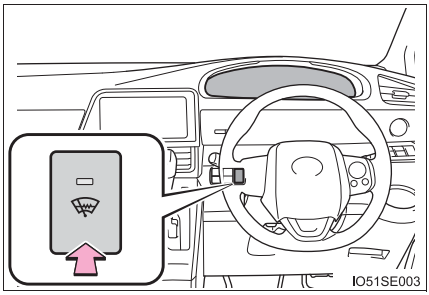
・押すごとに作動が切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。
・リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



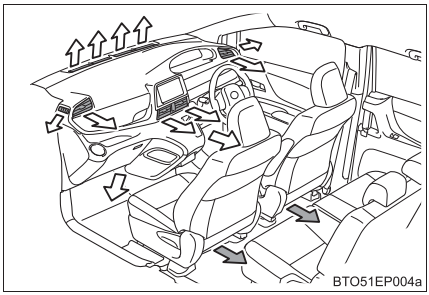
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

⬅：寒冷地仕様車のみ

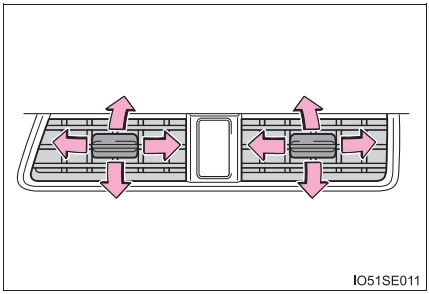


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

風向きの調整

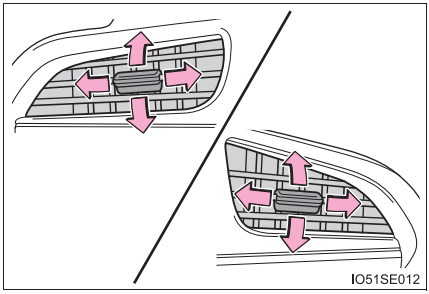
ノブを上下左右に動かしてください。



▶ 左右吹き出し口

風向きの調整

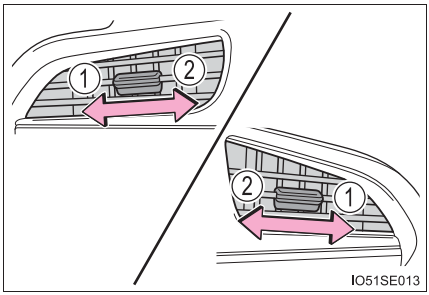
ノブを上下左右に動かしてください。



① 吹き出し口を閉じる

ノブを外側いっぱいに“カチッ”と音がするまで動かすと、吹き出し口を閉じることができます。

② 吹き出し口を開ける



知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■エコドライブモード（→ P. 202）のエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する
・設定温度を調整する

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 384

■カスタマイズ機能

AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を切りかえるかどうかを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

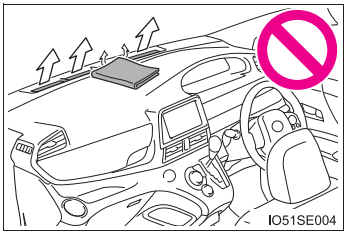
警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★

ハンドルの左右のグリップ部やフロントシートを暖めることができます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。
  - ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しない
  - ・毛布・クッションなどを使用しない

注意

- シートヒーターの故障を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

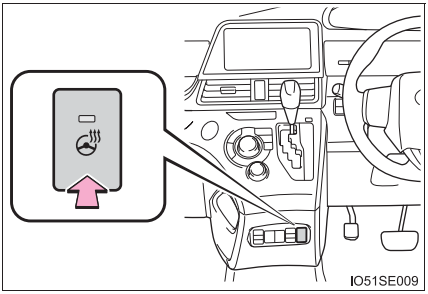
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター

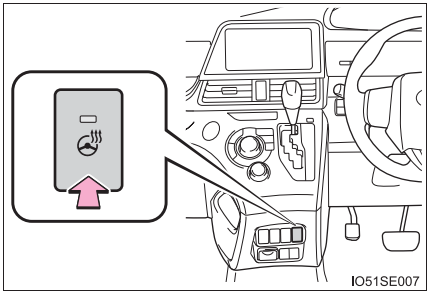
システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はスイッチ上のインジケーターが点灯します。

▶ アクセサリーコンセント非装着車



▶ アクセサリーコンセント装着車



知識

●作動条件：

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

シートヒーター

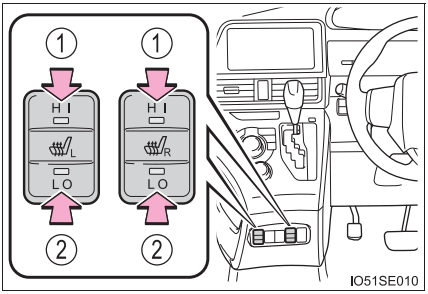
① HI（強）

② LO（弱）

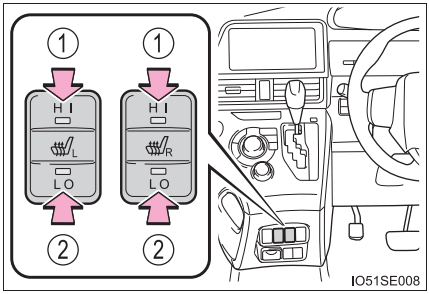
押した側のインジケーターが点灯します。

OFF にするときは、押されていない側を軽く押して、スイッチを中立の位置にしてください。

▶ アクセサリーコンセント非装着車



▶ アクセサリーコンセント装着車



知識

●作動条件：

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

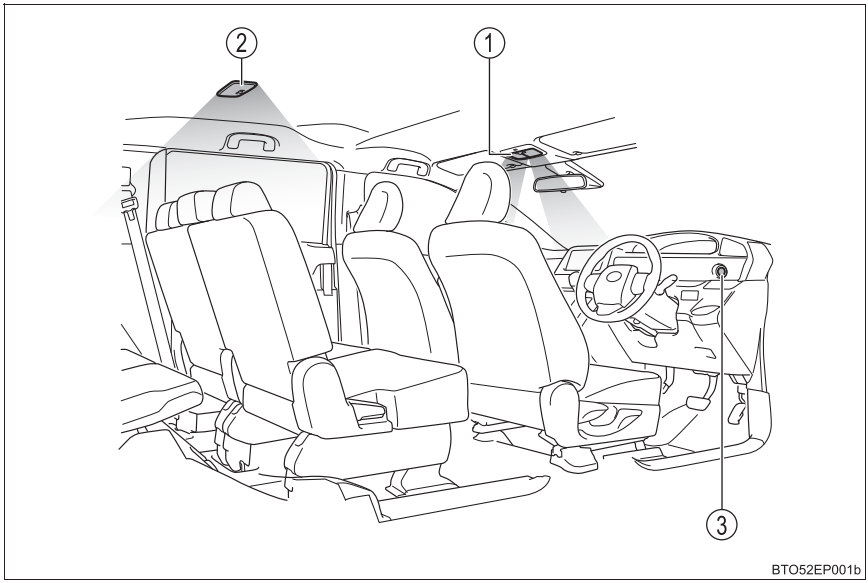
●HI（強）・LO（弱）について

・HI（強）にすると、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。

・LO（弱）にすると、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。

●使用しないときはスイッチを OFF（中立の状態）にしてください。インジケーターが消灯します。

室内灯一覧



① パーソナルランプ
／フロントルームランプ （→ P. 328）

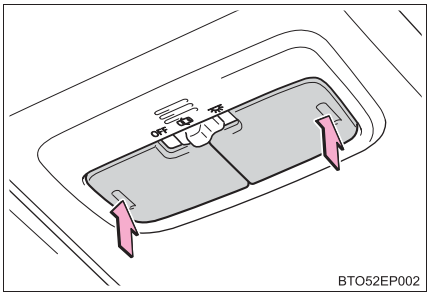
② リヤルームランプ （→ P. 328）

③ パワースイッチ照明（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

パーソナルランプ／フロントルームランプ

■ パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する



BTO52EP002

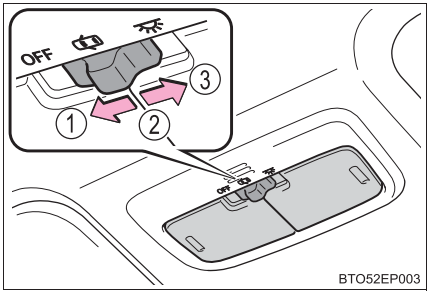
■ フロントルームランプ

① ランプを消灯する

② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

③ ランプを点灯する

リヤルームランプスイッチがドアポジション（ドア連動）のとき、フロントルームランプスイッチを操作するとリヤルームランプも連動して点灯／消灯します。



BTO52EP003

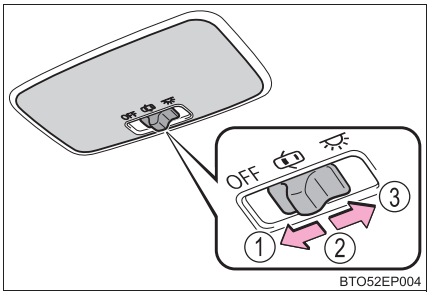
リヤルームランプ

① ランプを消灯する

② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

フロントルームランプスイッチがドアポジション（ドア連動）のときに使用できます。

③ ランプを点灯する



BTO52EP004

知識

●イルミネーテッドエントリーシステム：

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

フロントルームランプ／リヤルームランプのスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチの位置により各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

フロントルームランプ／リヤルームランプのスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

ただし、フロントルームランプスイッチが OFF のときは、リヤルームランプスイッチをドアポジション（ドア連動）にしてもリヤルームランプのイルミネーテッドエントリーは作動しません。

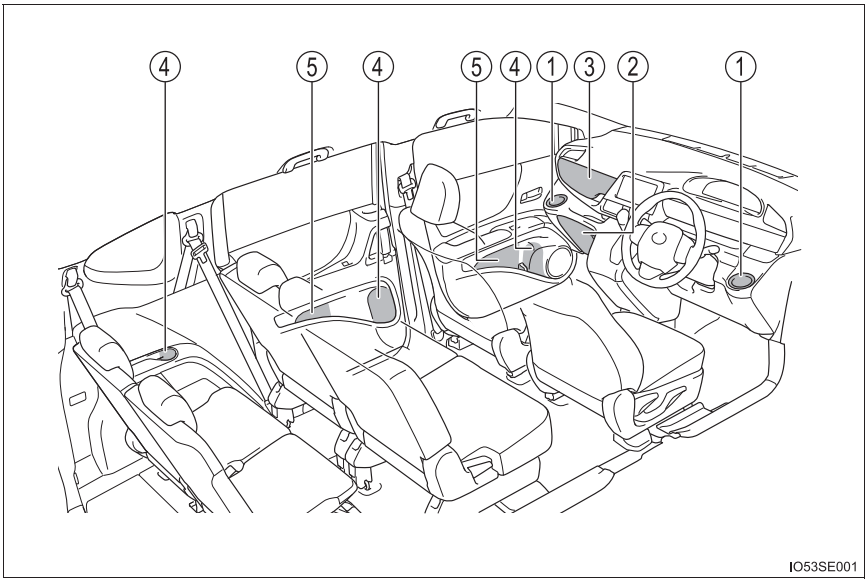
●パワースイッチが “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）で室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

●室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

注意

補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① カップホルダー （→ P. 332）

② グローブボックス （→ P. 331）

③ 助手席アッパーボックス （→ P. 331）

④ ボトルホルダー （→ P. 332）

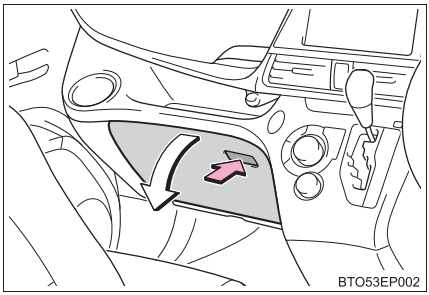
⑤ ドアポケット （→ P. 334）

警告

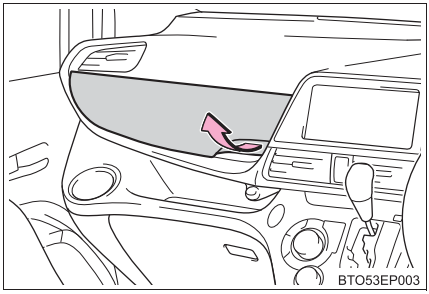
- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

ボタンを押して開ける

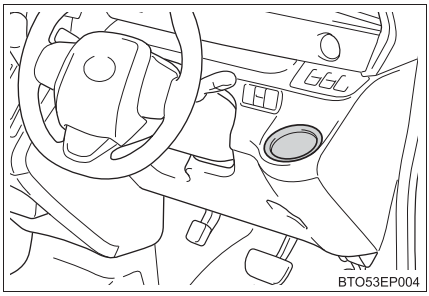


助手席アッパーボックス



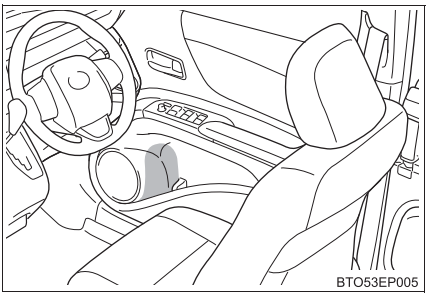
カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

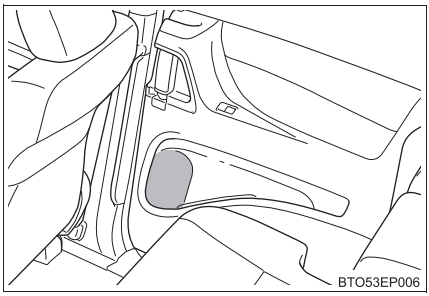


■ ボトルホルダー

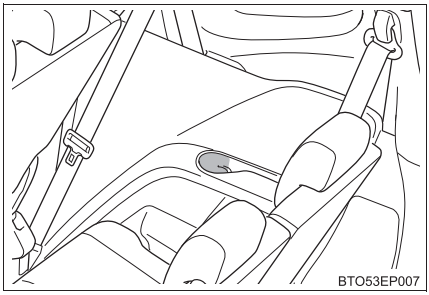
▶ フロントシート



▶ セカンドシート



▶ サードシート★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ボトルホルダーを使用するときは

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

●カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

●やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。

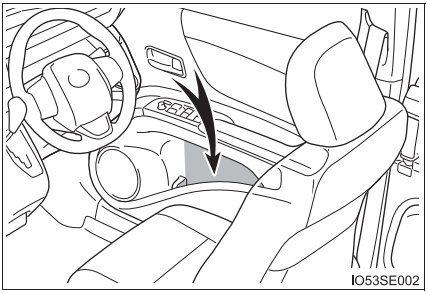
注意

■ボトルホルダーについて

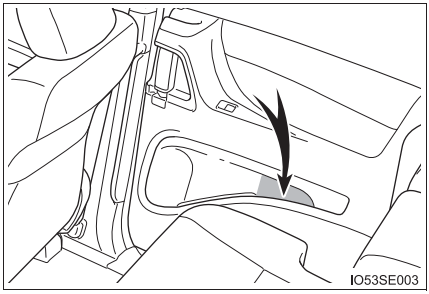
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ドアポケット

▶ フロントシート

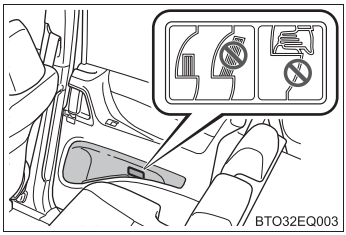


▶ セカンドシート



注意

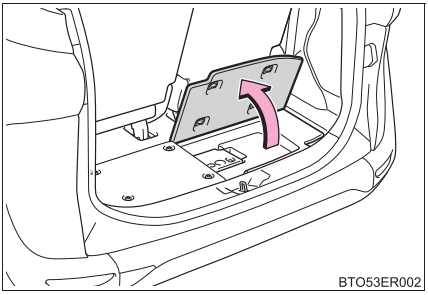
セカンドシートポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりではなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷が付いたり、故障につながったりするおそれがあります。



ラゲージルーム内装備

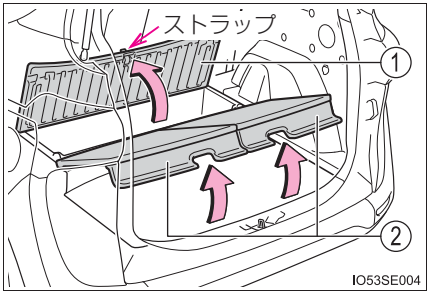
デッキボード

▶ 7人乗り車



デッキボードを持ち上げる

▶ 5人乗り車



① 前側

ストラップを持ってデッキボードを上げる

② うしろ側

デッキボードを持ち上げる

知識

■ **デッキボードを裏返して使用するとき（5人乗り車のうしろ側のみ）**

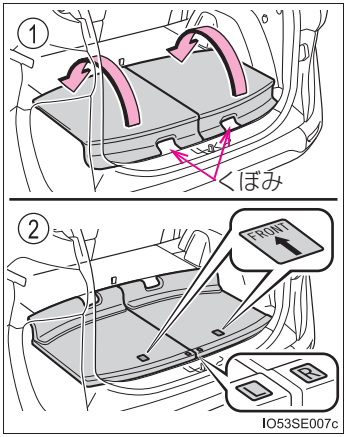
背の高い荷物などを積むために、デッキボードを図のように裏返して使うことができます。

くぼみを持って裏返す

① 表面

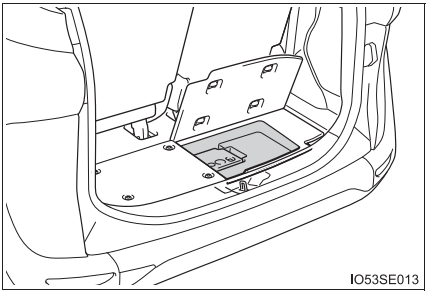
② 裏面

矢印が車の前方を向くように取り付けてください。

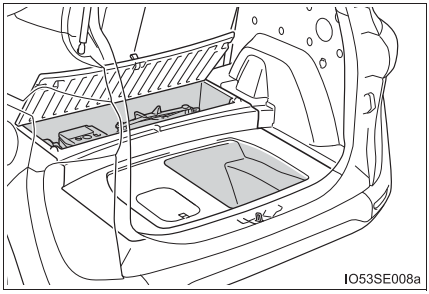


デッキアンダートレイ

▶ 7 人乗り車



▶ 5 人乗り車

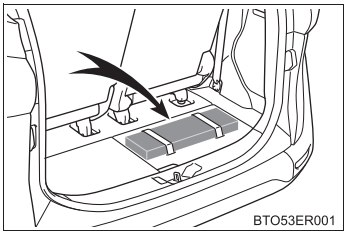


知識

■停止表示板の固定（7 人乗り車）または、収納（5 人乗り車）について

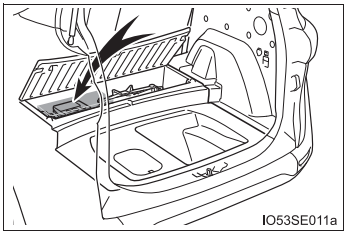
▶ 7 人乗り車

デッキボードのバンドで停止表示板を固定することができます。
ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、固定できない場合があります。



▶ 5 人乗り車

デッキアンダートレイに、停止表示板を収納することができます。
ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



注意

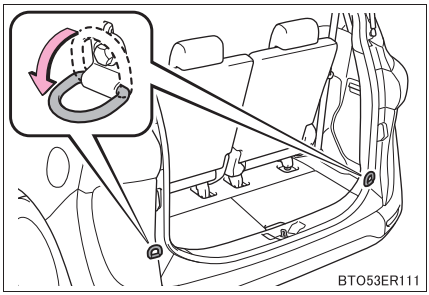
■デッキアンダートレイを使用するとき

タイヤパンク応急修理キットの損傷を防ぐため、収納するものがタイヤパンク応急修理キットに干渉しないよう注意してください。

デッキフック

フック起こして使用する

デッキフックを使って荷物を固定することができます。



警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように必ずもとの位置にもどしておいてください。

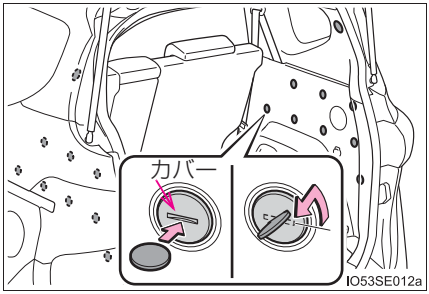
ユーティリティホール（5 人乗り車）

ユーティリティホールにフックやバーなどを取り付けることができます。

使用するときは、カバーを取りはずす

コインなどを使って、カバーを取りはずします。

カバーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。デッキアンダートレイに入れておくことをおすすめします。（→ P. 336）



知識

■ユーティリティホールを使用するときは

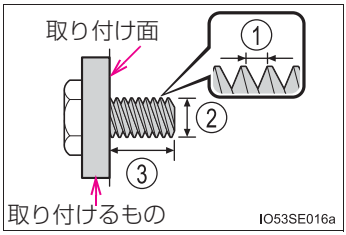
●次の大きさのボルトを使用できます。

① ピッチ：1.0mm

② ネジ径：M6（6mm）

③ 取り付け面からの深さ：10.0mm

●ユーティリティホールの耐荷重は1箇所あたり 3kg です。取り付けるフックなどの重さを含めて 1 箇所合計 3kg まで使用できます。



注意

■ユーティリティホールを使用するときは

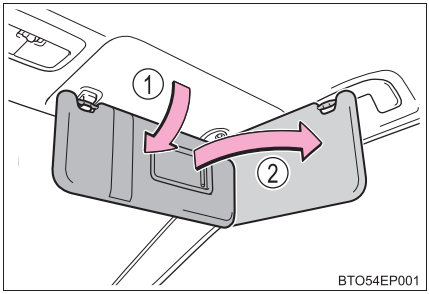
ユーティリティホールの耐荷重 3kg をこえないようにしてください。
ユーティリティホールの変形や損傷などにつながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

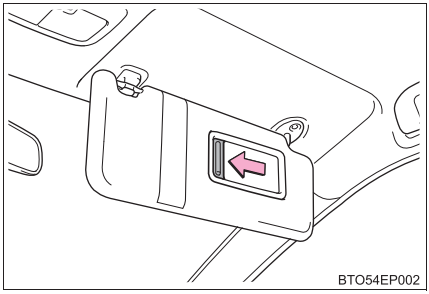
① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

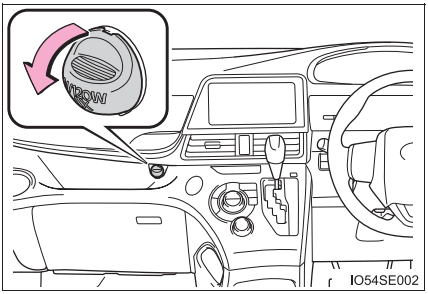


アクセサリーソケット

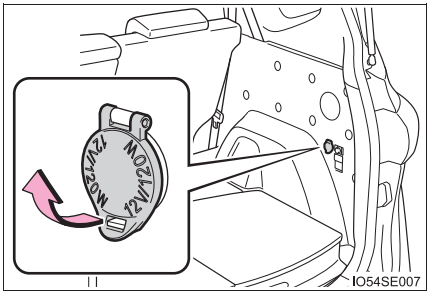
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

▶ インストルメントパネル上部



▶ ラゲージルーム（5 人乗り車のみ）



知識

作動条件：

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

充電用 USB 端子

DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

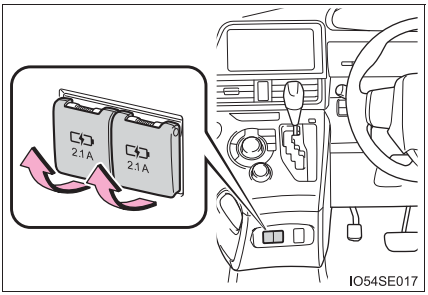
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

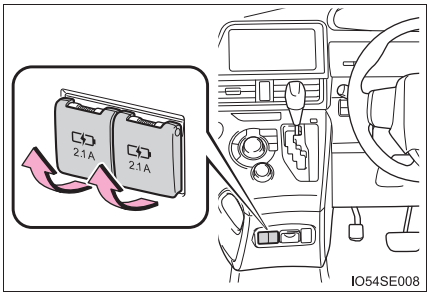
フタを開けて使用する

▶ ステアリングヒーター／シートヒーター非装着車

アクセサリーコンセント非装着車：

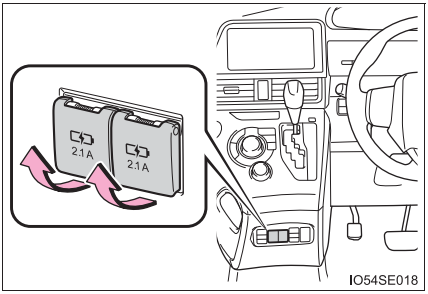


アクセサリーコンセント装着車：

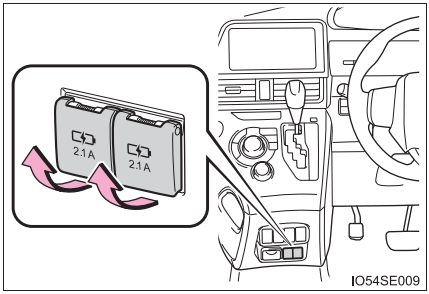


▶ ステアリングヒーター／シートヒーター装着車

アクセサリーコンセント非装着車：



アクセサリーコンセント装着車：



知識

■充電用 USB 端子の作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

●DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき

●パソコンと通信を行う機器を接続したとき

●接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント★

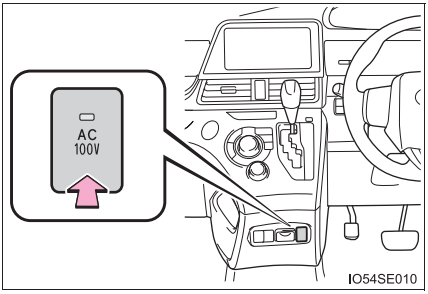
AC100 V で最大消費電力 1500 W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

1 メインスイッチを押す

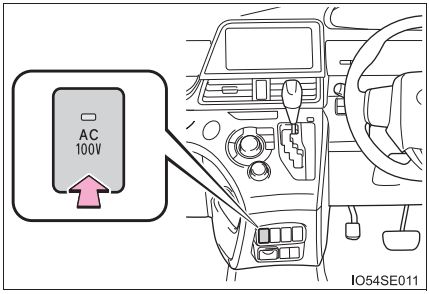
スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

スイッチを押すたびに電源の ON ／ OFF が切りかわります。

▶ ステアリングヒーター／シートヒーター非装着車



▶ ステアリングヒーター／シートヒーター装着車

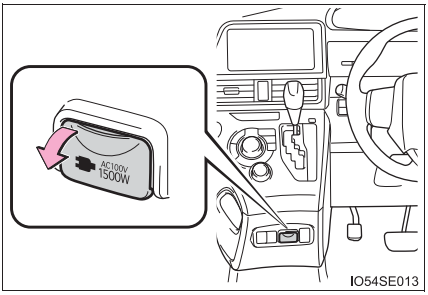


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

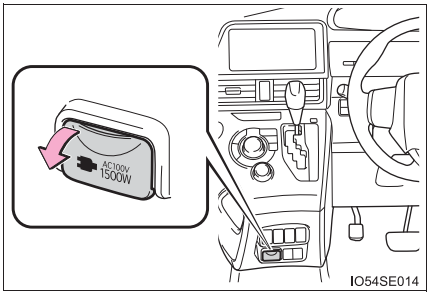
2 フタを開けて使用する

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線を接続してください。

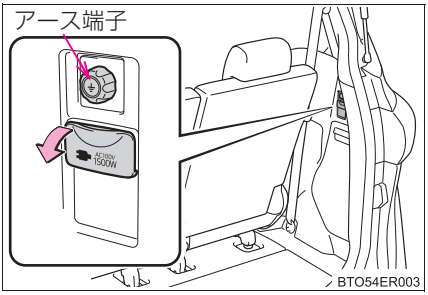
▶ インストルメントパネル下部（ステアリングヒーター／シートヒーター非装着車）



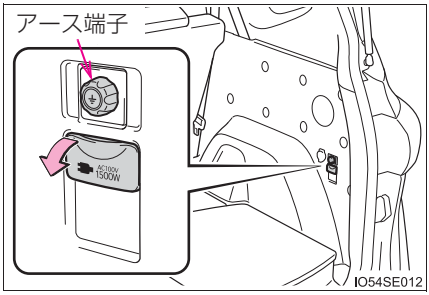
▶ インストルメントパネル下部（ステアリングヒーター／シートヒーター装着車）



▶ ラゲージルーム（7 人乗り車）



▶ ラゲージルーム（5 人乗り車）



知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■駐車中または停車中に使用するときは

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■使用しないときは

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。
- メインスイッチをONにした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- アクセサリーコンセントを使用中、コンセント周辺から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器や医療機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないときは

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

●電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。

●電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 93）。残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。

●炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するときは

外気温が－ 15 ℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

●使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

警告

■駐車中または停車中に使用するときは

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- 必ずシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- 車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 40）
- 状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近付けないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。なお、次のような機器は使用しないでください。

- 医療用機器
  車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。
- 計量器・計測器など
  AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

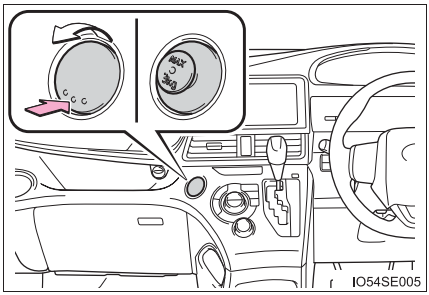
注意

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
  走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

買い物フック

使用するときは、下側を押してフックを起こす



警告

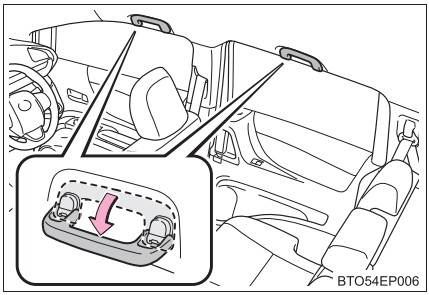
使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

注意

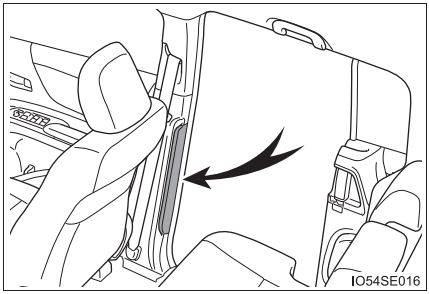
買い物フックの破損を防ぐために、3kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

アシストグリップ★

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。



警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

時計

スイッチを押して時刻を調整することができます。

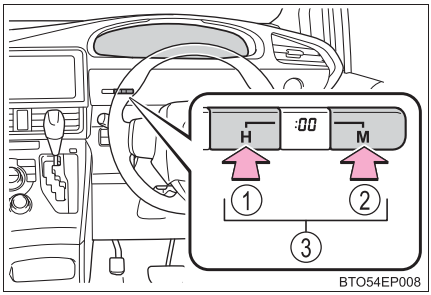
① “時” を調整する（H）

② “分” を調整する（M）

③ “分” を 00 にする ※

①と②を同時に 1 秒以上押します。

※（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
1：30 ～ 1：59 → 2：00



知識

●時刻が表示されるとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

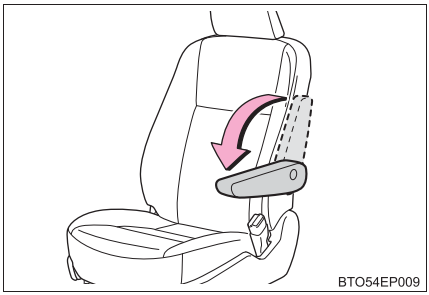
▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

アームレスト

■ 運転席★

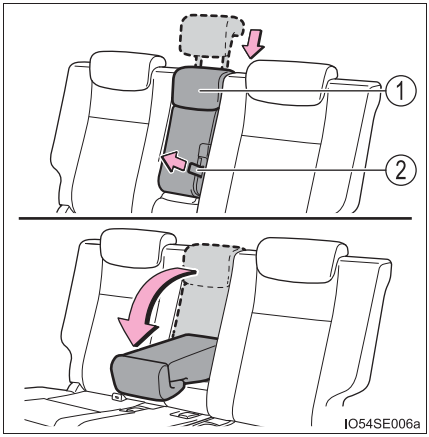
手前に倒す



■ セカンドシート（5 人乗り車）

① 中央席ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 152）

② ストラップを引いてロックを解除し、アームレストを手前に倒す



■ アームレストをもとにもどすときは（セカンドシート［5 人乗り車］）

ロックされる位置までアームレストを引き起こす

アームレストを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

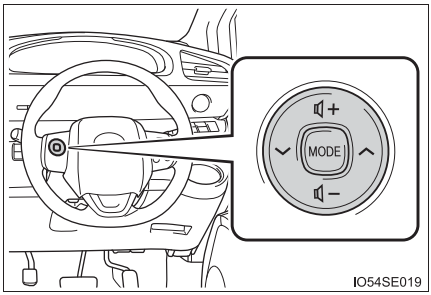
破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングスイッチ★

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



警告

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....356
内装の手入れ.....360
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 363
ガレージジャッキ.....366
ウォッシャー液の補充.....367
タイヤについて.....368
タイヤの交換.....372
タイヤ空気圧について 382
エアコンフィルターの交換....384
駆動用電池冷却用吸入口／
フィルターの清掃 387
ワイパーゴムの交換.....390
キーの電池交換.....395
ヒューズの点検・交換.....398
電球（バルブ）の交換.....401

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

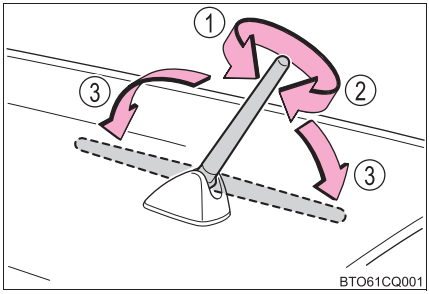
洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

① 取りはずす

② 取り付ける

③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納する
・パワースライドドアを OFF にする（→ P. 119）
・アンテナを取りはずす
車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 138）

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

⚠注意

■高圧洗浄機を使用するときは

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - ・駆動系部品
  - ・ステアリング部品
  - ・サスペンション部品
  - ・ブレーキ部品
  - ・車両下部のゴム部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 車両下部を洗車するときは、ノズルの先端を車体に近付けすぎないでください。
  車体の樹脂部品やシール材が変形・破損し、車内に水が入り駆動用電池の故障につながるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

●フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

●フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 33)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品・駆動用電池に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■運転席下側のカーペットについて

カーペットのマジックテープがはずれたときは、確実に貼り付けてください。
駆動用電池に水がかかると、故障の原因となるおそれがあります。

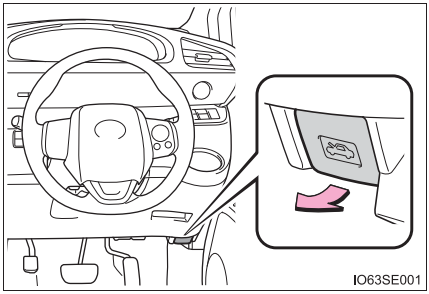
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

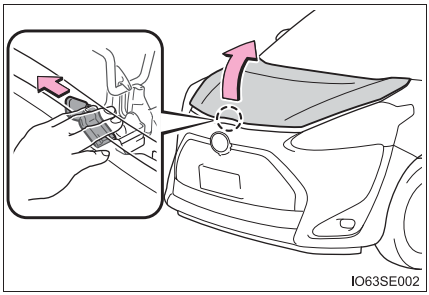
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

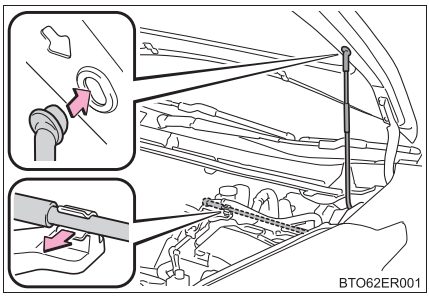
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



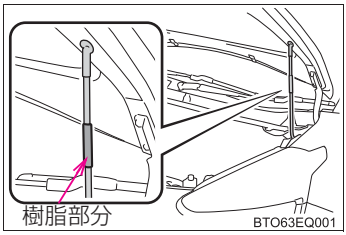
3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■ボンネットを開くとき

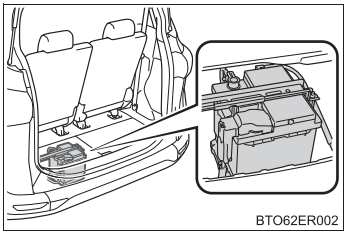
ボンネットステーは樹脂部分を持って取り扱ってください。また、走行直後にボンネットを開ける必要がある場合は、ボンネットステーが熱くなっていることがあるため、金属部分にふれないよう、特に注意してください。



■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（左側）にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 464）



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

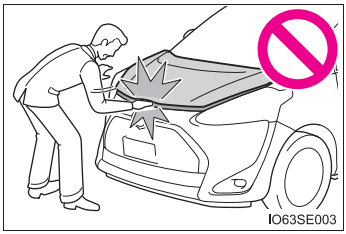
警告

■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの取り扱いについて

→P. 470

■補機バッテリーを交換するときは

→P. 471

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

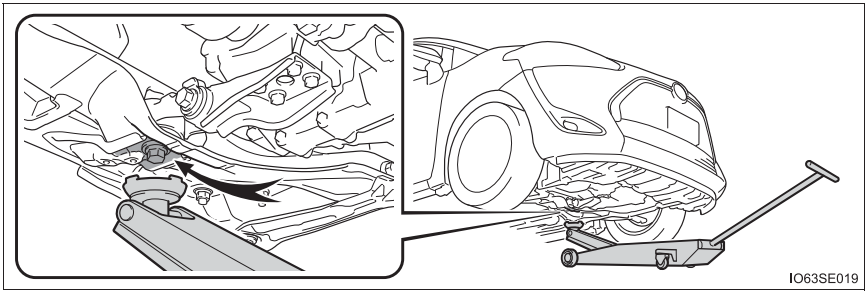
■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

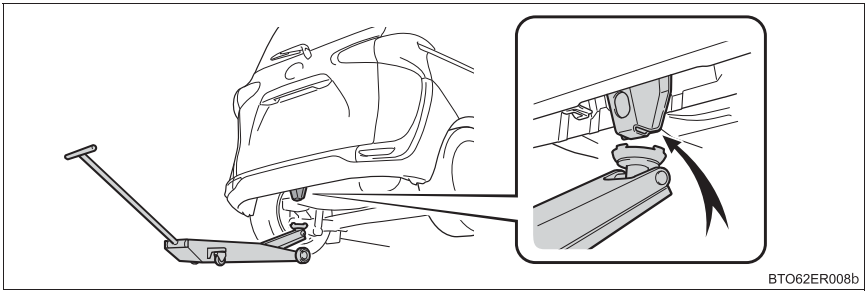
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



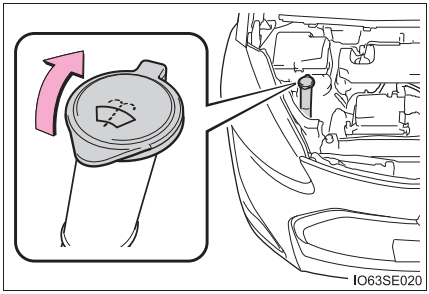
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

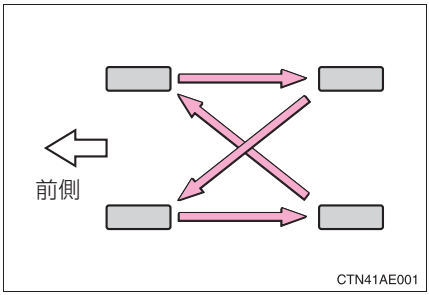
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。



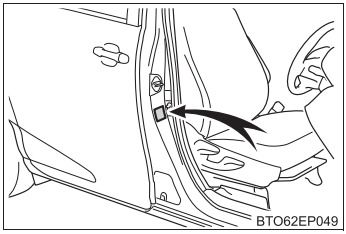
知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
185/60R15 84H	240（2.4）	250（2.5）
195/50R16 84V	240（2.4）	

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（16 インチタイヤ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（16 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

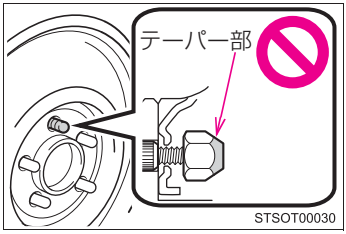
異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■低偏平タイヤについて（16 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

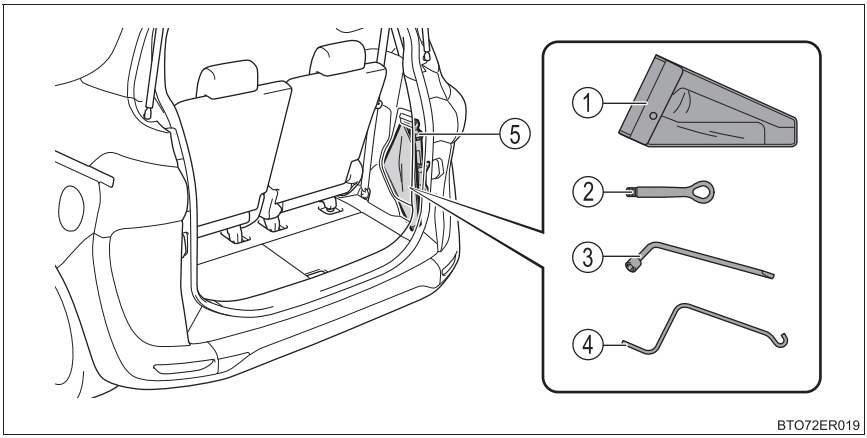
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

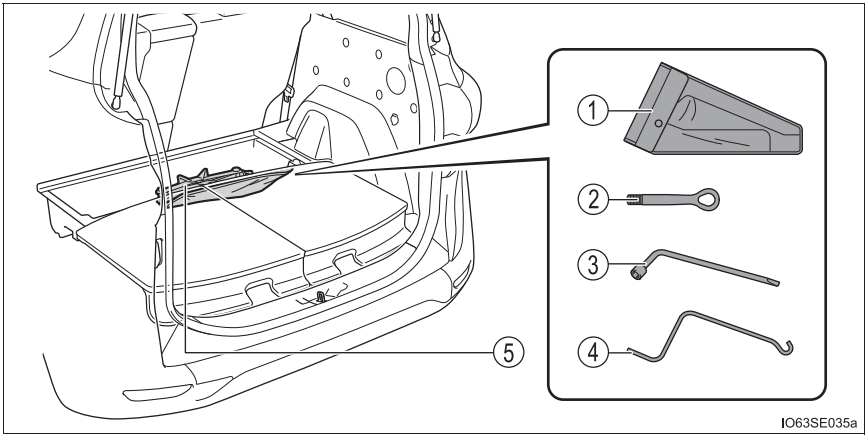
- 地面が固く平で安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にする（→ P. 119）

工具とジャッキの位置

▶ 7 人乗り車



▶ 5 人乗り車



① 工具袋
② けん引フック（→ P. 427）
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキハンドル
⑤ ジャッキ

警告

■**ジャッキの使用について**

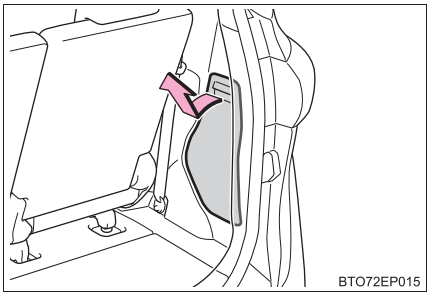
次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

工具袋・ジャッキの取り出し方

▶ 7 人乗り車

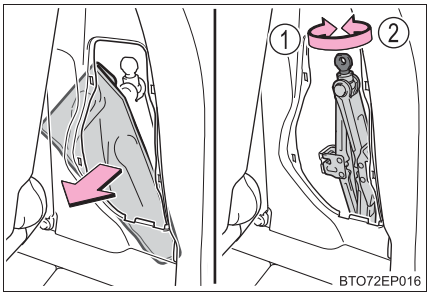
1 ラゲージルーム右側のカバーを取りはずす



2 工具袋を取り出し、ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ



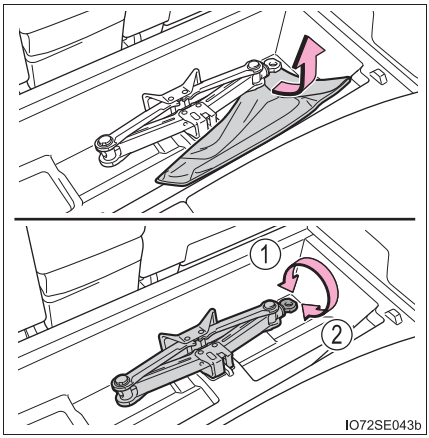
▶ 5 人乗り車

1 デッキボードを取りはずす（→ P. 335）

2 工具袋を取り出し、ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

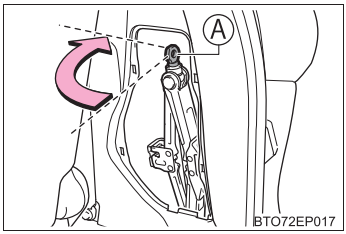


知識

■ジャッキを使用したあとは（7 人乗り車）

もとどおりに車両に搭載してください。ジャッキが正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

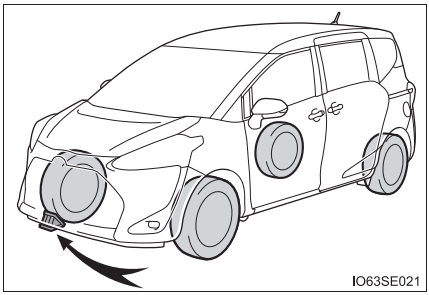
ジャッキを収納部にのせて A 部をまわして位置を固定したあと、約 2.0N･m（0.2kgf･cm）以上の力でしっかりと締め付ける（ジャッキを軽く固定したあとに、約 90°～ 180° まわします）



タイヤの交換

1 輪止め ※ をする

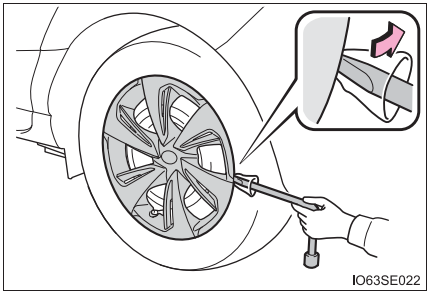
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



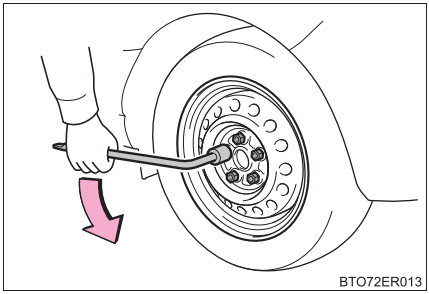
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 スチールホイール装着車は、ホイールキャップを取りはずす

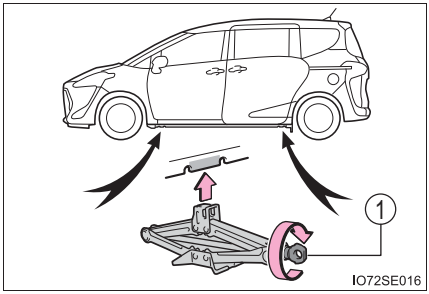
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



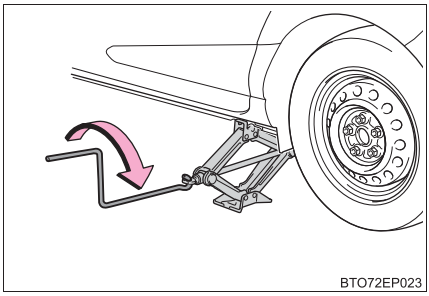
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



4 ジャッキの①部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

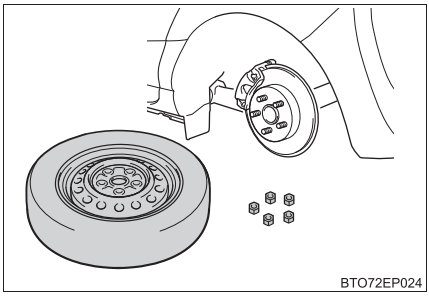


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
・タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 119）を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアを操作したときにパワースライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

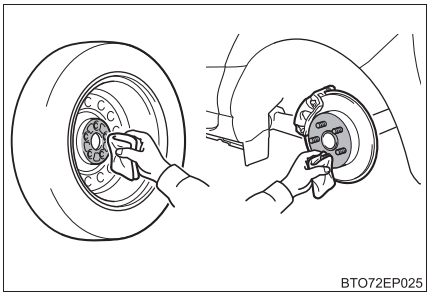
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→ P. 371）

タイヤの取り付け

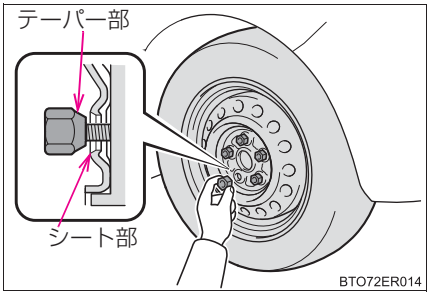
1 ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

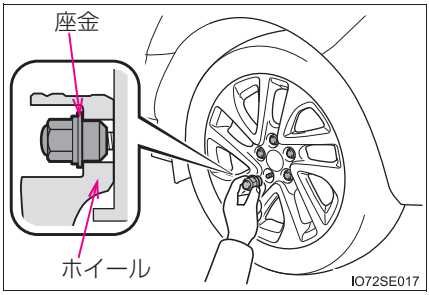


2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

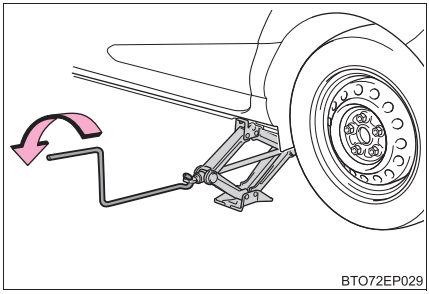
スチールホイールからスチールホイールにかえるとき：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

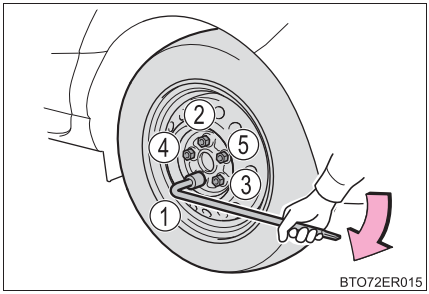


3 車体を下げる



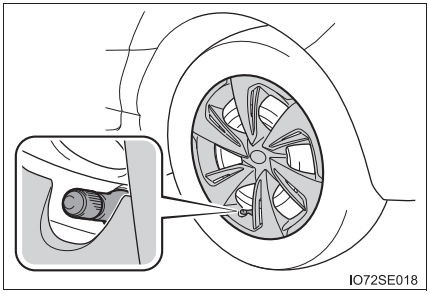
4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 スチールホイール装着車は、ホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付ける。



6 すべての工具・ジャッキを収納する

警告

■ **ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→ P. 483）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正がどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

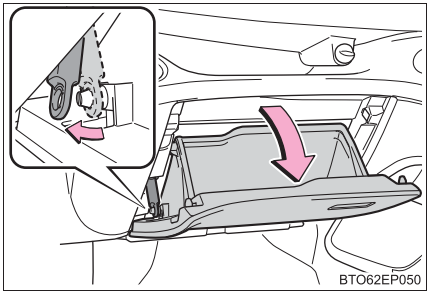
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

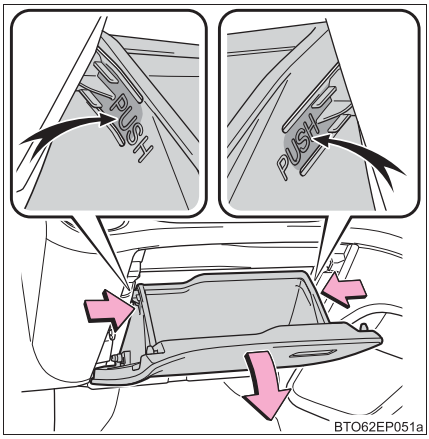
交換のしかた

1 パワースイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする

2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす

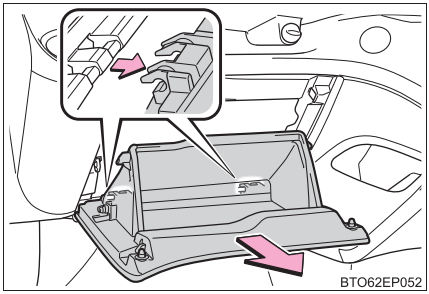


3 グローブボックス側面の「PUSH」を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

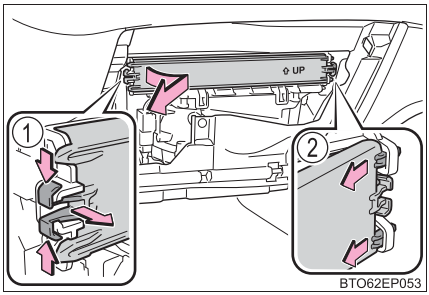
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。


BTO62EP052

5 フィルターカバーを取りはずす

① フィルターカバーの固定を解除する

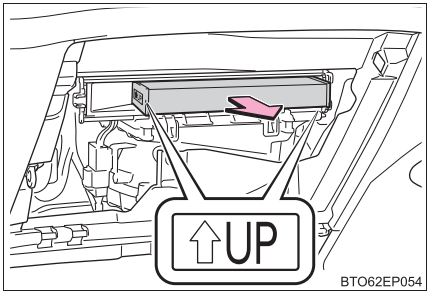
② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



BTO62EP053

6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



BTO62EP054

7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km［10,000km※］ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

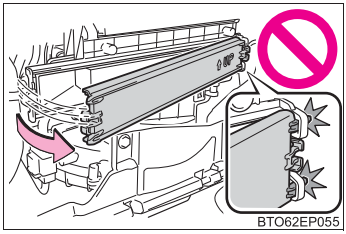
⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。

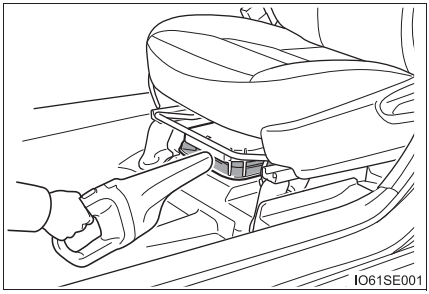


駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

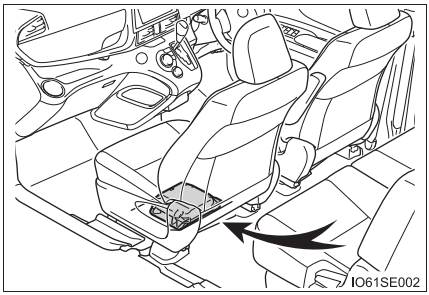
掃除機などで、ほこりや砂などを取り除く



ほこりを取り除ききれないときは

次の要領でカバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

フィルターは助手席の下にあります。

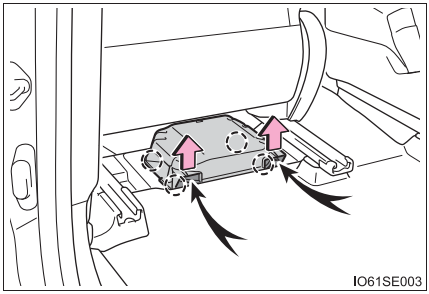


1 パワースイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする

2 助手席をいちばん前にする（→ P. 143）

3 カバーを取りはずす

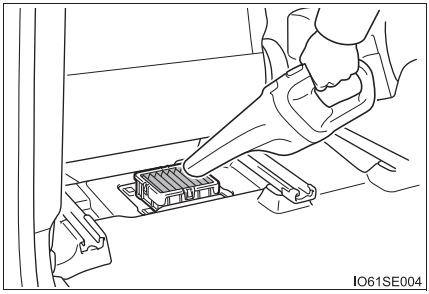
カバー後端を上に引き上げて、ツメ（4ヶ所）をはずし、カバーを取りはずします。



4 掃除機などでほこりや砂などを取り除く

吸入口も掃除機などで清掃してください。

フィルターが破損しているときは、トヨタ販売店で交換してください。



5 取りはずしたときと逆の手順でカバーを取り付ける

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

- 吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。
- 誤った取り扱いをすると、カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要取扱書を確認」が表示されたときは

●カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。（→ P. 387）

●清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。
始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■吸入口の清掃をするときは

水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

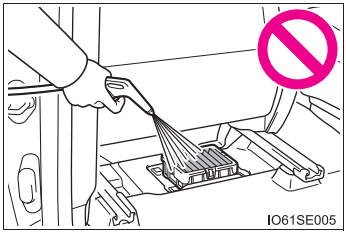
●清掃前に必ずパワースイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしてハイブリッドシステムを停止してください。

注意

■吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。

エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因となったりするおそれがあります。



■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要取扱書を確認」が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。

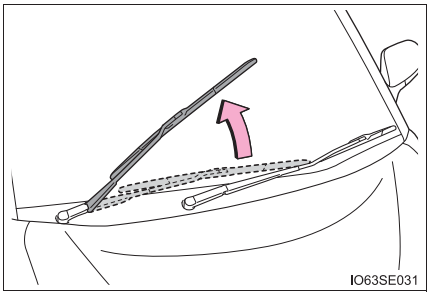
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領で作業を行ってください。

フロントワイパー

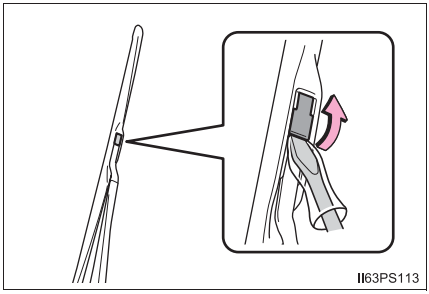
■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こす



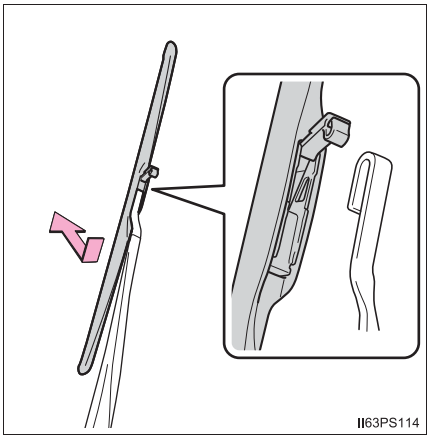
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



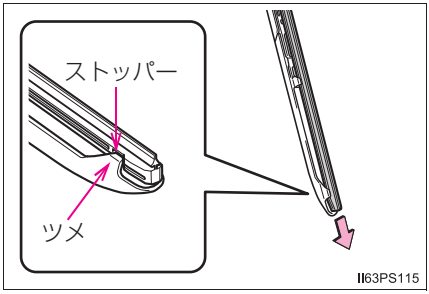
3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



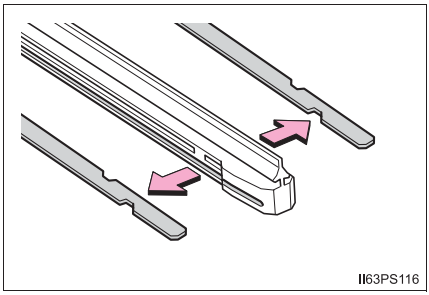
■ ワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認してください。

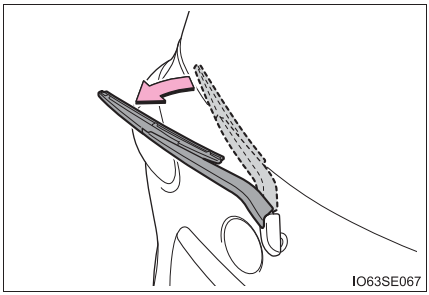


3 ストッパーがない側を先にして、ワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する

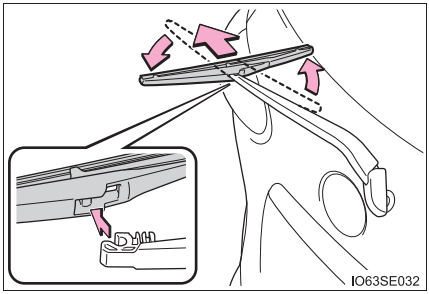
4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

リヤワイパー

1 ワイパーアームを起こす

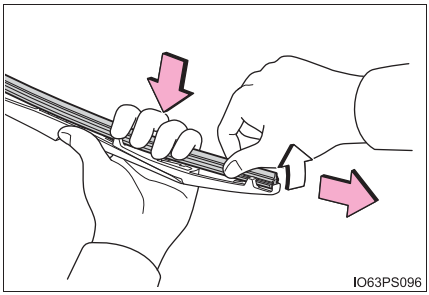


2 「カチッ」と音がしてツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを起こし、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

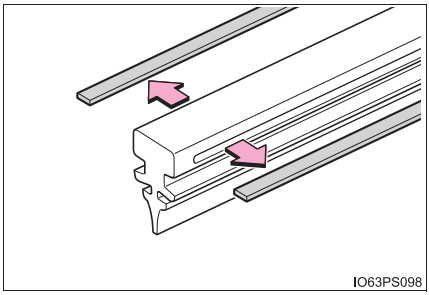


3 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押すとワイパーゴムが浮き上がり、引き抜きやすくなります。

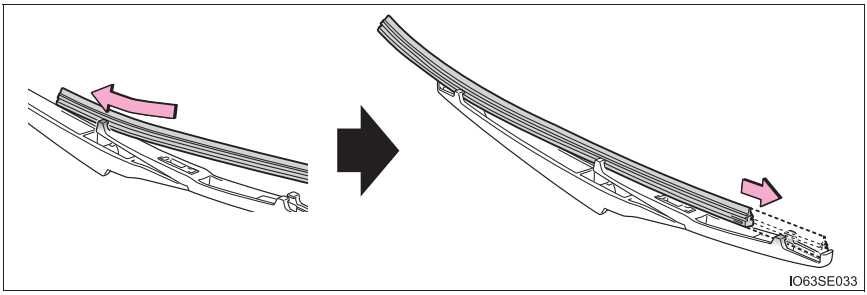


4 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパ ー ゴムに付けかえる



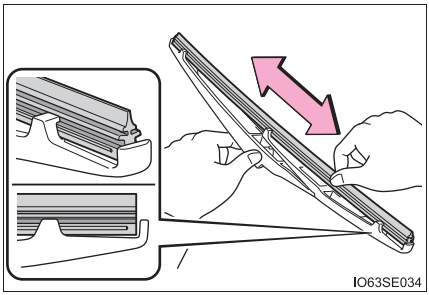
5 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、2 つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った 1 つのツメに通す

ワイパーゴムにウォッシャ液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



6 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

・ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。
・ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



7 ワイパーブレードを取り付けるときは、2 と逆の手順で取り付ける

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■**損傷を防ぐために**

- ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
  - ・CR2032（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

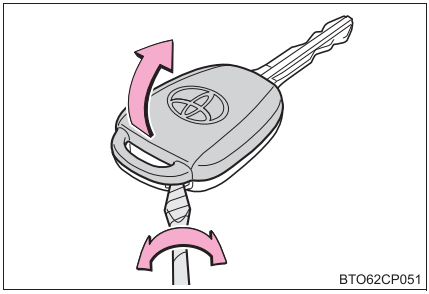
電池交換のしかた

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

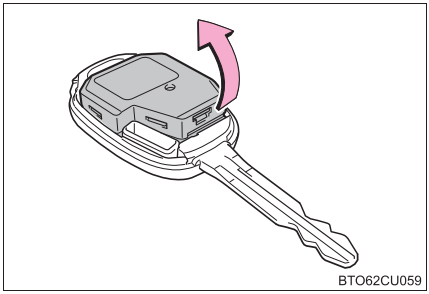
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

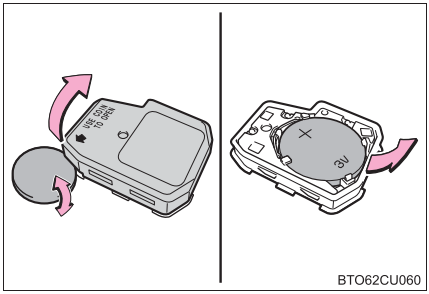

BTO62CP051

2 モジュールを取りはずす


BTO62CU059

3 コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

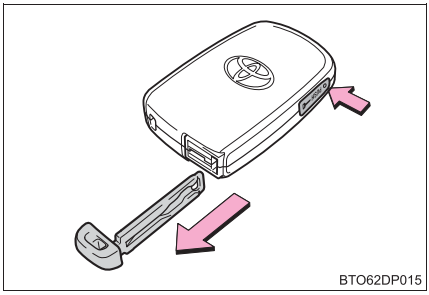
新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

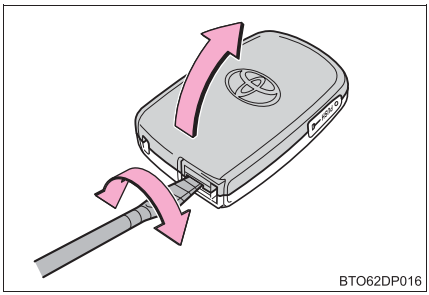
▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

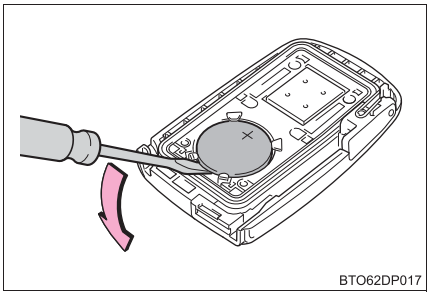
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：CR2016

●スマートエントリー＆スタートシステム装着車：CR2032

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■キーの電池を交換したときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

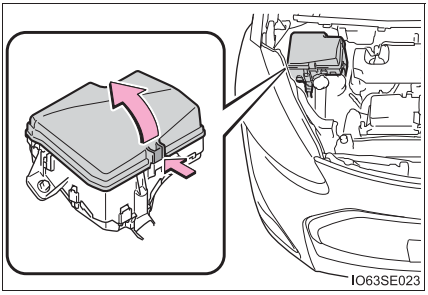
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを “LOCK” （スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする

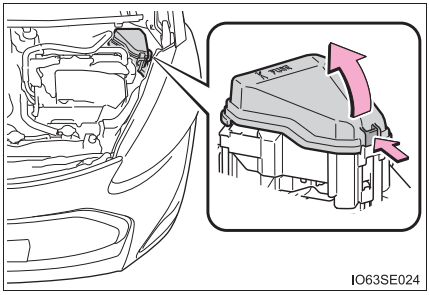
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

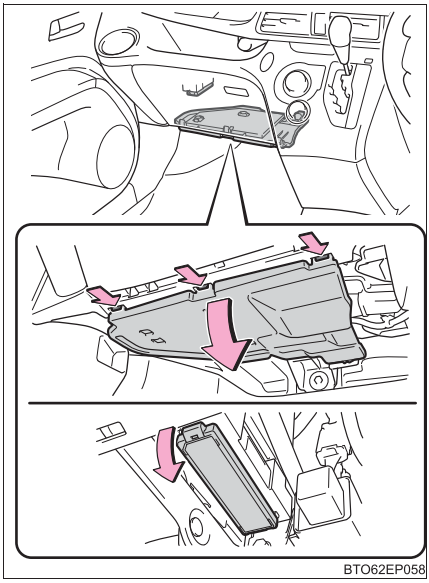
▶ エンジンルーム（2）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

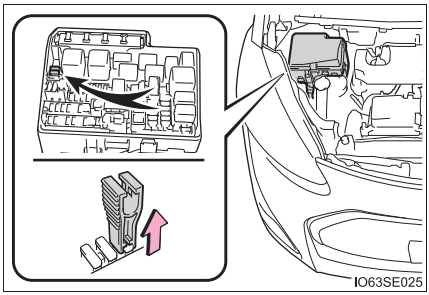
▶ 助手席足元

インストルメントパネルアンダーカバーを取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

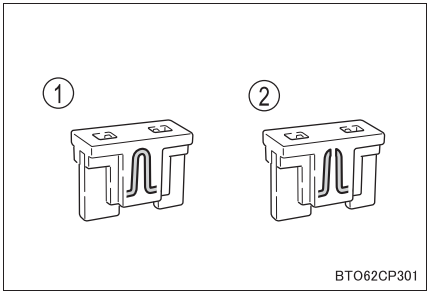


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 401）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 483）

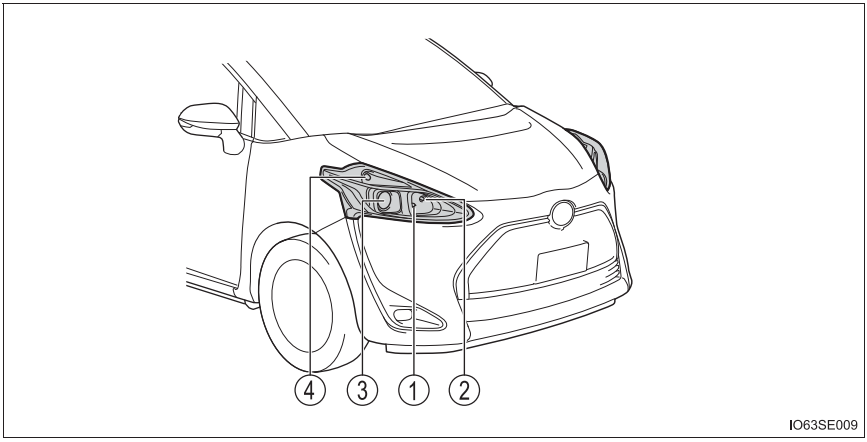
パワースライドドアの作動停止

→ P. 119

バルブ位置

■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



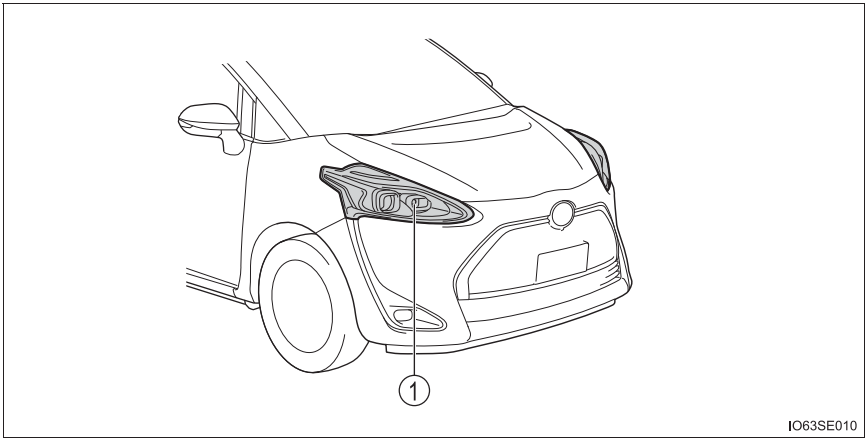
① ヘッドランプハイビーム

② 車幅灯

③ ヘッドランプロービーム

④ フロント方向指示灯／非常点滅灯

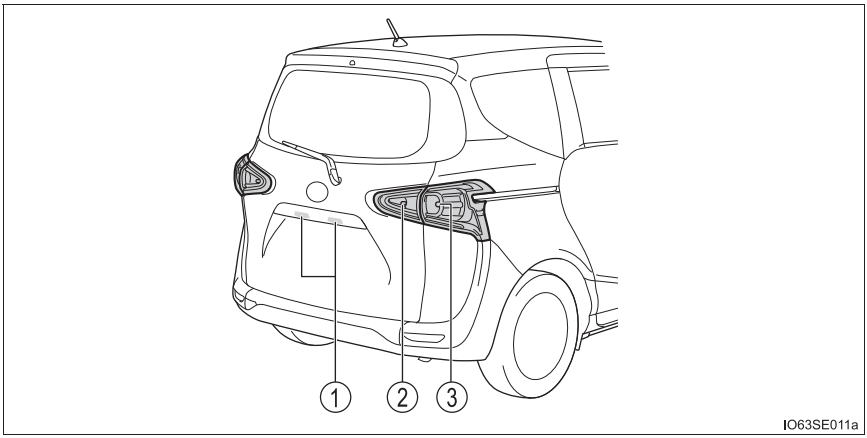
▶ LED ヘッドランプ装着車



① フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ **リヤ**

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

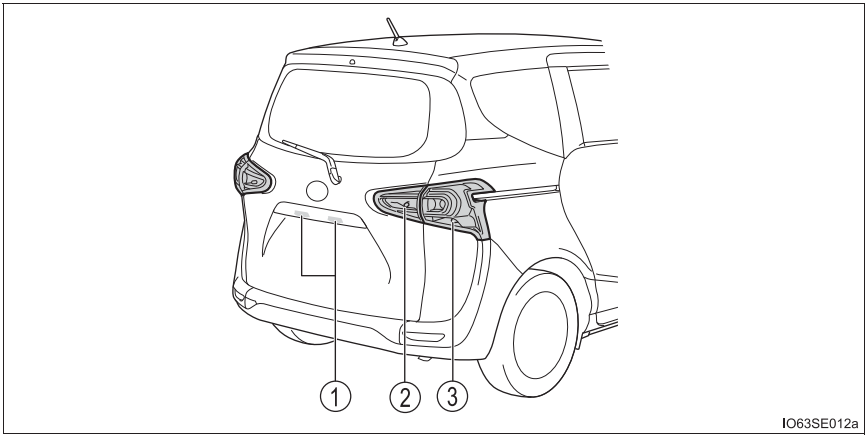


① 番号灯

② 後退灯

③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車



① 番号灯

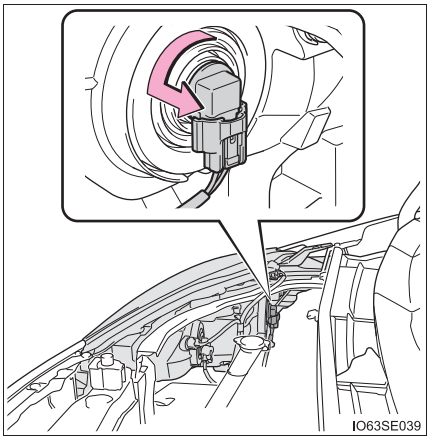
② 後退灯

③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

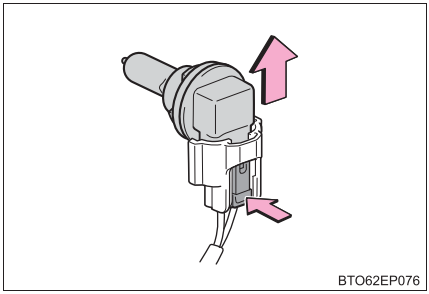
電球交換のしかた

■ ヘッドランプロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ソケットを取りはずす

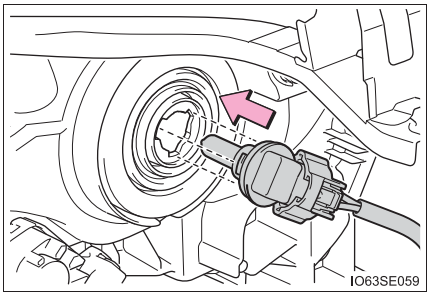


2 電球を取りはずす



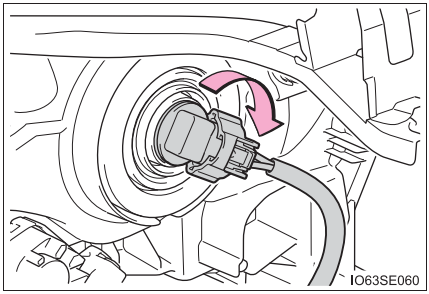
3 電球を交換し、ソケットに取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込みます。



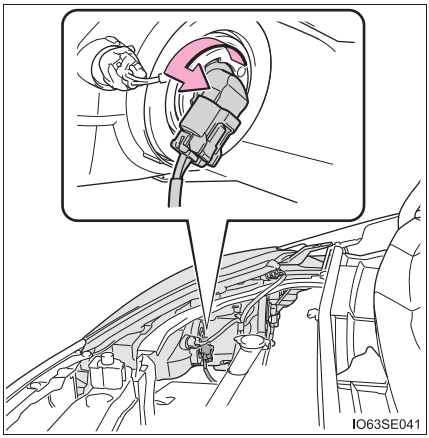
4 ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプロービームを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

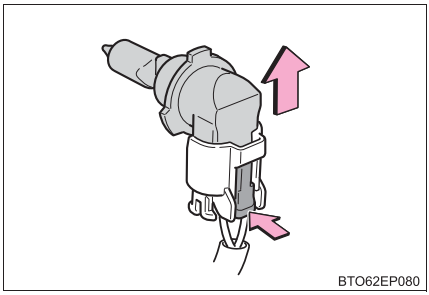


■ ヘッドランプハイビーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ソケットを取りはずす

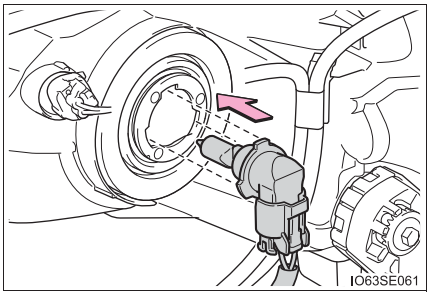


2 電球を取りはずす



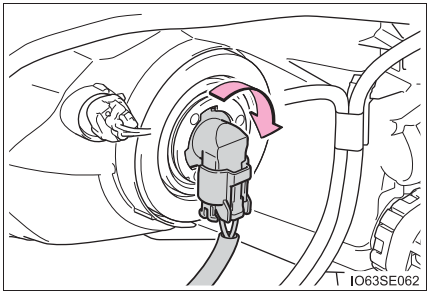
3 電球を交換し、ソケットに取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込みます。



4 ソケットをまわして固定する

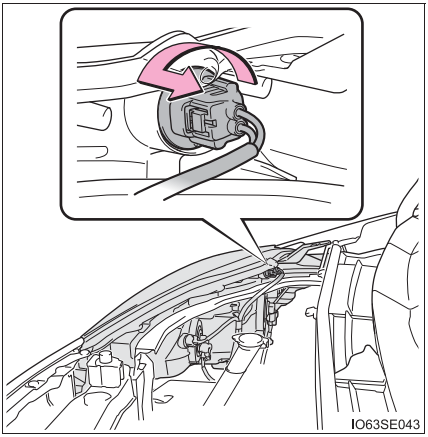
ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



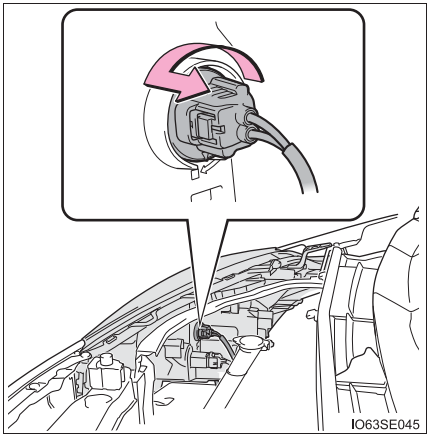
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ソケットを取りはずす

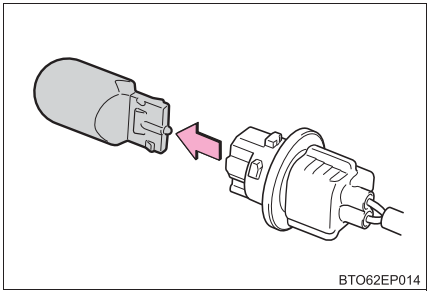
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車



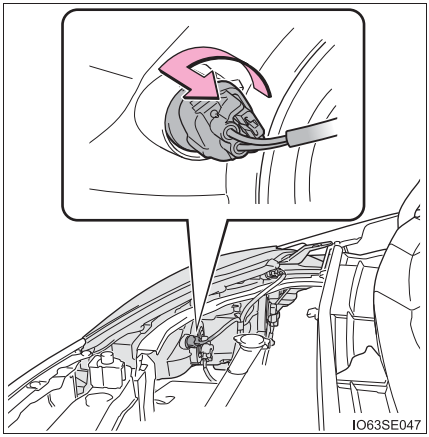
2 電球を取りはずす



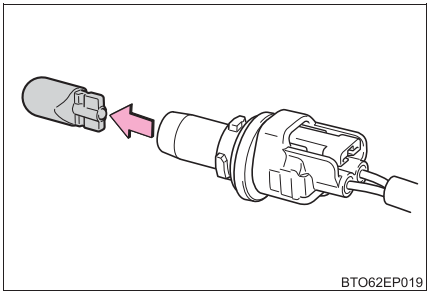
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ソケットを取りはずす



2 電球を取りはずす



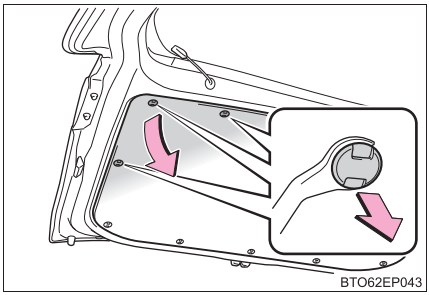
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯

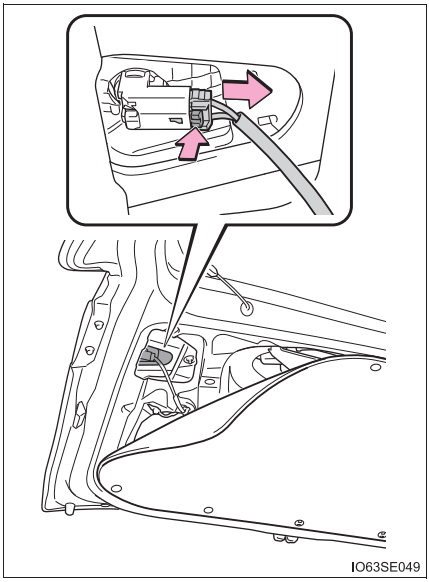
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

1 バックドアを開けて、クリップをはずし、カバーをめくる

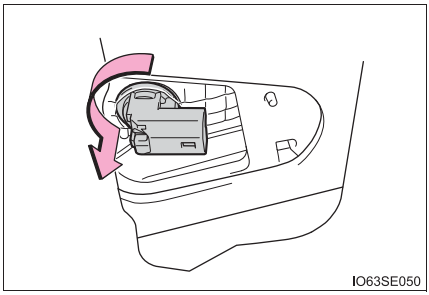
クリップの破損を防ぐため、市販のクリップリムーバーのご使用をおすすめします。



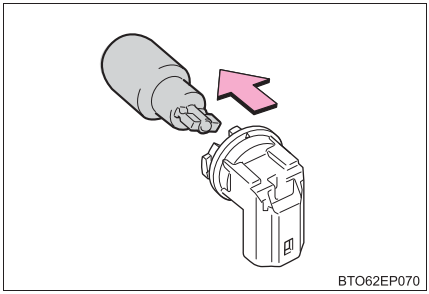
2 コネクターを取りはずす



3 ソケットを取りはずす



4 電球を取りはずす

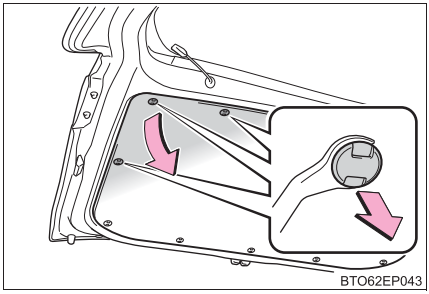


5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

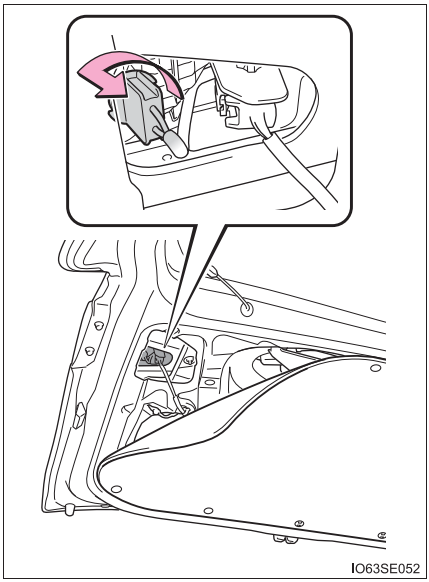
▶ LED ヘッドランプ装着車

1 バックドアを開けて、クリップをはずし、カバーをめくる

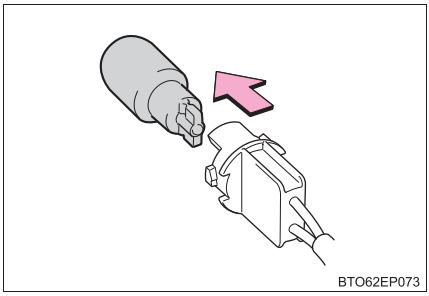
クリップの破損を防ぐため、市販のクリップリムーバーのご使用をおすすめします。



2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす



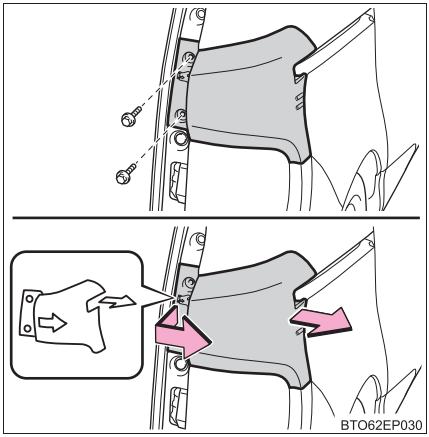
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

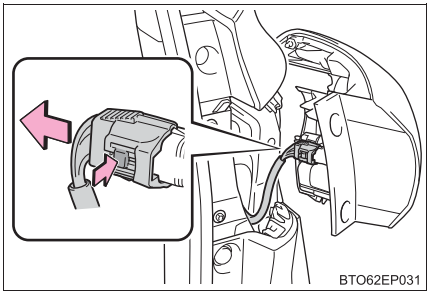
1 バックドアを開け、ネジ（2 本）を取りはずし、ランプ本体を取りはずす

・ネジ取りつけ部のかん合をはずすために、ランプ本体を車両うしろ方向に少し浮かせます。

・ランプ本体を車両横方向に引いて、車両から取りはずします。

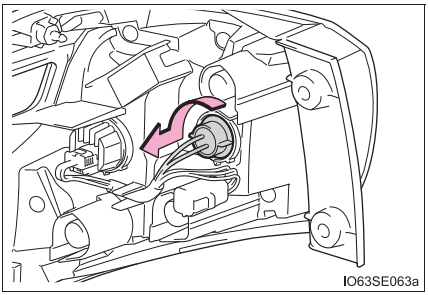


2 コネクターをはずす

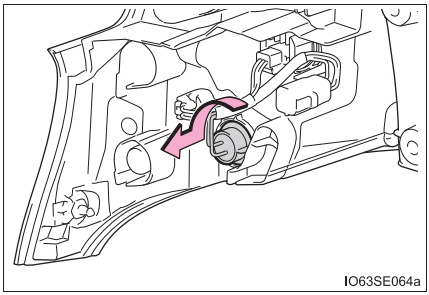


3 ソケットを取りはずす

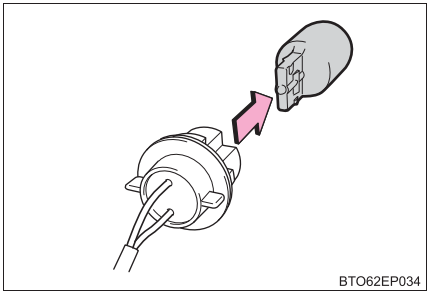
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車

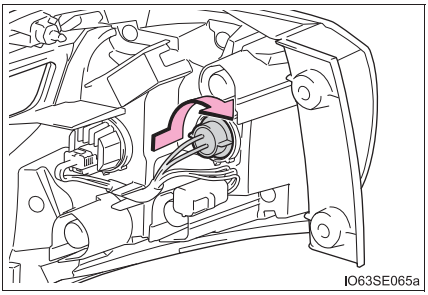


4 電球を取りはずす

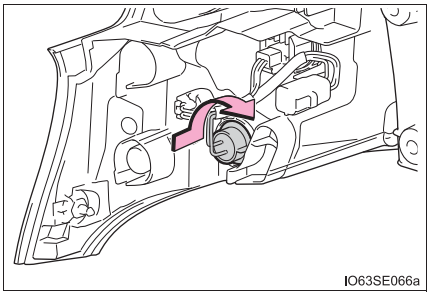


5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に取り付ける

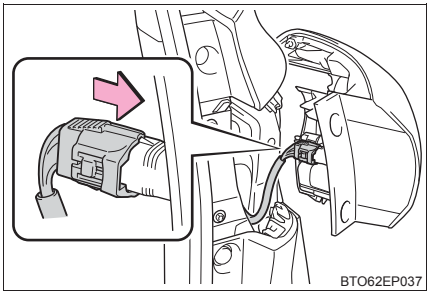
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



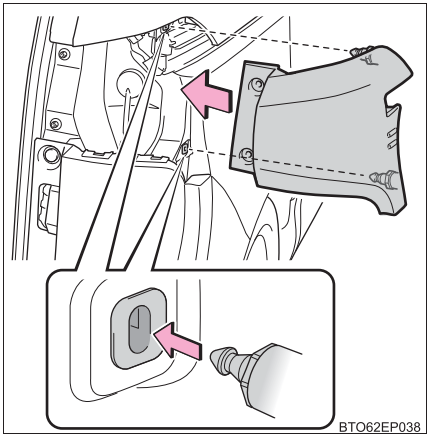
▶ LED ヘッドランプ装着車



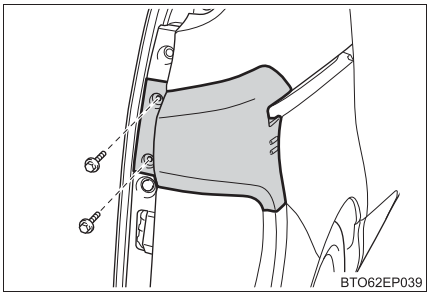
6 コネクターを取り付ける



7 ランプ本体側のピンと車両側の穴の位置を合わせ、ランプ本体を車両内側へ押して取り付ける



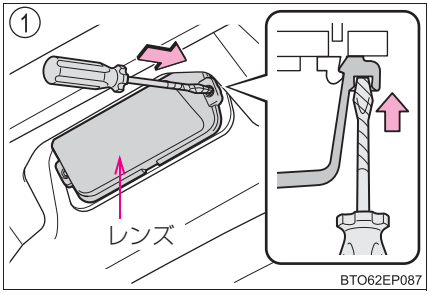
8 ネジ（2 本）で固定する



■ 番号灯

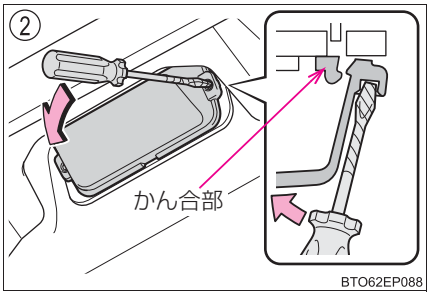
1 レンズを取りはずす

① 小さいマイナスドライバーなどを左右どちらかのレンズの穴に挿し込む

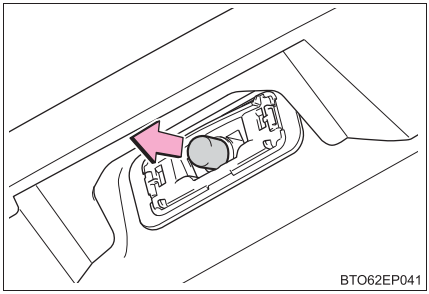


② 小さいマイナスドライバーなどを図の矢印の方向に傾け、レンズのかん合をはずしてレンズを取りはずす

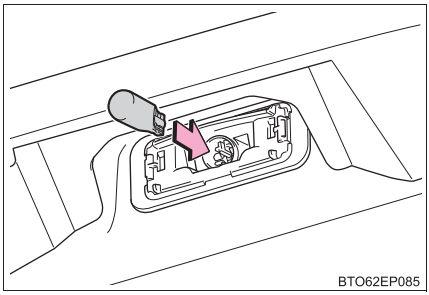
傷が付くのを防ぐために、小さいマイナスドライバーなどの先端に、テープなどを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付ける

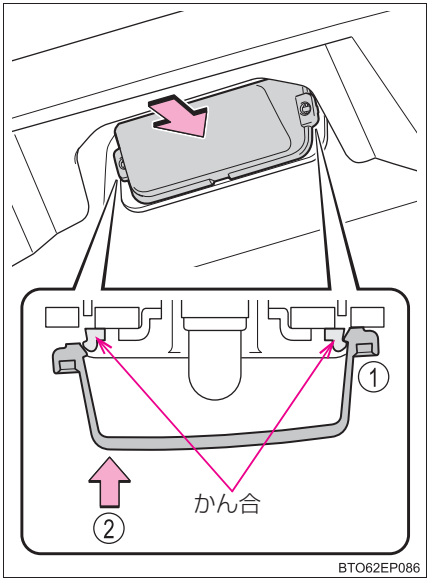


4 レンズを取り付ける

① レンズを左右どちらかのかん合に引っかける

② レンズを押し込む

レンズを取り付けたあとは、レンズ本体を軽く引っ張って、正しく取り付いていることを確認してください。



■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- LED ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- 車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）
- フォグランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯／尾灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）
- 制動灯（LED ヘッドランプ装着車）
- 尾灯（LED ヘッドランプ装着車）
- ハイマウントストップランプ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

LED ヘッドランプ★・車幅灯★・フォグランプ★・サイド方向指示灯／非常点滅灯・制動灯／尾灯★・制動灯★・尾灯★・ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 400

警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....418
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....419
発炎筒.....420
車両を緊急停止するには.....422
水没したときは.....424

7-2. 緊急時の対処法

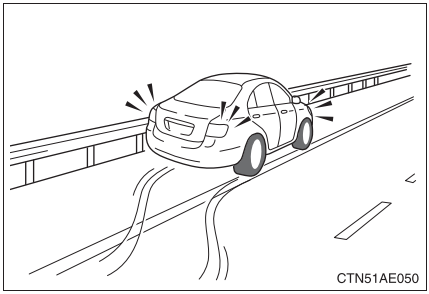
けん引について.....425
警告灯がついたときは.....432
警告メッセージが
表示されたときは.....437
パンクしたときは.....443
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....460
電子キーが正常に働かない
ときは（スマート
エントリー＆スタート
システム装着車）.....462
補機バッテリーが
あがったときは.....464
オーバーヒートしたときは....472
スタックしたときは.....477

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

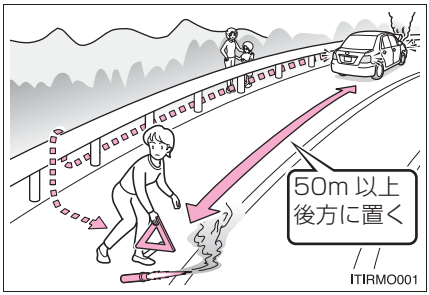
非常点滅灯（→ P. 419）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

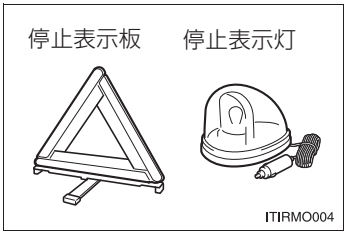
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 420）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

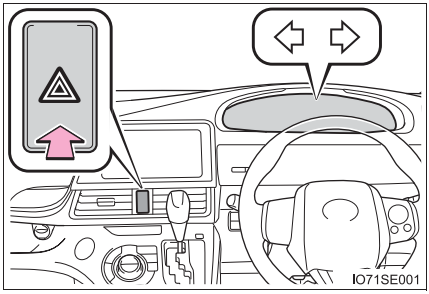


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

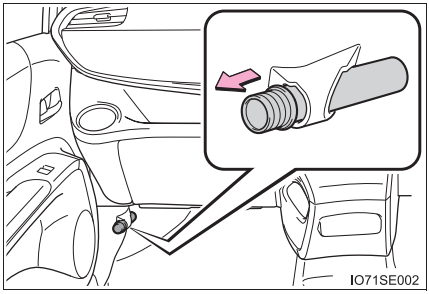
■非常点滅灯について

ハイブリッドシステムが停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

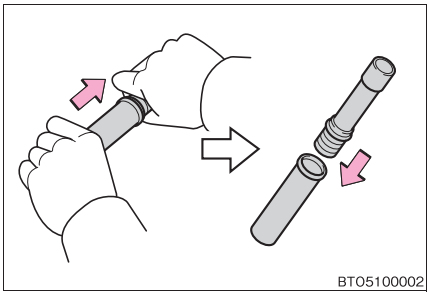
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

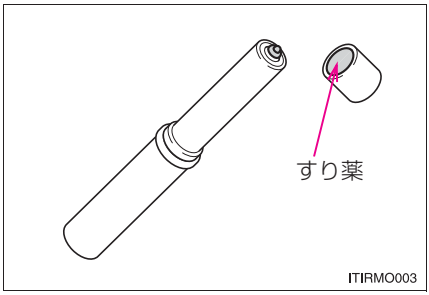


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

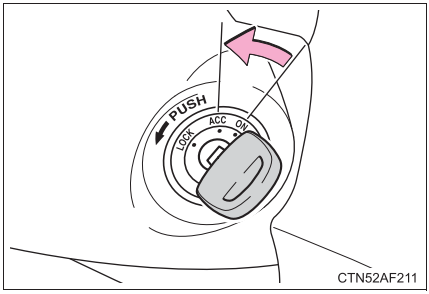
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

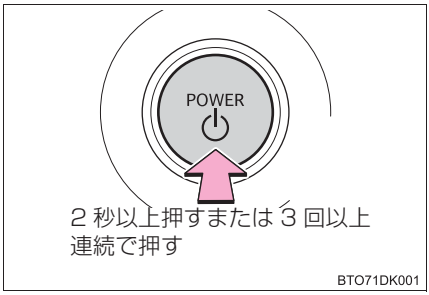
3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：パワースイッチを “ACC” にして、ハイブリッドシステムがを停止する



CTN52AF211

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムがを停止する



BTO71DK001

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

●ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

警告

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントドアガラス・リヤドアガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー※で割ることはできますが、フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※：詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

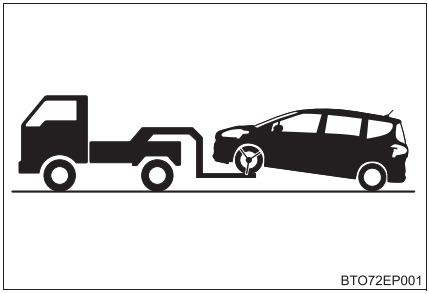
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され車が動かない
- 異常な音がする

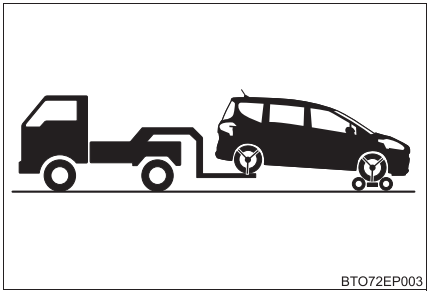
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

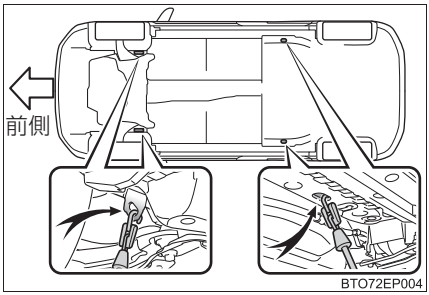
▶ うしろ向きにけん引するときは



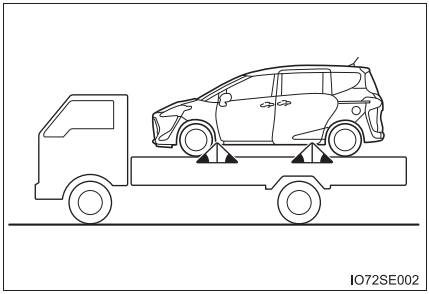
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

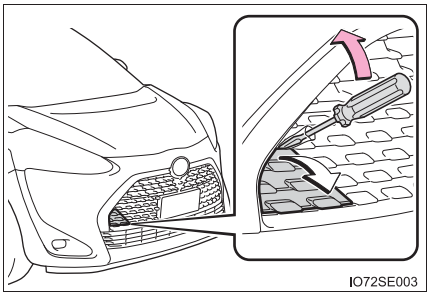


他車にけん引してもらうとき

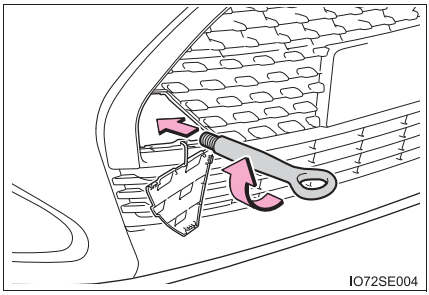
1 けん引フックを取り出す（→ P. 372, 445）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

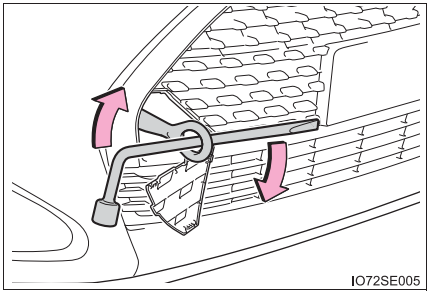


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホイールナットレンチや金属の固い棒などで車体を傷付けないように注意してください。

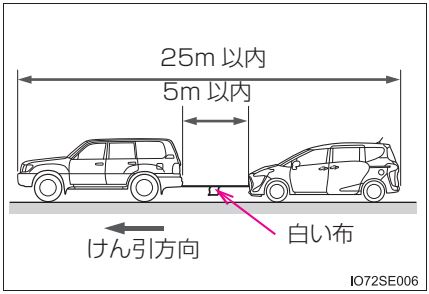


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm×30 cm）以上



7 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを “ON” にしてください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

パーキングサポートブレーキ（静止物）★を OFF にしてください。（→ P. 269）

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

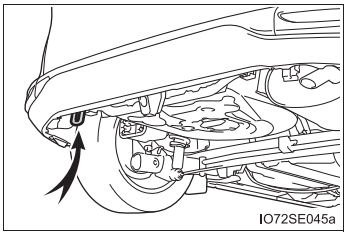
シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 203

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

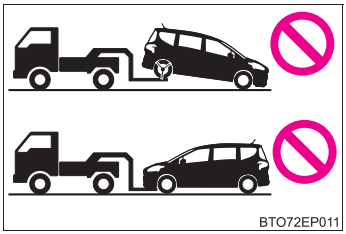
工具袋内に搭載されています。（→ P. 372, 445）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを “LOCK” （スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または OFF （スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

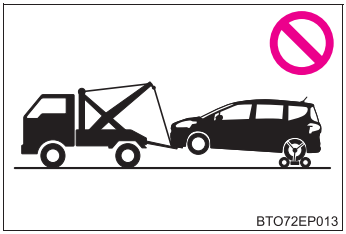
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
※1	**充電警告灯** 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。**
※1	**油圧警告灯（警告ブザー ※2）** エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。**
※1	**高水温警告灯（警告ブザー）** エンジン冷却水温の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危険です。対処方法（→P. 472）**
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS &ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （赤色 / 黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
※1 	**ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯** 警告ブザーが鳴った場合： ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの作動時 ・ドライブスタートコントロールの異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** 警告ブザーが鳴らない場合： ・ブレーキオーバーライドシステムの作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**
	スリップ表示灯 次のいずれかの機能の異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC・ABS システムの作動時は点滅します。 （→ P. 254） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6.3L 以下になった **→ 燃料を補給する**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー ※4） パーキングブレーキがかかっているとき **→ パーキングブレーキを解除する**
※1 	**半ドア警告灯（警告ブザー ※5）** いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
 （点滅または点灯）	**PCS 警告灯★** ・警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ・警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ 要因と対処方法（→ P. 224, 442）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 236**
	PKSB OFF 表示灯★ 警告ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ P. 277**
	マスターウォーニング システムの異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 **→ P. 437**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 油圧警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※4 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま車速が 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※5 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ABS ＆ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

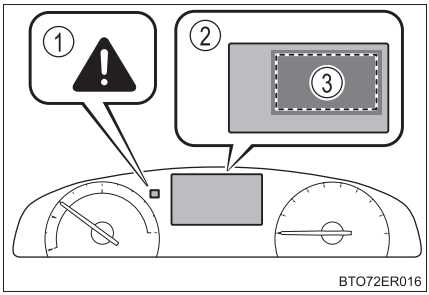
この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	―	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
―	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	―	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	―	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	―	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、警告ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対処してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

●「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されている：
PCS（プリクラッシュセーフティ）警告灯が点滅します。（→ P. 434）

●「VSCがOFFのためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されている：
PCS（プリクラッシュセーフティ）警告灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。（→ P. 255）

●「ガソリン残量が少なくなりました」が表示されている：
燃料残量警告灯が点灯します。（→ P. 433）

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。
対処方法：→ P. 472

■「補機バッテリー（始動用）充電不足　取扱書を確認してください」が表示されたときは

●数秒後※に表示が消えたときは
約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないときは
「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 464）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「充電システム故障」が表示されたときは

充電システムに問題が発生しています。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたときは

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。
シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたときは

一定時間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。
車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「始動時は P レンジに入れてください」が表示されたときは

シフトレバーがP以外の状態でハイブリッドシステムを始動しようとしたときにメッセージが表示されます。
シフトレバーを P にしてからハイブリッドシステムを始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたときは

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアを開けたときに表示されます。
シフトレバーを P にしてください。

■「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください」が表示されたときは

シフトレバーがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。
アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D・B または R にしてください。

■「アクセルペダルが踏まれています」が表示されたときは

シフトレバーがPで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。
アクセルペダルから足を離してください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。
そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。
アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「EV モードに現在切替えできません」または「EV モードが解除されました」が表示されたとき

→ P. 200

■「アクセルとブレーキペダルが両方踏まれています」の警告メッセージが表示されたときは

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。（→ P. 179）
アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

・「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」(→P. 472)

・「補機バッテリー(始動用)充電不足 取扱書を確認してください」(→P. 464)

●「ハイブリッドシステム故障　安全な場所に停車して取扱書を確認」が表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●「エンジン油圧不足　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

●「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要取扱書を確認」が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。

→ 駆動用電池冷却用吸入口がふさがれていないことを確認してください。

→ 駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合はP. 387の要領で清掃してください。

→ 駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「バッテリ保護のため自動で電源を OFF しました」が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電してください。

■「ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります」が表示されたときは

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■LDA(レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報)★の車線逸脱警報について

次のような場合は、車線を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●作動条件以外の車速で走行しているとき

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。(→P. 241)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「前方カメラ一時使用不可　しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。
（要因および対処方法：→ P. 224, 434）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）

●オートマチックハイビーム

●先行車発進告知機能

■「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●ヘッドランプオートレベリングシステム

●オートマチックハイビーム

■シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは

誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

■警告ブザーについて

→ P. 436

⚠ 注意

■「補機バッテリ（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

この車両には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**タイヤがパンクしたときは**

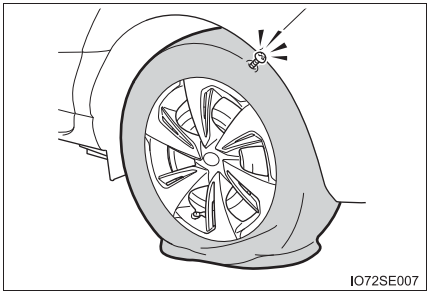
タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 419）
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にする（→ P. 119）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。



・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所がなるべく上になるように車両を移動してください。

知識

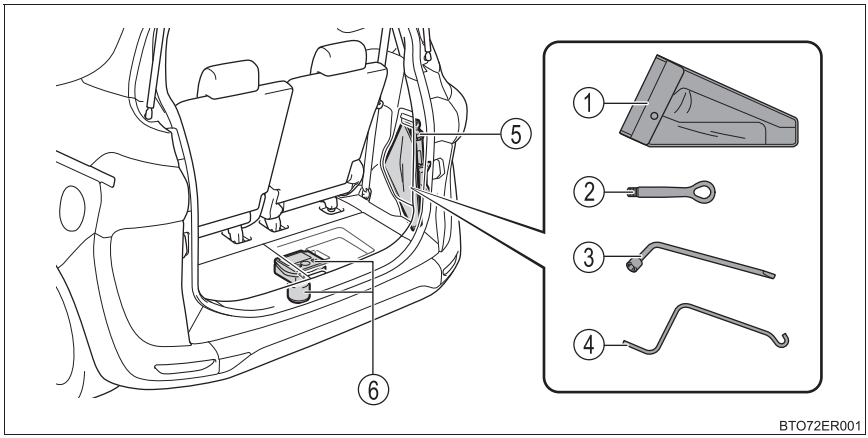
■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

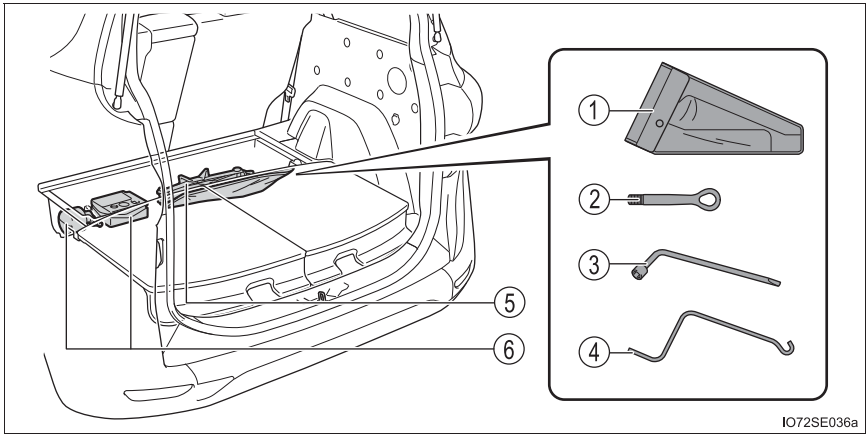
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき；
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ 7人乗り車



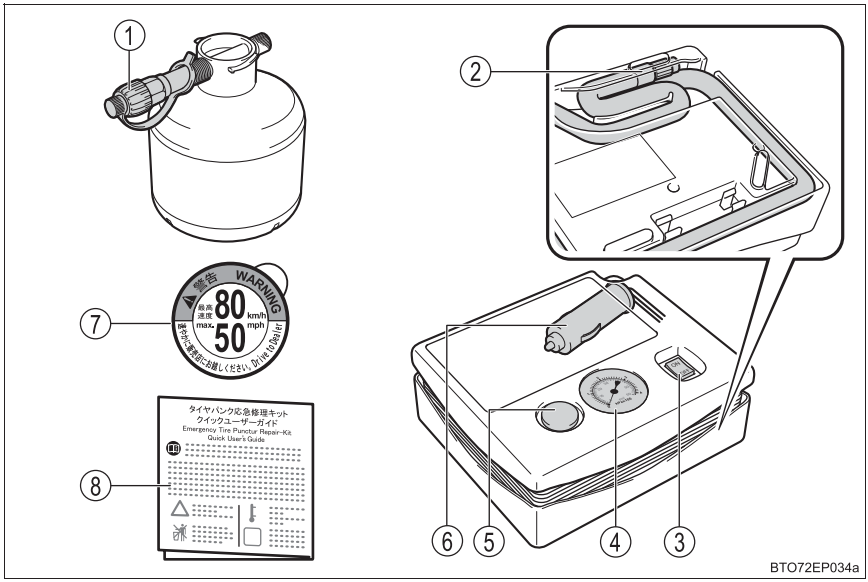
▶ 5人乗り車



① 工具袋
② けん引フック
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキハンドル ※
⑤ ジャッキ ※
⑥ タイヤパンク応急修理キット

※ ジャッキの使い方（→ P. 377）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



① ノズル
② ホース
③ スイッチ
④ 空気圧計
⑤ 空気圧逃がしボタン
⑥ 電源プラグ
⑦ 速度制限ラベル
⑧ タイヤパンク応急修理キット
クイックユーザーガイド

警告

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
  急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

注意

■応急修理キットについて

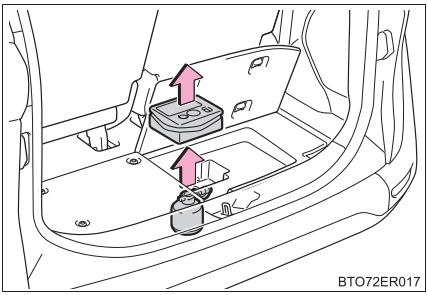
- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

応急修理キットの取り出し方

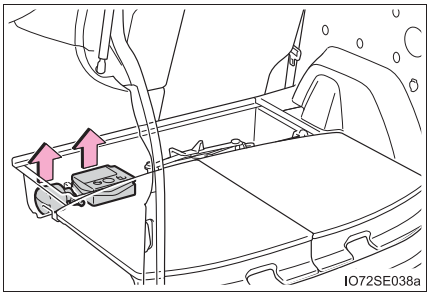
1 デッキボードを取りはずす（→ P. 335）

2 応急修理キットを取り出す

▶ 7 人乗り車



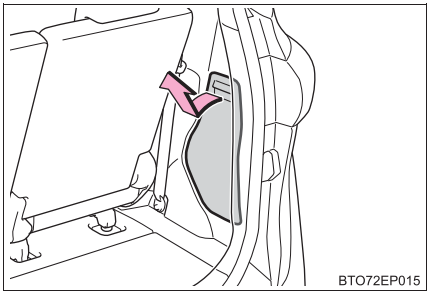
▶ 5 人乗り車



ジャッキの取り出し方

▶ 7 人乗り車

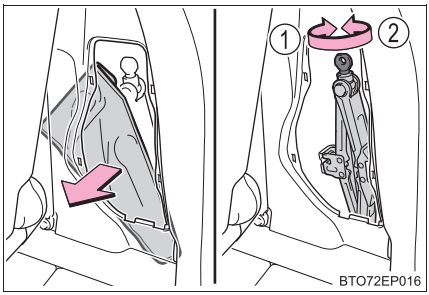
1 ラゲージルーム右側のカバーを取りはずす



2 工具袋を取り出し、ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ



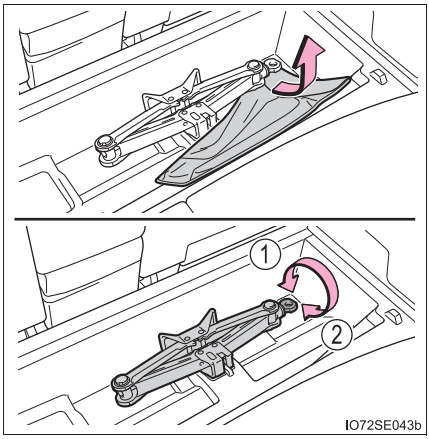
▶ 5 人乗り車

1 デッキボードを取りはずす（→ P. 335）

2 工具袋を取り出し、ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

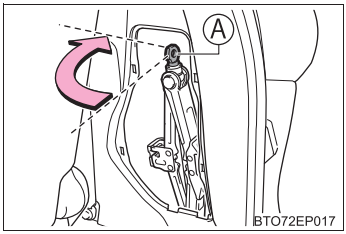


知識

■ジャッキを使用したあとは（7 人乗り車）

もとどおりに車両に搭載してください。ジャッキが正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

ジャッキを収納部にのせて A 部をまわして位置を固定したあと、約 2.0N･m（0.2kgf･cm）以上の力でしっかりと締め付ける（ジャッキを軽く固定したあとに、約 90°～ 180° まわします）



警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、コンプレッサーの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。

●コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●コンプレッサーの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。

●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa　未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

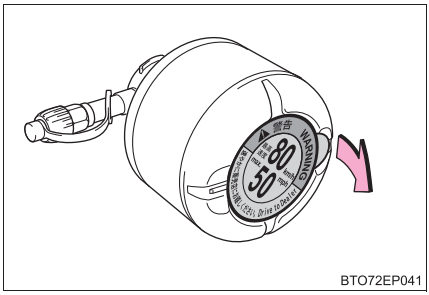
■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットを上下逆さまにして使用しないでください。故障の原因になります。

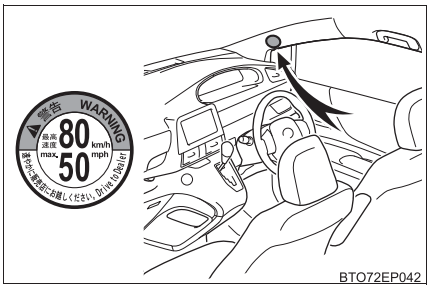
応急修理するとき

1 応急修理キットを取り出す

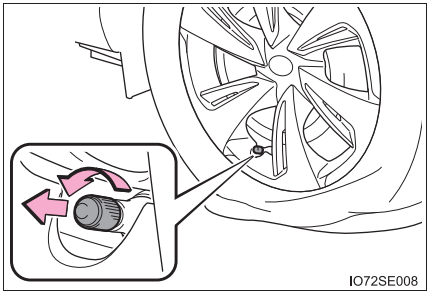
2 ボトルから速度制限ラベルをはがす



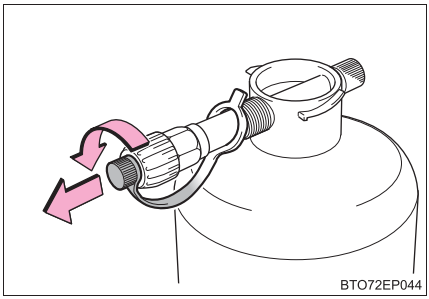
3 速度制限ラベルを図のように貼り付ける



4 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



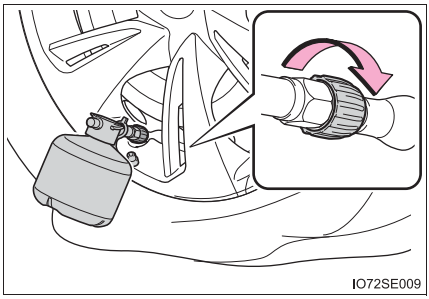
5 ノズルからキャップを取りはずす



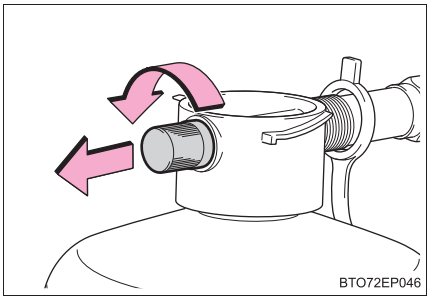
6 ボトルのノズルをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ノズル先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

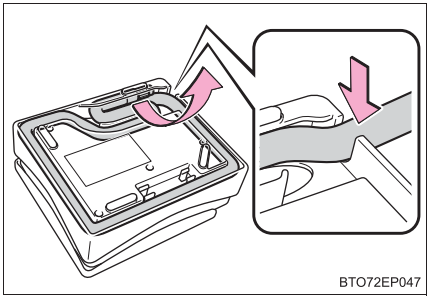
ボトルが右図のように立った状態になるように取り付けてください。
ボトルが地面と干渉する場合は、タイヤのバルブの位置が適切になるように車両を動かしてください。



7 ボトルからキャップを取りはずす

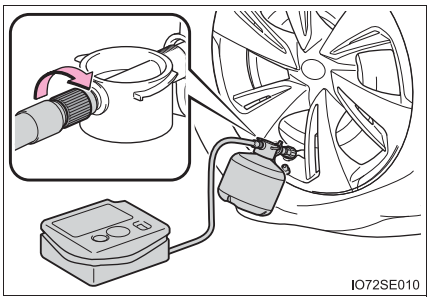


8 コンプレッサーからホースを引き出す

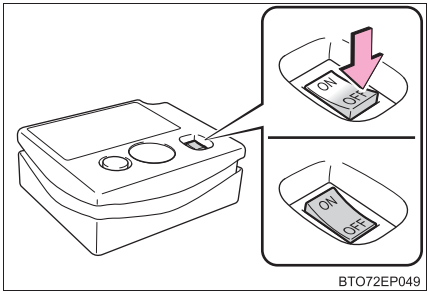


9 ボトルとコンプレッサーを繋げる

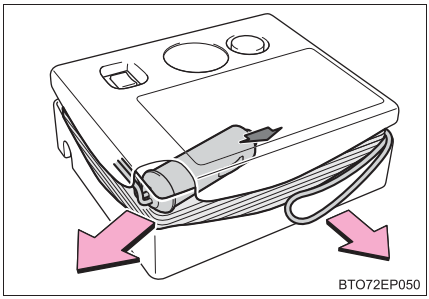
ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。



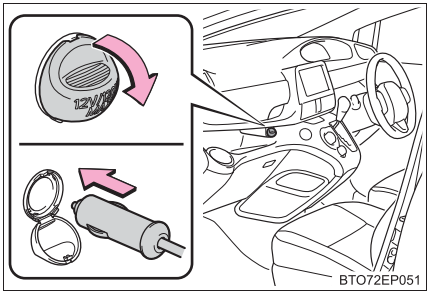
10 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する



11 コンプレッサーから電源プラグを取りはずす



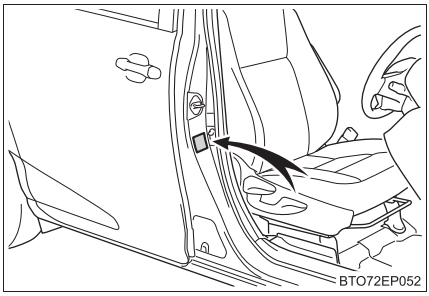
12 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 340）



BTO72EP051

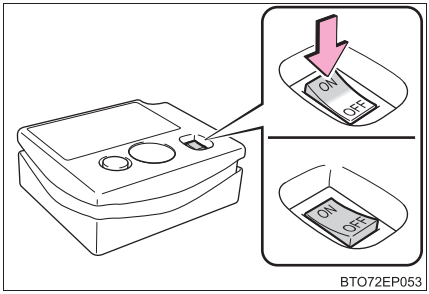
13 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 369）


BTO72EP052

14 ハイブリッドシステムを始動する

15 コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、パンク補修液と空気を充填する



BTO72EP053

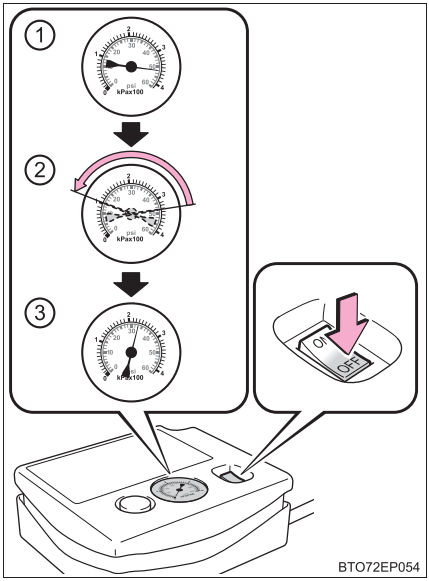
16 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① スイッチ “ON” 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇します。

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になります。

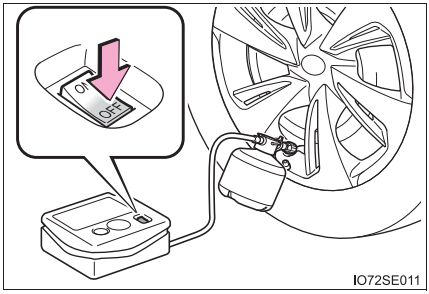
③ 指定空気圧になるまで充填します。

指定空気圧まで充填できない、もしくは充填時間が 5 分以上、または作業時間が 35 分以上かかっても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。



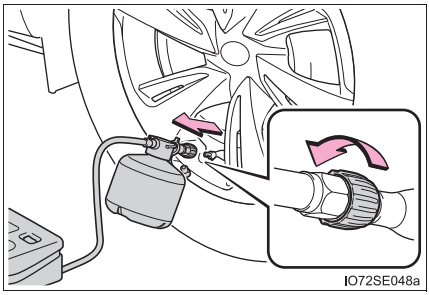
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 459）

17 コンプレッサーのスイッチを “OFF” にする



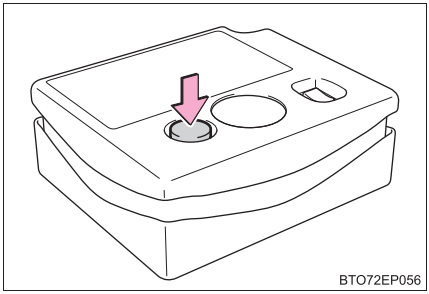
18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからボトルのノズルを取りはずす

ノズルを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。



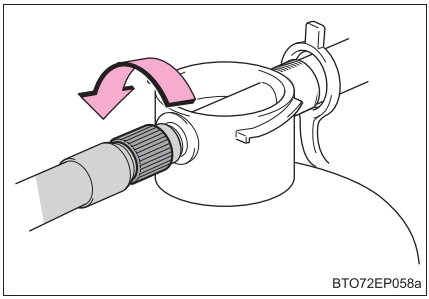
19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 空気圧逃がしボタンを押す

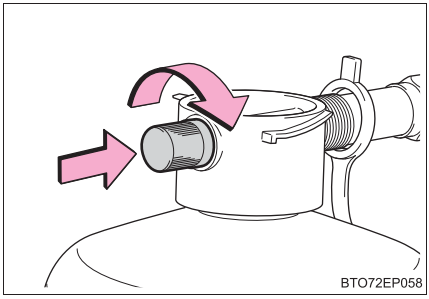

BTO72EP056

21 ボトルからコンプレッサーのホースを取りはずす

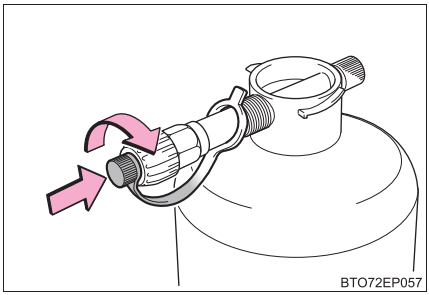
ホース先端を反時計まわりにまわして取りはずします。


BTO72EP058a

22 ボトルにキャップを取り付ける


BTO72EP058

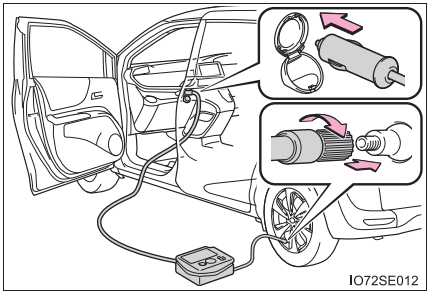
23 ノズルにキャップを取り付ける


BTO72EP057

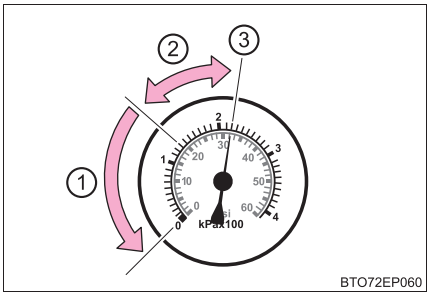
24 いったん、ボトルとコンプレッサーを収納する（→ P. 448）

25 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

26 走行後、平坦な場所に停車し、コンプレッサーを接続する



27 コンプレッサーのスイッチを約5 秒間 “ON” にし、“OFF” にして空気圧を確認する



① 空気圧が130kPa未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：28 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 483）の場合：29 へ

28 コンプレッサーのスイッチを “ON” にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行あとにあらためて 26 から実施する

29 コンプレッサーを収納する（→ P. 448）

30 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理後のタイヤのバルブについて

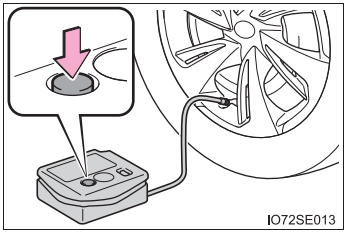
応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
  有効期限はボトルに表示されています。
  有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 外気温度が－ 45 ℃～ 80 ℃で保管してください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 空気圧逃がしボタンを押して空気を抜く



2 空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを “ON” にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことを確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 189, 193）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キー★が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 462）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 79）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 464）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 364）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーン鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 464）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 364）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーがＰの位置にあることを確認する
3. パワースイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

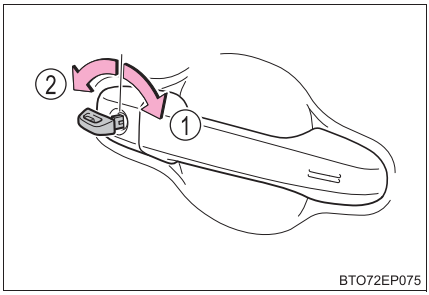
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 139）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 105）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② 全ドア解錠



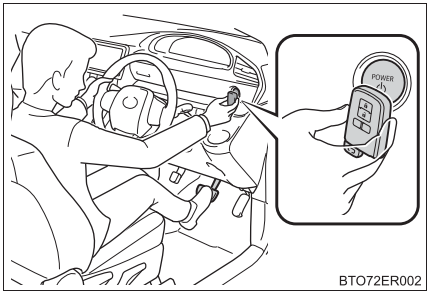
BTO72EP075

ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルをしっかり踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

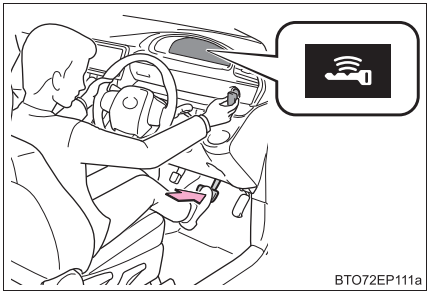
電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。
カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



BTO72ER002

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されていることを確認する
表示されないとハイブリッドシステムは始動しません。


BTO72EP111a

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 395）

■モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 194）

■電子キーが正常に働かない場合

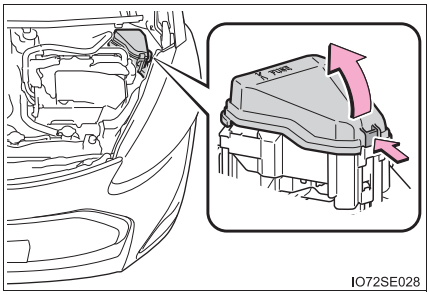
- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→ P. 484）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→ P. 138）

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

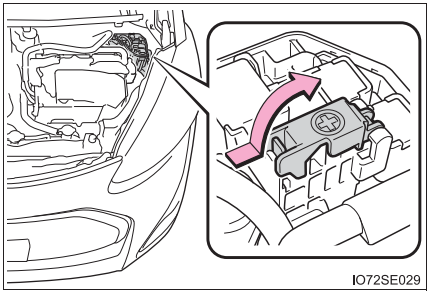
1 ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす
→ P. 398



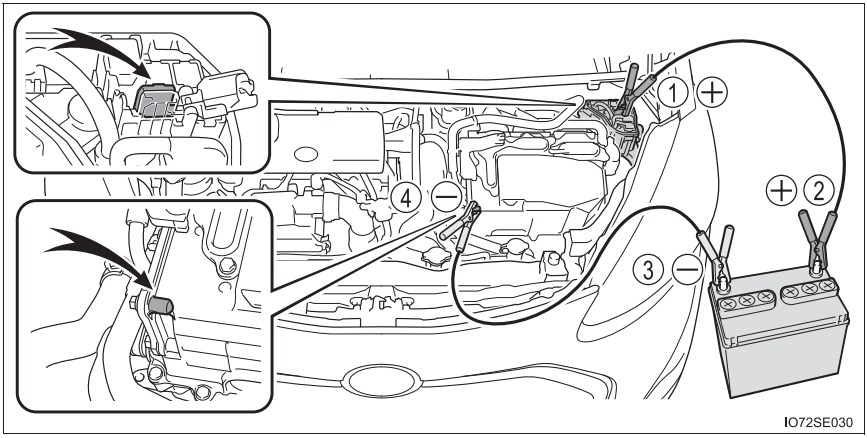
IO72SE028

2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます


IO72SE029

3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

5 スマートエントリー＆スタートシステム装着車は、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ヒューズボックスのカバーは奥にあるツメ（2ヶ所）を先に引っかけてから取り付けてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。（→ P. 491）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→ P. 364

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など（スマートエントリー＆ スタートシステム装着車）

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

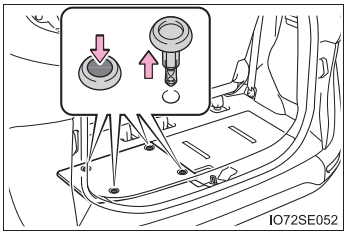
●車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリー脱着時、車両は補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを点検・交換するとき

次の要領で補機バッテリーのカバーを取りはずします。

▶7 人乗り車

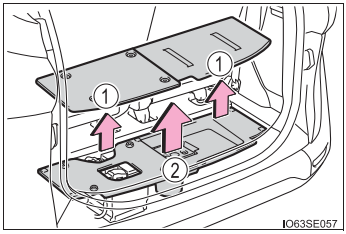
1 クリップを取りはずす



2 デッキボードとデッキアンダートレイを取りはずす

① デッキボード

② デッキアンダートレイ



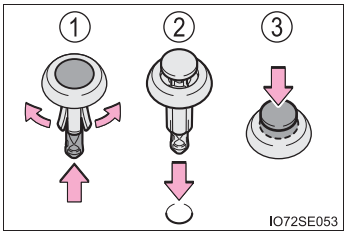
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

クリップは次のように取り付けます。

① クリップの中央部分を押し上げる

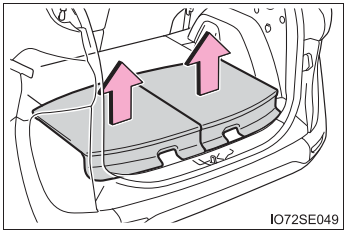
② 挿し込む

③ クリップ中央部分を押す

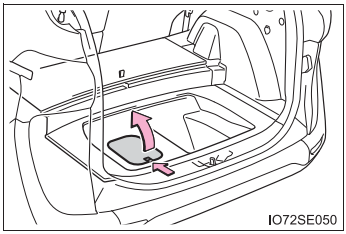


▶5 人乗り車

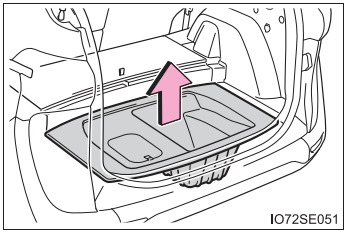
1 デッキボード（うしろ側）を取りはずす



2 点検するとき：
カバーをはずす



交換するとき：
デッキアンダートレイを取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■補機バッテリーを交換するとき

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN0）、20 時間率容量（20HR）が同等（35Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（240A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

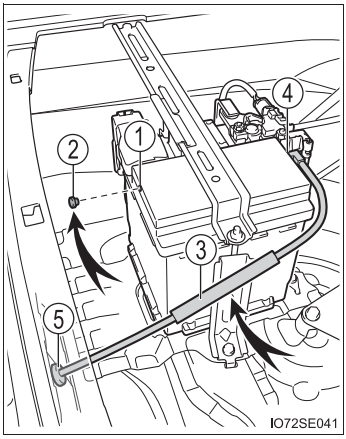
●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください

・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
・エルボが排気ホースと補機バッテリー排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
・排気穴栓がエルボが接続しない側の排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
・エルボ / 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

① 排気穴
② 排気穴栓
③ 排気ホース
④ 排気穴
⑤ 車両穴部



警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、補機バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤って補機バッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤って補機バッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

- 早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
- 補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

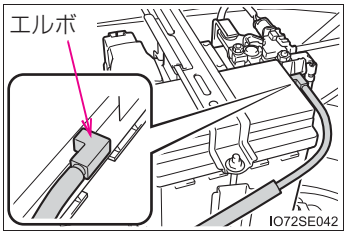
警告

■補機バッテリーの交換について

●液栓やインジケーターがステーに近いと、補機バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。

●補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●補機バッテリー交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースとつながったエルボと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの－端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

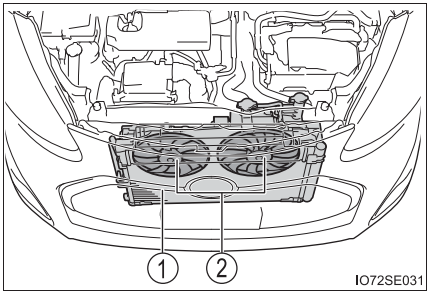
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



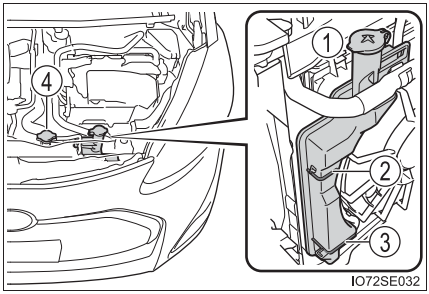
4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

② “F”（上限）

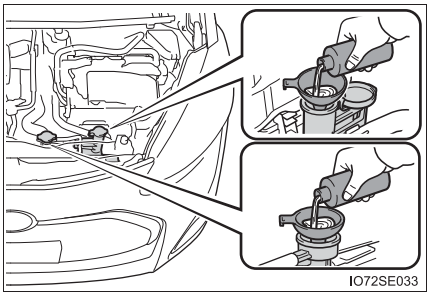
③ “L”（下限）

④ ラジエーターキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えていない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

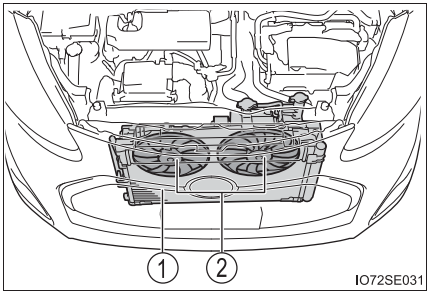
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

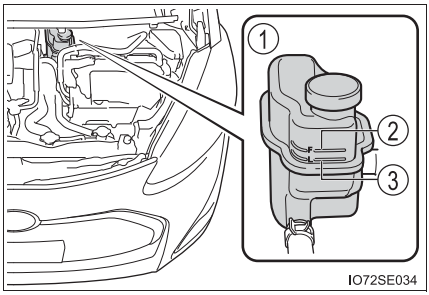


4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

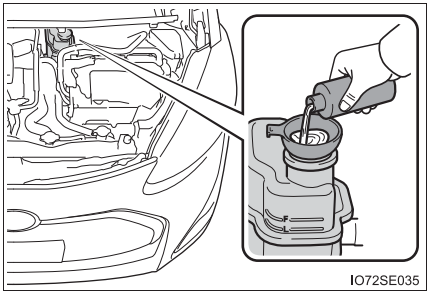
② “F”（上限）

③ “L”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 482）

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■**冷却水を入れるときの注意**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

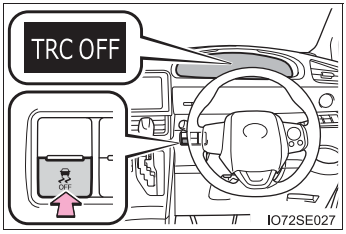
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてハイブリッドシステムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪を取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押してTRCをOFFにしてください。



警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....480
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....484
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....491

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	42

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正キヤッスルモーターオイル SN 0W-16※2 —API SN/RC, SAE 0W-16 トヨタ純正キヤッスルモーターオイル SN 0W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正キヤッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	3.4	3.7

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

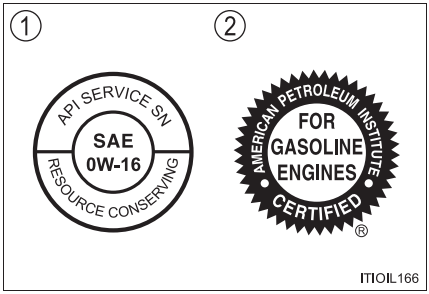
※2 0W-16 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

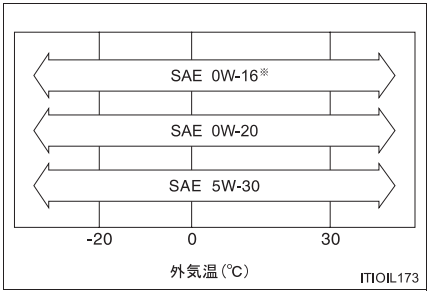
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-16 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	ガソリンエンジン	5.0
	インバーター	1.8

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］ （参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.4

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	71 以上

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、294N（30kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（30.6kgf）のときのノッチ※数	6 ～ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”）という音のことです

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
2.3

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
185/60R15 84H	15×5 1/2J	240（2.4）	250（2.5）
195/50R16 84V	16×6J	240（2.4）	

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車） ロービーム（バルブタイプ：H11） ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	 55 60
	車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	パーソナルランプ／フロントルームランプ	8
	リヤルームランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載の無いランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
シエンタ	NHP170G	1NZ-FXE （1.5L ガソリン）	2LM	FF （前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更できる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して変更する項目を選択し、◎スイッチを押す

3 ∧または∨を押して設定したい項目を選択し、◎スイッチを押す

設定を終了する場合は、↩スイッチを押します。

カスタマイズ設定一覧

① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

② トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 86, 90）

機能の内容		初期設定	変更後	①	②
夜間調光		レベル 4	レベル 1 ～ 6	○	―
EV インジケーター		ON	OFF	○	―
リヤシートリマインダー		ON	OFF	○	―
ドライブインフォメーション ※1		平均燃費	走行時間	○	―
		平均車速			
エコウォレット	ガソリン価格	130	1 ～ 999	○	―
	比較燃費	OFF	1 ～ 100	○	―
日付	本日	2015.01.01	※2	○	―
	誕生日	―	※2	○	―
操作ガイド表示		ON	OFF	○	―
走行結果表示		ON	OFF	○	―
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節		0	－ 2 ～＋ 2	―	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節		0	－ 2 ～＋ 2	―	○

※1 1 行目と 2 行目に表示させる項目を選択できます

※2 メーター操作スイッチで日付・誕生日の設定ができます

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 137）（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー＆スタートシステムの作動	あり	なし	―	○
ワイヤレス機能	あり	なし	―	○
作動の合図（ブザー）	あり	なし	―	○
作動の合図（ブザー音量調整）	5	レベル 0 ～ 7	―	○
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	―	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	○
		120 秒		
半ドア警告ブザー	あり	なし	―	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	―	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 109）（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	―	○
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	―	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	○
		120 秒		

■ パワースライドドア（→ P. 116）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
インストルメントパネル内のパワースライドドアスイッチでスライドドアを開閉する	長押し	短押し	―	○
キーの ボタンまたは、 ボタン★操作でパワースライドドアを開ける	スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：長押し	なし	―	○
		スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：単押し		
		スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：2 回押し		
		スライドドア施錠時・解錠時共に 2 回押し		
		スライドドア施錠時・解錠時共に長押し		
閉作動中のブザー	あり	なし	―	○
スライドドアハンドルスイッチの反応時間	0.3 秒	OFF	―	○
		0.5 秒		
		0.8 秒		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム★（→ P. 207）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度	0	レベル -2 ～ +2	―	○
暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	○

■ イルミネーション（→ P. 327）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
室内照明の点灯制御	あり	なし	―	○
消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	―	○
		30 秒		
解錠後の作動	あり	なし	―	○
パワースイッチ “LOCK” 後の作動（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）	あり	なし	―	○
パワースイッチ OFF 後の作動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	あり	なし	―	○
検知エリア接近時の作動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	あり	なし	―	○

■ ドアミラー（→ P. 169）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
オート電動格納作動★	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	―	○
		パワースイッチと連動		

■ LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★（→ P. 237）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
警報感度	高い	普通	○	―

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車発進告知機能★（→ P. 247）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
告知設定	ON	OFF	○	―
告知タイミング	普通	早い	○	―
		遅い		

■ クリアランスソナー★（→ P. 259）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
クリアランスソナー機能	ON	OFF	○	―
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	○	―
		レベル 3		
フロントセンサーの感知可能距離	遠い	近い	―	○
バックセンサーの感知可能距離	遠い	近い	―	○

■ パーキングサポートブレーキ★（→ P. 268）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
パーキングサポートブレーキ機能	ON	OFF	○	―

■ オートエアコン（→ P. 316）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	―	○

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■カスタマイズを行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P. 122
パーキングサポートブレーキ★		P. 277
パノラミックビューモニター★	・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・補機バッテリー能力低下時 ・ステアリングセンサー脱着後 ・ステアリングセンサー異常時	P. 309
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P. 174

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....494
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....498
アルファベット順さくいん.....500
五十音順さくいん.....502

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）をなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を作ることができます。（→ P. 106）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車：
  キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください（→ P. 108）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 395）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときはパワースイッチを OFF にしてください（→ P. 194）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 113, 139）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください（→ P. 119）

スライドドアが全開にならない

- 中間ストッパーがかかっていませんか？
  給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 121）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動しない（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

- シフトレバーはＰになっていますか？（→ P. 189）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 191）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 464）

ハイブリッドシステムが始動しない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 193）
- シフトレバーはＰになっていますか？（→ P. 196）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 137）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 196）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 462）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 464）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
  パワースイッチの位置が “ON” になっていますか？

  パワースイッチの位置が “ON” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 203）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  パワースイッチは ON モードになっていますか？

  パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 203）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
  盗難防止のため、キーをパワースイッチから抜くとロックされます（→ P. 190）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 196）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 172）

パワースイッチが自動的に OFF になった（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 195）

警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 498）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 432, 437 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 443）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 477）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	パワースイッチにキーが挿してある	P. 191
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 209

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 138
	シフトポジションが P 以外になっている	P. 138
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 209
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 107
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 138
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 138

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 111
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 434
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 433
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 183
前方の車両と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）★が作動した	P. 225
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★を使用している	P. 237
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能★が作動した	P. 247

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....316
ABS
（アンチロックブレーキシステム）.....253
ACC
（アクセサリー）.....190
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）.....253
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....253
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）.....483
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....481
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）..... 61, 65
LDA
（レーンディパーチャーアラート）.....237
LED
（ライトエミッティングダイオード）.....416
PCS
（プリクラッシュセーフティ）.....225
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）.....268
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）..... 33
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）.....253
TRC
（トラクションコントロール）.....253
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....253

五十音順さくいん

あ

アースポイント（補機バッテリーあがりの処置）.....464
アームレスト（リヤアームレスト）.....353
アウターミラー（ドアミラー）...169
　操作.....169
アクセサリーコンセント.....343
アクセサリーソケット.....340
アクセサリーモード.....194
アシストグリップ.....351
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....253
アンテナ
　スマートエントリー&スタートシステム.....137
　ルーフアンテナ.....356

い

イージークローザー
　スライドドア.....120
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....189, 193
EV ドライブモード.....199
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....189, 193
位置交換（タイヤローテーション）.....368
イベントデータレコーダー（EDR）.....8
イモビライザーシステム.....79
イルミネーテッドエントリーシステム.....329
インジケーター（表示灯）
　ハイブリッドシステムインジケーター.....86
　表示灯.....84
　READY.....189, 193
インテリアランプ（室内灯）.....327
　操作.....328
　ワット数.....483
インナーミラー.....167

う

ウインカー（方向指示灯）.....205
　電球（バルブ）の交換.....406, 411, 415
　方向指示レバー.....205
　ワット数.....483
ウインドウ.....172
　ウインドシールドデアイサー.....318
　ウォッシャー.....212, 214
　パワーウインドウ.....172
　リヤウインドウデフォッガー.....318
ウインドウロックスイッチ.....172
ウインドシールドデアイサー.....318
ウォーニングランプ（警告灯）.....82, 432
ウォッシャー.....212, 214
　液の補充.....367
　スイッチ.....212, 214
　タンク容量.....483
　冬の前の準備・点検.....312
動けなくなったときは（スタック）.....477
運転.....178
　運転を補助する装置.....253
　寒冷時の運転.....312
　正しい運転姿勢.....24
　手順.....178
運転席シートベルト非着用警告灯.....433

え

エアコン 316
オートエアコン 316
フィルターの交換 384
エアバッグ 33
SRS エアバッグ警告灯..... 432
作動条件..... 37
配置 33
エネルギーモニター..... 93
LDA（レーンディパーチャー
アラート／車線逸脱警報）..... 237
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）..... 253
機能 253
パワーステアリング警告灯.... 433
パワーステアリング警告
ブザー..... 433
エレクトロニカリーコントロールド
ブレーキ（ECB）..... 253
エンジン
イモビライザーシステム..... 79
エンジン警告灯 432
オーバーヒート 472
ハイブリッドシステムが
始動できない 460
ハイブリッドシステムの
始動方法..... 189, 193
パワー（イグニッション）
スイッチ..... 189, 193
ボンネット..... 363
エンジンオイル 480
冬の前の準備・点検.....312
メンテナンスデータ.....480
油圧警告灯 432
油圧警告ブザー.....432
エンジンスイッチ
（パワースイッチ).....189, 193
エンジンフード（ボンネット）....363
開け方 363
エンジンルーム
エンジンルームから
蒸気が出ている.....472

お

オイル（エンジンオイル).....480
オートエアコン 316
オートマチックハイビーム.....243
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）.....209
オーバーヒート.....472
オープナー
給油口.....218
ボンネット 363
お子さまを乗せるとき.....41
ウインドウロックスイッチ 172
子供専用シート.....42
シートベルトの着用.....26
ステアリングヒーターに
関する警告.....324
チャイルドシートの
取り付け 62, 65, 68
チャイルドプロテクター 119
オドメーター.....86
機能.....86
TRIP スイッチ.....87

か

カーテンシールドエアバッグ 33
カーペット 360
　洗浄 360
　フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 86
回生ブレーキ 71
外装の電球（バルブ）..... 401
　交換要領 401
　ワット数 483
買い物フック 350
カスタマイズ機能 484
型式 483
カップホルダー 332
カメラ
　サイドカメラ 301
　前方カメラ 220
　バックカメラ 301
　フロントカメラ 301
ガラスの曇り止め
　（リヤウインドウ
　デフォッガー）..... 318
ガレージジャッキ 366
冠水路走行 187
寒冷時の運転 312

き

キー 104
　キーナンバープレート 104
　キーの構成 104
　キーレスエントリー 109, 137
　キーをなくした 106
　正常に働かない 462
　解錠・施錠ができない 462
　電子キー 104
　電池が切れた 395, 462
　ハイブリッドシステムが
　　始動できない 460
　メカニカルキー 105
　ワイヤレスリモコン 109
キーレスエントリー 109, 137
　スマートエントリー&
　　スタートシステム 137
　ワイヤレスドアロック 109
給油 216
　給油のしかた 216
緊急時シートベルト固定機構 29
緊急時の対処
　オーバーヒートした 472
　キーの電池が切れた 395, 462
　警告灯がついた 432
　けん引 425
　故障したときは 418
　車両を緊急停止する 422
　水没したときは 424
　スタックした 477
　電子キーが正常に働かない 462
　ハイブリッドシステムが
　　始動できない 460
　発炎筒 420
　パンクした 443
　補機バッテリーがあがった 464
緊急ブレーキシグナル 253

く

空気圧（タイヤ）..... 483
　メンテナンスデータ 483
区間距離計
（トリップメーター）..... 86
　機能 86
　TRIP スイッチ 87
曇り取り
　フロントウインドウガラス.... 318
　ミラーヒーター 318
　リヤウインドウ
　　デフォッガー 318
クラクション（ホーン）..... 165
クリアランスソナー..... 259
　警告メッセージ 264
　警告ブザー 262
　操作 259
クリアランスランプ（車幅灯）... 207
　スイッチ..... 207
　電球（バルブ）の交換..... 407
　ワット数..... 483
クリップ
　フロアマット 22
クルーズコントロール..... 249
グローブボックス..... 331

け

警音器（ホーン）.....165
計器類（メーター）.....86
　警告灯 82
　照度調整 87
　表示灯 84
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ.....90
　メーター 86
警告灯.....82
　ABS ＆ブレーキアシスト 433
　SRS エアバッグ.....432
　エンジン 432
　エンジンオイル圧力.....432
　高水温 432
　シートベルト非着用.....433
　充電.....432
　スリップ表示灯.....433
　電子制御ブレーキ.....432
　燃料残量 433
　パーキングブレーキ未解除 434
　パワーステアリング.....433
　半ドア 434
　PCS.....434
　PKSB OFF 表示灯 434
　プリテンショナー.....432
　ブレーキ 432
　ブレーキオーバーライド
　　システム／ドライブスタート
　　コントロール.....433
　マスターウォーニング.....434

警告ブザー
クリアランスソナー 262
高水温..... 432
シートベルト非着用 433
車線逸脱警報機能 237
衝突警報（PCS）..... 225
スマートエントリー&
スタートシステム..... 138
パーキングブレーキ
未解除走行時 434
パワーステアリング 433
半ドア..... 111, 138
半ドア走行時..... 434
PKSB 272
ブレーキ..... 432
油圧 432
ランプ消し忘れ 209
リバース..... 203
化粧ミラー（バニティミラー）... 339
けん引..... 425
けん引のしかた 425
フック..... 427

こ

交換
エアコンフィルター 384
キーの電池..... 395
タイヤ..... 372
電球（バルブ）..... 401
ヒューズ..... 398
フロントワイパー 390
工具（ツール）.....372, 445
光軸調整ダイヤル 208
航続可能距離.....91
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....408
ワット数 483
高電圧部位.....74
コーションラベル 74
子供専用シート 42
選択方法 47
取り付け方 62, 65, 68
コンライト
（自動点灯・消灯装置）.....207

さ

サードシート.....150
サービスプラグ 77
サイドエアバッグ 33
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....415
方向指示レバー.....205
サイドミラー（ドアミラー）.....169
操作 169
ミラーヒーター.....318
サンバイザー 339

し

シート 143, 144, 150
アームレスト 353
子供専用シート 42
サードシート 150
シートアレンジ 156
シートヒーター 324
セカンドシート 144
正しい運転姿勢 24
調整 143
手入れ 360
フロントシート 143
ヘッドレスト 152
シートヒーター 324
シートベルト 26
お子さまの着用 29
緊急時シートベルト固定機構 ... 29
シートベルト非着用警告灯 433
正しく着用するには 26
着け方・はずし方 26
手入れ 360
妊娠中の方の着用 31
シートベルトプリテンショナー 29
機能 29
プリテンショナー警告灯 432
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意） 77
室内灯 327
操作 328
ワット数 483
始動のしかた 189, 193
シフトポジション 202
シフトレバー 201
シフトレンジの切りかえ 201
シフトロックシステム（解除ボタン） 203
操作 201
リバース警告ブザー 203
シフトレバーがシフトできないときは 203
締め付けトルク（ホイール） 381
ジャッキ
ガレージジャッキ 366
車載ジャッキ 372, 445
ジャッキハンドル 372, 445
車幅灯
スイッチ 207
電球（バルブ）の交換 407, 415
ワット数 483
車両型式 483
車両仕様（スペック） 480
車両接近通報装置 71
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 422
ジュニアシート 42
充電用 USB 端子 341
瞬間燃費 95
助手席アッパーボックス 331
仕様（車両仕様） 480

す

スイッチ
アクセサリーコンセント..... 343
イグニッション 189, 193
EV ドライブモード..... 199
ウインドウロック 172
ウインドシールド
デアイサー 318
ウォッシャー 212, 214
エコドライブモード 202
LDA..... 238
オートマチックハイビーム.... 243
クルーズコントロール..... 249
シートヒーター 326
ステアリングスイッチ..... 354
ステアリングヒーター..... 325
ドアミラー 169
ドアロック 111
パノラミックビュー
モニター 281
パワーウインドウ 172
パワースイッチ 189, 193
PCS 229
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 419
VSC OFF 254
フォグランプ 211
ランプ..... 207
リヤウインドウ
デフォッガー 318
ワイパー..... 212, 214
スタック 477
ステアリングヒーター..... 325
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 165
位置調整 165
スイッチ 354
ステアリングヒーター 325
ステアリングロック 191, 196
解除できないとき..... 191, 196
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換..... 415
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 312
スピードメーター 86
スペック（車両仕様）..... 480
スマートエントリー＆
スタートシステム..... 137
アンテナの位置..... 137
カスタマイズ設定..... 484
警告ブザー 138
作動範囲 137
正常に働かないとき..... 462
節電機能 138
電波がおよぼす影響
について 142
ドアの解錠・施錠..... 109
ハイブリッドシステム
の始動 193
スモールランプ（車幅灯）..... 207
スイッチ 207
電球（バルブ）の交換..... 407
ワット数 483
スライドドア 115
イージークローザー..... 120
スマートエントリー＆
スタートシステム 117
ドアガラス 172
半ドア警告灯 434
パワースライドドア..... 116
ロックレバー 115
ワイヤレスリモコン..... 116

せ

清掃 356, 360
アルミホイール 357
外装 356
駆動用電池冷却用吸入口／フィルター 387
シートベルト 360
内装 360
制動灯
電球（バルブ）の交換 415
セカンドシート 144
積算距離計（オドメーター） 86
機能 86
TRIP スイッチ 87
セキュリティインジケーター 79
先行車発進告知機能 247
センサー
前方センサー 220
ライトセンサー 209
洗車 356
前照灯（ヘッドランプ） 207
スイッチ 207
電球（バルブ）の交換 404, 405, 415
ライトセンサー 209
ランプ消し忘れ警告ブザー 209
ランプ消し忘れ防止機能 209
ワット数 483

そ

速度計（スピードメーター） 86

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯） 205
電球（バルブ）の交換 406, 411, 415
方向指示レバー 205
ワット数 483
タイヤ 368
空気圧 382, 483
交換 377
締め付けトルク 381
点検 368
パンクしたときは 443
ホイールサイズ 483
ローテーション（位置交換） 368
タイヤが空まわりする（スタックした） 477
タイヤチェーン 312

ち

チェーン（タイヤチェーン） 312
チャイルドシート 42
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 65
シートベルトでの固定 62
選択方法 47
トップテザーアンカレッジでの固定 68
チャイルドプロテクター 119
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ） 206
操作 206
パーキングブレーキ未解除警告灯 434
未解除走行時警告ブザー 434
メンテナンスデータ 482

つ

ツール（工具）.....372, 445

て

ディスプレイ
エネルギーモニター 93
トリップインフォメーション...86
手入れ.....356, 360
アルミホイール.....357
外装 356
駆動用電池冷却用吸入口／
フィルター.....387
シートベルト.....360
内装 360
テールランプ（尾灯）.....207
スイッチ.....207
電球（バルブ）の交換.....415
デッキアンダートレイ.....336
デッキフック 337
デッキボード 335
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー）.....318
電気モーター 70
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....401
ワット数.....483
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....480
電子キー 104
作動範囲.....137
正常に働かないとき 462
節電機能.....138
電池が切れた.....395, 462
電池交換.....395
電池交換（キー）.....395

と

ドア 109
スマートエントリー&
スタートシステム.....137
チャイルドプロテクター.....119
ドアガラス 172
ドアロックスイッチ.....111
半ドア警告灯 434
半ドア走行時警告ブザー.....434
ロックレバー 112
ワイヤレスリモコン.....109
ドアミラー.....169
操作.....169
ミラーヒーター.....318
盗難防止装置
イモビライザーシステム.....79
時計 352
トップテザーアンカレッジ.....68
Toyota Safety Sense.....219
トラクションコントロール
（TRC）.....253
トランスミッション 201
操作.....201
メンテナンスデータ.....482
トリップインフォメーション.....86
トリップメーター 86
機能.....86
TRIP スイッチ.....87

な

内装
収納装備 330
手入れ.....360

に

荷物
積むときの注意 188
荷物固定用フック
（デッキフック） 337

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタックした） 477

ね

燃費
瞬間燃費 95
平均燃費 91
燃料 480
給油 216
種類 480
燃料残量警告灯 433
容量 480
燃料計 87

は

パーキングサポート
ブレーキ（PKSB） 268
警告灯 277
警告ブザー 272
警告メッセージ 277
操作 269
表示灯 83
パーキングブレーキ 206
操作 206
パーキングブレーキ
未解除警告灯 434
未解除走行時警告ブザー 434
メンテナンスデータ 482
パーソナルランプ 328
操作 328
ワット数 483
排気ガス 40
ハイビーム（ヘッドランプ） 207
オートマチックハイビーム 243
スイッチ 207
電球（バルブ）の交換 405
ワット数 483
ハイブリッドシステム
EV ドライブモード 199
運転のアドバイス 310
オーバーヒート 472
回生ブレーキ 71
ガス欠になったとき 76
緊急始動機能 461
緊急時の停止方法 422
緊急停止システム 75
駆動用電池冷却用吸入口 75
警告メッセージ 437
高電圧部位 74
サービスプラグ 77
事故が発生したとき 77
始動できないときは 460
始動方法 189, 193
車両接近通報装置 71
充電 72
注意 74
特徴 70
特有の音と振動 73
パワー（イグニッション）
スイッチ 189, 193
補機バッテリーがあがった 464
メンテナンス・
修理・廃車するとき 73

ハイブリッドシステム
インジケーター.....86
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換.....415
ハザードランプ（非常点滅灯）...419
スイッチ.....419
電球（バルブ）
の交換.....406, 411, 415
ワット数.....483
挟み込み防止機構
スライドドア.....121
パワーウインドウ.....173
発炎筒.....420
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換.....408
ワット数.....483
バックドア.....131
バッテリー（駆動用電池）.....74
警告メッセージ.....437
充電について.....72
搭載位置.....74
冷却用吸入口.....75
バッテリー（補機バッテリー）
搭載位置.....364
補機バッテリーがあがった....464
交換するとき.....467, 469
バニティ（化粧用）ミラー.....339
パノラミックビューモニター.....280
バルブ（電球）
交換要領（外装バルブ）.....401
ワット数.....483
パワーウインドウ.....172
ウインドウロックスイッチ....172
閉めることができない
ときは.....174
操作.....172
挟み込み防止機構.....173
巻き込み防止機構.....173
パワーコントロールユニット.....74
パワー（イグニッション）
スイッチ.....189,193
パワーステアリング.....253
機能.....253
警告灯.....433
パワースライドドア.....116
操作.....116
挟み込み防止機構.....121
パンクした.....443
番号灯
（ライセンスプレートランプ）...207
スイッチ.....207
電球（バルブ）の交換.....414
ワット数.....483
ハンドル
（ステアリングホイール）.....165
位置調整.....165
スイッチ.....354
ステアリングヒーター.....325

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 253
ヒーター
オートエアコン 316
シートヒーター 324
ステアリングヒーター..... 324
ミラーヒーター 318
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 419
スイッチ..... 419
電球（バルブ）
の交換.....406, 411, 415
ワット数..... 483
尾灯（テールランプ）..... 207
スイッチ..... 207
電球（バルブ）の交換..... 415
ヒューズ 398
表示灯 84
日よけ（サンバイザー）..... 339
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 253

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方.....464
フォグランプ.....211
スイッチ 211
電球（バルブ）の交換.....415
ワット数 483
ブザー
クリアランスソナー.....262
高水温 432
シートベルト非着用.....433
車線逸脱警報機能.....237
衝突警報（PCS）.....225
スマートエントリー&
スタートシステム 138
パーキングブレーキ
未解除走行時.....434
パワーステアリング.....433
半ドア 111, 138
半ドア走行時 434
PKSB.....272
ブレーキ 432
油圧.....432
ランプ消し忘れ.....209
リバース 203
フック
買い物フック 350
けん引フック 427
デッキフック 337
フロアマット固定フック 22

フューエルメーター（燃料計）..... 87
フューエルリッド（給油口）..... 216
冬の前の準備（寒冷時の運転）... 312
冬用タイヤ 312
プリクラッシュセーフティ
（PCS）..... 225
機能 225
PCS スイッチ 229
PCS 警告灯 434
ブレーキ
回生ブレーキ 71
緊急ブレーキシグナル..... 253
警告ブザー 432
パーキングブレーキ 206
ブレーキ警告灯 432
メンテナンスデータ 482
ブレーキアシスト..... 253
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 433
機能 253
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 183
ブレーキフルード..... 482
フロアマット 22
フロントシート..... 143
正しい運転姿勢 24
調整 143
手入れ..... 360
ヘッドレスト 152
フロント方向指示灯..... 205
電球（バルブ）の交換..... 406
方向指示レバー 205
ワット数..... 483

へ

平均燃費.....91
ヘッドランプ.....207
スイッチ 207
電球（バルブ）
の交換 404, 405, 415
ライトセンサー.....209
ランプ消し忘れ警告ブザー 209
ランプ消し忘れ防止機能 209
ワット数 483
ヘッドランプオートレベリング
システム.....209
ヘッドレスト.....152
ベビーシート.....42

ほ

ホイール
交換（タイヤ).....372
メンテナンスデータ 483
方向指示灯.....205
電球（バルブ）
の交換 406, 411, 415
方向指示レバー.....205
ワット数 483
補機バッテリー
交換するとき 469
補機バッテリーが
あがったときは.....464
補機バッテリーについて 364
ホーン（警音器）.....165
保証 9
ボトルホルダー 332
ボンネット.....363
開け方 363

ま

マスターウォーニング 434
マルチインフォメーション
ディスプレイ 90

み

ミラー
インナーミラー 167
ドアミラー 169
バニティミラー 339
ミラーヒーター 318

め

メーター（計器類）..... 86
計器類..... 86
警告灯..... 82
照度調整..... 87
表示灯..... 84
マルチインフォメーション
ディスプレイ 90
メカニカルキー..... 105
メンテナンスデータ..... 480

も

モーター（電気モーター）..... 70
モーターでの走行
（EV ドライブモード）..... 199

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 484
ユーティリティホール 337
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 477
油脂類 480

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）.....207
スイッチ 207
電球（バルブ）の交換.....414
ワット数 483
ラゲージルーム
デッキアンダートレイ 336
デッキフック 337
デッキボード 335
ユーティリティホール 337
ラジエーター
オーバーヒート.....472
メンテナンスデータ 482
ランプ
室内灯 327
電球（バルブ）の交換.....401
パーソナルランプ.....328
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....419
フォグランプ 211
ヘッドランプ（前照灯）.....207
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）.....205
ライトセンサー.....209
ランプ消し忘れ警告ブザー 209
ランプ消し忘れ防止機能 209
ルームランプ 328
ワット数 483
ランプ消し忘れ警告ブザー.....209
ランプ消し忘れ防止機能.....209

り

リヤアームレスト..... 353
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 318
リヤシート 144, 150
リヤシートリマインダー 123
リヤ方向指示灯..... 205
電球（バルブ）の交換..... 411
方向指示レバー 205
ワット数..... 483
リヤワイパー 214

る

ルームミラー
（インナーミラー）..... 167
ルームランプ（室内灯）..... 327
操作 328
ワット数..... 483

れ

レーンディパーチャー
アラート（LDA）.....237
冷却水.....482
高水温警告灯 432
冬の前の準備 312
メンテナンスデータ.....482
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート.....472
メンテナンスデータ.....482
レバー
給油口.....218
シフト.....201
ハンドル位置調整レバー.....165
方向指示.....205
ボンネット解除.....363
ロック（レバー）.....112

ろ

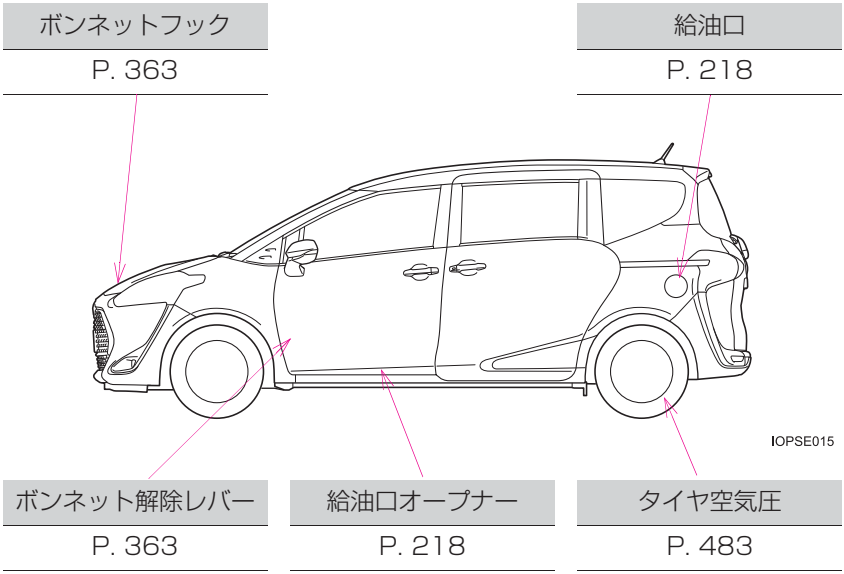
ロック
ウインドウロック 172
シフトロック 203
スマートエントリー&
スタートシステム..... 137
チャイルドプロテクター..... 119
ドア 109
ワイヤレスリモコン 109

わ

ワイパー&
ウォッシャー..... 212, 214
ワイパーブレード（寒冷地用）... 313
ワイヤレスリモコン..... 105
作動の合図..... 110
操作 109
電池の交換..... 395
半ドア警告ブザー 111
ワックス 356
ワット数 483

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	42L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン　P. 480 ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 483
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 3.4L オイルとフィルター交換時 3.7L
エンジンオイルの種類	P. 480

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ミ-65

M 52J78
01999－52J78
NAI-2018年９月４日
2018年９月11日 初版
シエンタ(ハイブリッド車)